

# 地域医療教育に関する全国調査 報告書

令和2年12月

全国地域医療教育協議会



## はじめに

全国の大学で地域医療や地域保健に関する実践的な教育が導入されるようになってきましたが、近年、その教育方策として地域基盤型医学教育が重視されています。地域基盤型医学教育では、保健・医療・福祉・介護の多岐にわたる地域ヘルスケアシステム全般を地域で体験しながら学びますが、同時に地域の特性や社会資源などの背景を理解することが重要です。地域との協働や学びの促進のためにカリキュラム全体を地域に落とし込む必要があります。平成28年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムの地域医療教育に関連した記載には、社会的側面を含め地域医療・地域保健と地域包括ケアシステムに関わる幅広い内容に関して学ぶとともに、多様な施設環境において低学年から一貫して学ぶことの重要性が記載されており、地域に根ざした教育が求められていることがよくわかります。平成13年3月発表された最初の医学教育モデル・コア・カリキュラムに地域医療教育の記載がほとんどなかったことを考えると、格段に充実した記載内容となっていますし、改定のたびにリアルな地域医療を見据えた記載に変化してきたように感じます。

全国地域医療教育協議会では、地域医療教育に関する全国調査を2011年度と2014年度に実施してきましたが、この調査によって地域医療教育の実施体制とカリキュラムがともに充実する方向で変化していることを確認しました。こうした変化を踏まえながら、この度、2020年1月から第3回目の調査を実施いたしました。本調査の実施にあたりましては、前回同様に文部科学省医学教育課と全国医学部長病院長会議に多大なご協力とアドバイスを賜りました。改めまして厚く御礼を申し上げます。また、日常業務に加えて新型コロナウイルスへの対応等でご多忙の中、多くの大学から回答を頂くことができ、ご協力頂いた皆様には心より感謝を申し上げる次第です。

卒前医学教育においては、多様なニーズに対応できる医師の養成が強く求められていますが、中でも地域医療教育を進めて行くにあたっては、地域ニーズを見据えながら地域と大学が連携して教育体制と地域基盤型の教育カリキュラムを作り上げていく必要があります。全国地域医療教育協議会では、今後も地域医療教育の向上と地域医療の発展に資するよう活動してまいります。本報告書が地域医療教育と地域医療の向上に少しでも貢献できるよう願いつつ、報告書発行のご挨拶といたします。

2020年12月  
全国地域医療教育協議会 代表世話人  
前田 隆浩

全国地域医療教育協議会(<http://square.umin.ac.jp/j-come/>)

(事務局)〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1 自治医科大学地域医療学センター

TEL: 0285-58-7394(ダイヤルイン) FAX: 0285-44-0628

Mail: dcfm@jichi.ac.jp

〈世話人・事務局リスト〉

	氏名	所 属
世話人	阿波谷 敏 英	高知大学医学部 家庭医療学講座
	井口 清 太 郎	新潟大学大学院医歯学総合研究科 新潟地域医療学講座
	伊藤 智 範	岩手医科大学 医学教育学講座 地域医療学分野
	大脇 哲 洋	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野
	岡山 雅 信	神戸大学大学院医学研究科 地域医療教育学部門
	小谷 和 彦	自治医科大学地域医療学センター 地域医療学部門
	谷 憲 治	徳島大学大学院医歯薬学研究部 総合診療医学分野
	長谷川 仁 志	秋田大学大学院医学系研究科 医学教育学講座
	前田 隆 浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 総合診療学分野
	前野 哲 博	筑波大学医学医療系 地域医療教育学
	松本 正 俊	広島大学医学部 地域医療システム学講座
吉村 学	宮崎大学医学部 地域医療・総合診療医学講座	
事務局	三瀬 順 一	自治医科大学地域医療学センター 地域連携型医学教育・研修部門

〈代議員リスト〉

大学名	代議員
札幌医科大学	辻 喜久
旭川医科大学	長谷部 直幸
岩手医科大学	伊藤 智範
東北大学	石井 正
秋田大学	長谷川 仁志
東北医科薬科大学	住友 和弘
筑波大学	前野 哲博
自治医科大学	小谷 和彦
群馬大学	村上 正巳
埼玉医科大学	柴崎 智美
聖マリアンナ医科大学	松田 隆秀
新潟大学	井口 清太郎
山梨大学	佐藤 弥
信州大学	中澤 勇一

大学名	代議員
帝京大学	金城 謙太郎
東京医科歯科大	竹村 洋典
東京医科大学	三 苫 博
金沢大学	島上 哲朗
金沢医科大学	高村 昭輝
福井大学	井階 友貴
岐阜大学	牛越 博昭
浜松医科大学	井上 真智子
名古屋大学	岡崎 研太郎
名古屋市立大学	大原 弘隆
藤田保健衛生大学	石原 慎
愛知医科大学	宮田 靖志

大学名	代議員
三重大学	若林 英樹
滋賀医科大学	杉本 俊郎
京都大学	小西 靖彦
神戸大学	岡山 雅信
奈良県立医科大学	赤井 靖宏
鳥取大学	谷口 晋一
島根大学	佐野 千晶
岡山大学	佐藤 勝
広島大学	松本 正俊
山口大学	黒川 典枝

大学名	代議員
徳島大学	谷 憲治
香川大学	星川 広史
愛媛大学	川本 龍一
高知大学	阿波谷 敏英
九州大学	貝沼 茂三郎
福岡大学	安元 佐和
佐賀大学	杉岡 隆
長崎大学	前田 隆浩
熊本大学	松井 邦彦
大分大学	宮崎 英士
宮崎大学	吉村 学
鹿児島大学	大脇 哲洋
琉球大学	武村 克哉

# 目 次

回答大学サマリ(大学種別回答数).....	1
問1 :貴大学に地域医療教育部門(医学生の地域医療教育を担当する部門)はありますか?.....	2
問2-1:地域医療教育部門の設置形態について教えてください。【複数回答可】.....	3
問2-2:教員等の配置数.....	5
問3 :貴大学に、総合診療部門はありますか。.....	7
問4-1:総合診療部門の設置形態について教えてください。.....	8
問4-2:総合診療部門の設置種別.....	9
問4-3:教員等の配置数.....	10
問4-4:関連施設を含む医師の人数(いわゆる医局員)は何人ですか。.....	11
問4-5:基幹型施設として、総合診療専門医プログラムを持っていますか。.....	13
問4-6:大学病院での業務内容を教えてください。.....	14
問4-7:地域医療教育部門との関係について教えてください。.....	15
問4-8:地域医療教育部門との関係について、具体的な業務分担等について教えてください。.....	16
問5-1:貴学には、地域医療の教育を目的としたプログラムはありますか。.....	18
問5-2:地域医療の教育を目的とした講義や演習は何コマありますか。.....	19
問5-3:この中で、地域包括ケアシステムについての教育は行っていますか。.....	21
問5-4:地域医療の教育を目的とした実習について.....	22
問5-5:実習の実施場所.....	23
問5-6:実習の対象職種.....	24
問5-7:実習場所詳細.....	25
問5-8:全国の地域医療臨床実習一覧.....	27
問6-1:医学生に対する地域医療教育をテーマとしたFD等(意見交換会等を含む)は実施していますか。.....	41
問6-2:FDの年間平均実施回数.....	42
問6-3:職種別の参加状況.....	43
問6-4:FD等の実施内容について.....	44
問7-1:医学生を対象とした地域医療教育プログラムについて他学部・他学科、他大学との連携はありますか。.....	46
問7-2:他学部・他学科、他大学との連携内容についての自由記載.....	47
問8-1:交通費は誰がどのように負担していますか。.....	49
問8-2:交通費の負担についての自由記載.....	50
問8-3:交通手段は、どのようにしていますか。.....	52
問8-4:交通手段についての自由記載.....	53
問8-5:宿泊を伴う場合、宿泊費は誰がどのように負担していますか。.....	55
問8-6:宿泊費の負担についての自由記載.....	56
問8-7:実習費用について、学生が全部・一部負担している場合、お金の扱い(徴収・管理)について教えてください。.....	58
問8-8:学生が全部・一部負担しているお金の扱いについての自由記載.....	59
問8-9:学外の実習施設に対して、大学から実習費や謝金等の経費を支出していますか。.....	61
問8-10:実習費や謝金等の経費支出についての自由記載.....	62
問8-11:地域医療教育部門の教員の学外教育プログラムへのかかわり.....	64
問9 :その他、補足事項およびご意見.....	66
地域医療教育に関する実態調査(令和元年度)調査票.....	67

## 【結果の概要】

1. 国内全82大学中、今回調査に協力いただけた大学は74大学(90.2%)であった。
2. 回答のあった74大学中、地域医療教育部門があると回答した大学は63大学(85.1%)であった。
3. 医学生地域医療教育を担当する部門がある63大学のうち、地域医療教育部門を常設部門として設置している大学が42大学(66.7%)と最も多く、次に寄附講座28大学(44.4%)、兼任部門4大学(6.3%)の順であった。
4. 地域医療教育部門への教員等の配置については、教授143人(56大学にて配置)、准教授74人(35大学にて配置)、講師71人(39大学にて配置)、助教168人(45大学にて配置)、その他100人(26大学にて配置)であった。
5. 総合診療部門があると回答した大学は67大学(90.5%)であった。  
大学種別の割合では、多い順に公立大学(100%)、私立大学等(89.7%)、国立大学(89.5%)だった。
6. 総合診療部門を附属病院の診療部門として設置している大学が30大学(44.8%)と最も多く、次に医学部に設置された講座17大学(25.4%)、兼任部門医学部・附属病院兼設15大学(22.4%)の順であった。
7. 総合診療部門を専任部門(学内配置)として設置している大学が50大学(74.6%)と最も多く、次に兼任部門6大学(9.0%)、専任部門(詳細不明)3大学(4.5%)の順であった。
8. 総合診療部門への教員等の配置については、教授97人(57大学にて配置)、准教授62人(34大学にて配置)、講師59人(37大学にて配置)、助教192人(50大学にて配置)、その他157人(40大学にて配置)であった。
9. 関連施設を含む医師の人数は、942人で、66大学で配置があり1大学平均14.1人が配置されていた。
10. 総合診療部門があると回答した67大学中、基幹型施設として、総合診療専門医プログラムを持っていると回答した大学は59大学(88.1%)であった。
11. 総合診療部門があると回答した67大学中、大学病院での業務内容を外来診療のみ行っていると回答した大学は24大学(35.8%)で、外来も病棟診療も行っていると回答した大学は40大学(59.7%)であった。
12. 地域医療教育部門があり、総合診療部門があると回答した59大学中、地域医療教育部門との関係については、別々に業務を行っていると回答した大学は22大学(37.3%)で、一部共同して業務を行っていると回答した大学は24大学(40.7%)で、同じ部門として業務を行っていると回答した大学は13大学(22.0%)であった。
13. 回答のあった74大学中、全ての大学において地域医療の教育を目的としたプログラムがあると回答した。
14. 地域医療の教育を目的としたプログラムがあると回答した74大学中、70大学で地域医療の教育を目的とした講義・演習を行っていた。4年生に導入している大学が46大学と最も多く、次に1年生、3年生に導入している大学が38大学で、5、6年生では比較的少なかった。
15. 地域医療の教育を目的としたプログラムがあると回答した74大学中、地域包括ケアシステムについての教育を行っていると回答した大学は57大学(77.0%)であった。
16. 回答のあった74大学中、地域医療の教育を目的とした実習を実習ありと回答した大学は72大学(97.3%)であった。
17. 実習の実施場所に関して、学外の病院や診療所、介護施設での実施が多い傾向にあり、必修科目でも同様だった。また選択科目では訪問看護ステーションなどでの実施が多い傾向にあり、選択することで少人数となり、実施できる実習内容が増えたことが窺える。
18. 回答のあった74大学中、FD等(意見交換会等を含む)を実施していると回答した大学は35大学(47.3%)であった。
19. FDを実施している35大学中、年間のFD変換平均実施回数は平均2.2回であった。
20. FDに参加する職種については、地域医療機関臨床教授等以外の医師と学内教育が最多で、FDを実施している25大学(71.4%)で参加していた。

21. 74大学中37大学(50.0%)で他学部・他学科、他大学と連携があった。
22. 地域医療実習がある72大学中、一部補助があるが39大学(54.2%)と最も多く、  
学生が全額負担しているが19大学(26.4%)であった。
23. 交通手段について、「公共交通機関のみを使う」大学が19大学(26.4%)で、「公共交通機関に加え、交通の便が悪い場合はタクシーなどを使用している」大学が18大学(25.0%)であった。  
また、24大学(33.3%)では交通手段を学生にまかせていた。
24. 宿泊費の負担について、一部補助がある(無料宿泊施設提供を含む)大学が最も多く34大学(47.2%)で、  
次いで全て補助がある(無料宿泊施設提供を含む)大学が27大学(34.5%)であり、8割以上の大学で何らかの補助が用意されていた。しかし、8大学(11.1%)では学生が全額負担しており、公立大学で多い傾向があった。
25. 実習費用の管理について、その他の回答が最も多かったが、一部の大学では計画的・組織的に徴収・管理されていた。
26. 学外の実習施設への実習費や謝金等について一部の実習施設に支払っているが33大学(45.8%)と最も多く、  
すべての実習施設に支払っているが28大学(38.9%)であった。

# 地域医療教育に関する全国調査

## 結果のまとめ

### 【集計・報告書作成にあたって】

集計にあたっては、回答の不明瞭な点や矛盾点などを出来る限り各大学に問い合わせながら回答を正確に反映させるよう試みたが、一部で前後の関連や記載から解釈して適宜修正を加えた。報告書は調査票の質問項目順に記載し、自由記載の掲載にあたっては大学名が明らかにならないように修正した。

多くの項目で大学種別の集計を試みたが、大学の特性を考慮して基本的に下記の6グループに分類して集計した。

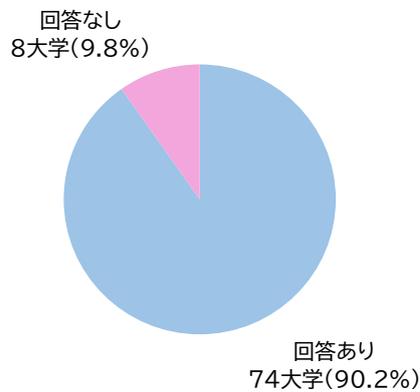
1. 全大学(1):全国の大学医学部・医科大学のうち回答のあった74大学
2. 全大学(2):全大学(1)から自治医科大学、産業医科大学を除いた72大学
3. 国立大学:全国の国立大学医学部・医科大学のうち回答のあった38大学
4. 公立大学:全国の公立医科大学のうち回答のあった7大学
5. 私立大学等(1):全国の私立大学医学部・医科大学のうち回答のあった29大学
6. 私立大学等(2):私立大学(1)から自治医科大学、産業医科大学を除いた27大学



## 回答大学サマリ(大学種別回答数)

	全大学(1) (82 大学)		全大学(2) (79 大学)		国立大学 (43 大学)		公立大学 (8 大学)		私立大学等(1) (31 大学)		私立大学等(2) (29 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
回答あり	74	90.2	72	91.1	38	88.4	7	87.5	29	93.5	27	93.1
回答なし	8	9.8	7	8.9	5	11.6	1	12.5	2	6.5	2	6.9

回答サマリ  
全大学(1)(82大学)



回答サマリ



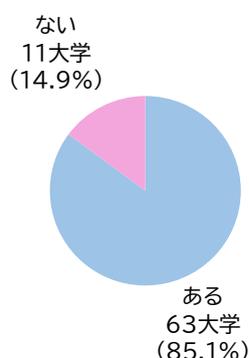
国内全 82 大学中、今回調査に協力いただけた大学は 74 大学 (90.2%) であった。  
大学種別の割合では、多い順に私立大学等(93.5%)、国立大学(88.4%)、公立大学(87.5%)となった。

問1 貴大学に地域医療教育部門(医学生の地域医療教育を担当する部門)はありますか？

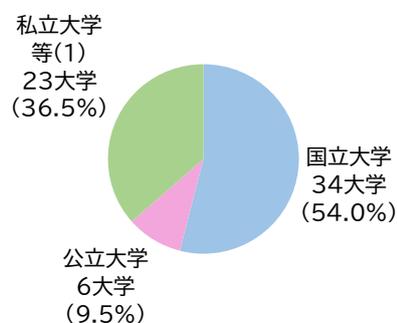
	全大学(1) (74 大学)		全大学(2) (72 大学)		国立大学 (38 大学)		公立大学 (7 大学)		私立大学等(1) (29 大学)		私立大学等(2) (27 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
ある	63	85.1	62	86.1	34	89.5	6	85.7	23	79.3	22	81.5
ない	11	14.9	10	13.9	4	10.5	1	14.3	6	20.7	5	18.5

※以降の集計は回答のあった大学を母数として算出しています。

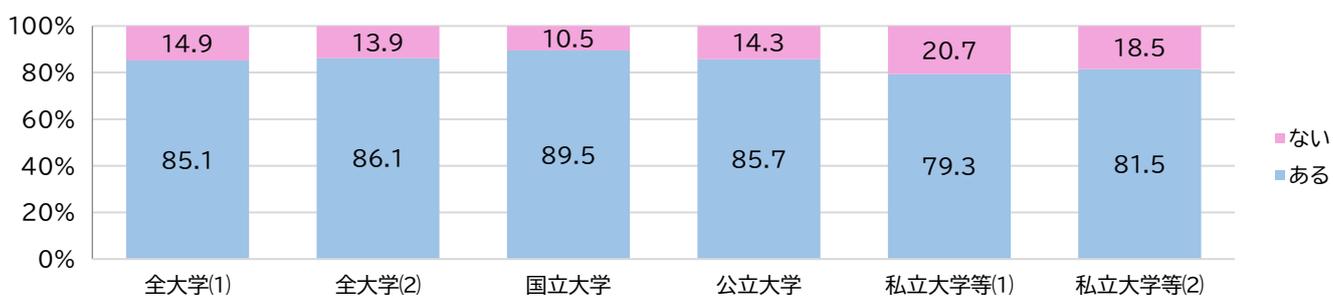
地域医療教育部門の有無  
全大学(1)(74大学)



地域医療教育部門の大学種別割合  
全大学(1)(74大学)



地域医療教育部門の設置状況



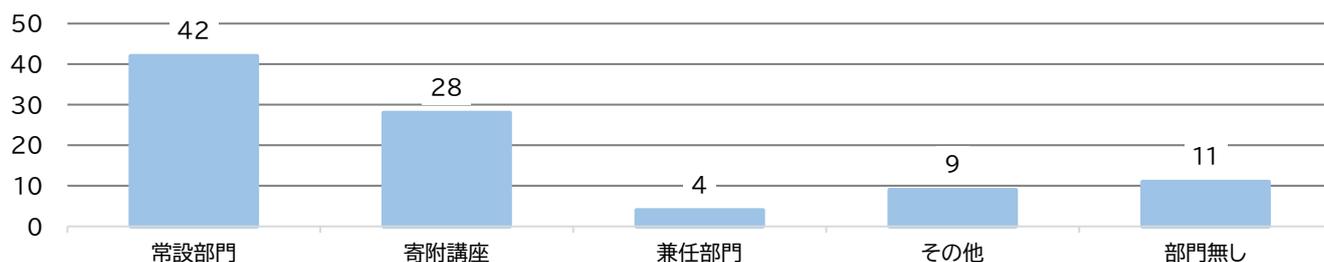
回答のあった 74 大学中、地域医療教育部門があると回答した大学は 63 大学(85.1%)であった。大学種別の割合では、国立大学(89.5%)と公立大学(85.7%)で高く、私立大学等(79.3%)で低かった。

問2-1 地域医療教育部門の設置形態について教えてください。【複数回答可】

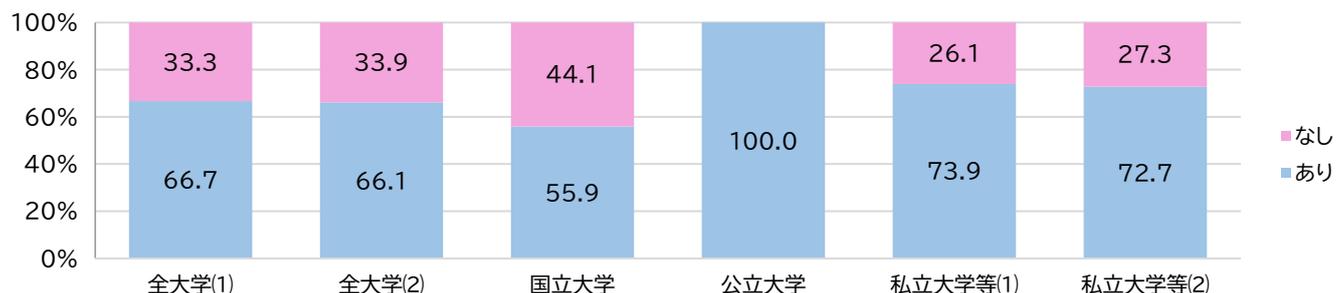
		全大学(1) (63大学)	全大学(2) (62大学)	国立大学 (34大学)	公立大学 (6大学)	私立大学等(1) (23大学)	私立大学等(2) (22大学)
常設部門	設置大学数	42	41	19	6	17	16
	割合(%)	66.7	66.1	55.9	100	73.9	72.7
寄附講座	設置大学数	28	28	22	2	4	4
	割合(%)	44.4	45.2	64.7	33.3	17.4	18.2
兼任部門	設置大学数	4	4	2	0	2	2
	割合(%)	6.3	6.5	5.9	0	8.7	9.1
その他	設置大学数	9	9	7	1	1	1
	割合(%)	14.3	14.5	20.6	16.7	4.3	4.5
寄附 or 常設	設置大学数	58	57	32	6	20	19
	割合(%)	92.1	91.9	94.1	100	87.0	86.4
寄附 and 常設	設置大学数	12	12	9	2	1	1
	割合(%)	19.0	19.4	26.5	33.3	4.3	4.5

※問2の集計は問1にて「ある」と回答した大学を母数として算出しています。

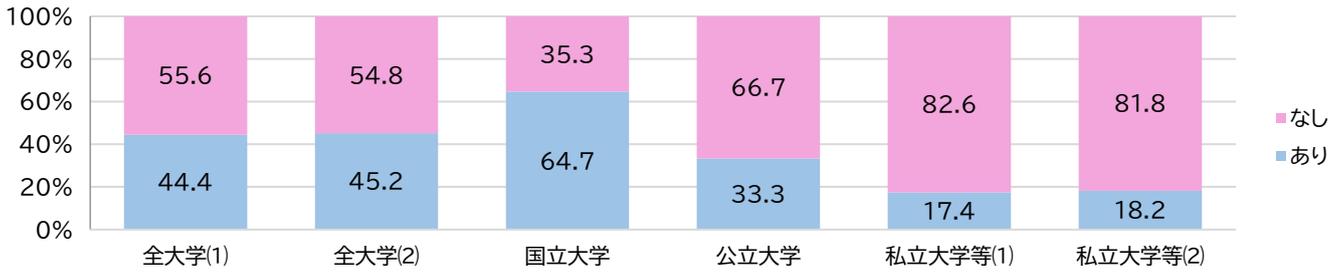
地域医療教育部門の形態と設置状況  
全大学(1)(63大学)



常設部門の設置状況



寄附講座の設置状況



【その他の記述内容】

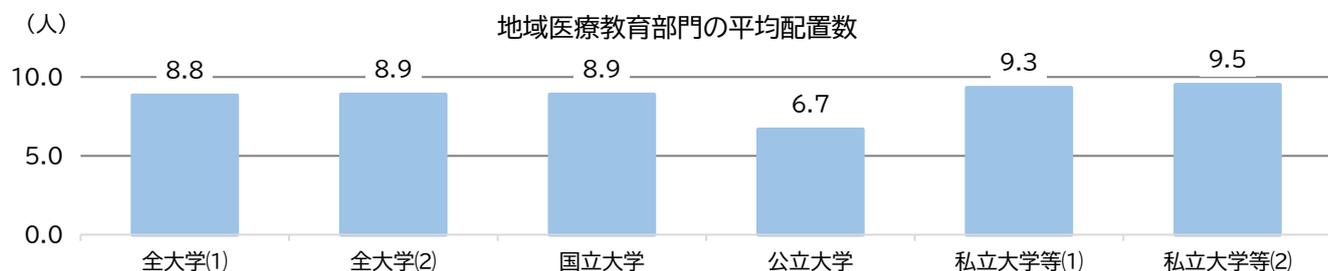
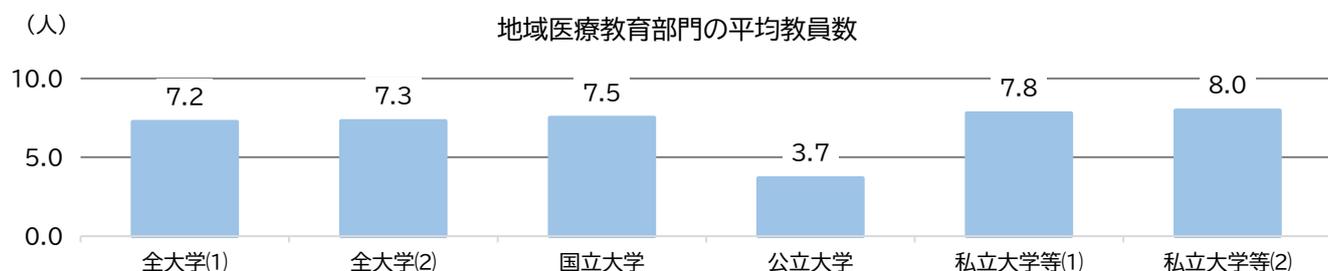
- ・補助金雇用
- ・受託事業
- ・指定管理をおこなっている
- ・大学病院の県委託事業の受託部門
- ・市から「地域医療人材養成事業」を委託されている。

医学生地域医療教育を担当する部門がある63大学のうち、地域医療教育部門を常設部門として設置している大学が42大学(66.7%)と最も多く、次に寄附講座28大学(44.4%)、兼任部門4大学(6.3%)の順であった。29大学(46.0%)で複数の部門が設置されており、58大学(92.1%)で常設部門と寄附講座のいずれか、あるいは両方が設置されていた。12大学(19.0%)では寄附講座と常設部門の両方が設置されており、寄附講座を有している大学の割合は国立大学(64.7%)、公立大学(33.3%)、私立大学等(17.4%)だった。

## 問2-2 教員等の配置数

		全大学(1) (63 大学)	全大学(2) (62 大学)	国立大学 (34 大学)	公立大学 (6 大学)	私立大学等(1) (23 大学)	私立大学等(2) (22 大学)
教 授	人 数	143	142	63	9	71	70
	配置 大学数	56	55	28	6	22	21
	平均人数①	2.6	2.6	2.3	1.5	3.2	3.3
	平均人数②	2.3	2.3	1.9	1.5	3.1	3.2
准 教 授	人 数	74	73	38	4	32	31
	配置 大学数	35	34	20	4	11	10
	平均人数①	2.1	2.1	1.9	1.0	2.9	3.1
	平均人数②	1.2	1.2	1.1	0.7	1.4	1.4
講 師	人 数	71	70	41	6	24	23
	配置 大学数	39	38	21	5	13	12
	平均人数①	1.8	1.8	2.0	1.2	1.8	1.9
	平均人数②	1.1	1.1	1.2	1.0	1.0	1.0
助 教	人 数	168	167	113	3	52	51
	配置 大学数	45	44	29	2	14	13
	平均人数①	3.7	3.8	3.9	1.5	3.7	3.9
	平均人数②	2.7	2.7	3.3	0.5	2.3	2.3
そ の 他	人 数	100	99	47	18	35	34
	配置 大学数	26	25	13	4	9	8
	平均人数①	3.8	4.0	3.6	4.5	3.9	4.3
	平均人数②	1.6	1.6	1.4	3.0	1.5	1.5
教員数合計	人 数	456	452	255	22	179	175
	配置 大学数	63	62	34	6	23	22
	平均人数②	7.2	7.3	7.5	3.7	7.8	8.0
配置数合計	人 数	556	551	302	40	214	209
	配置 大学数	63	62	34	6	23	22
	平均人数②	8.8	8.9	8.9	6.7	9.3	9.5

※平均人数①は合計人数を配置大学数で割った平均人数として算出しています。  
 ※平均人数②は問1にて「ある」と回答した大学を母数として算出しています。



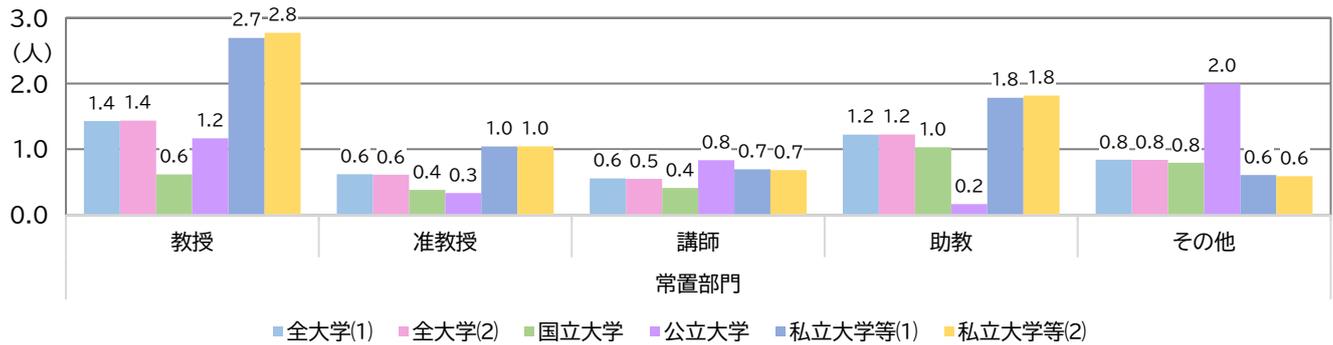
地域医療教育部門への教員等の配置については、教授 143 人(56 大学にて配置)、准教授 74 人(35 大学にて配置)、講師 71 人(39 大学にて配置)、助教 168 人(45 大学にて配置)、その他 100 人(26 大学にて配置)であった。

「その他」の多くが事務補佐員・助手等であったことから、教授・准教授・講師・助教の合計数を教員数とし、「その他」まで含めた合計数を配置数とした。

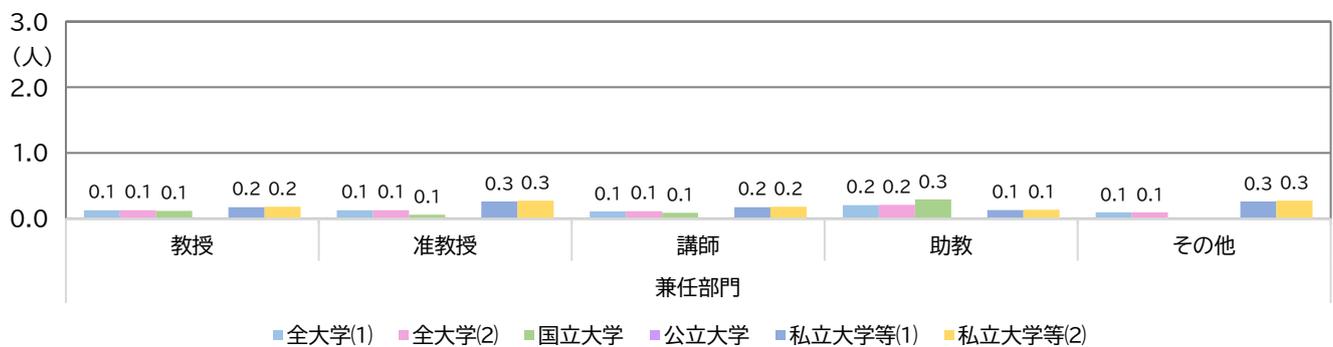
教員数の合計は 456 人(63 大学)で、1 大学平均 7.2 人が配置されていた。配置数の合計は 556 人(63 大学)で、1 大学平均 8.8 人が配置されていた。配置数は多い順に私立大学等(9.3 人)、国立大学(8.9 人)、公立大学(6.7 人)だった。

■地域医療教育部門 設置講座別の平均配置数

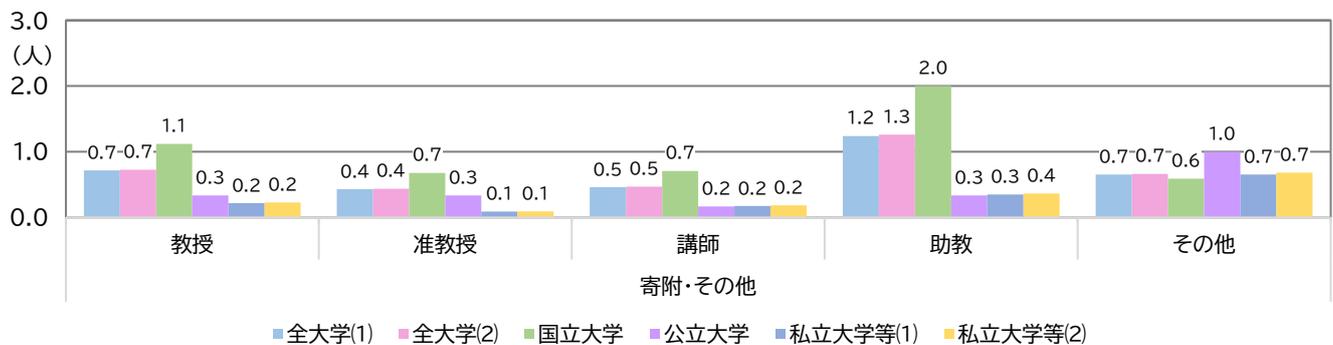
【常置部門 の平均配置数】



【兼任部門 の平均配置数】



【寄附講座・その他 の平均配置数】

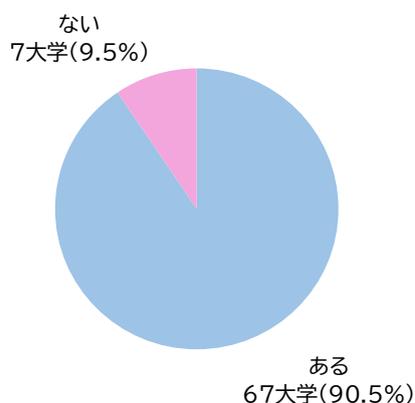


常置部門の平均配置数について、教授・准教授・助教の平均配置数は私立大学等が多く、講師・その他の平均配置数は公立大学が多かった。  
 兼任部門の平均配置数については、教授・准教授・講師・その他の平均配置数は私立大学等が多く、助教の平均配置数は国立大学が多かった。公立大学は兼任部門の設置がなかった。  
 寄附講座・その他の平均配置数については、教授・准教授・講師・助教・その他といずれも国立大学が多かった。

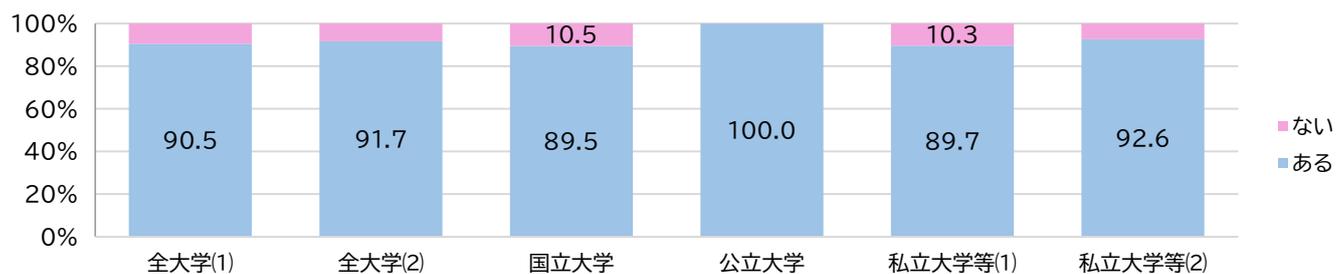
問3 貴大学に、総合診療部門はありますか。

	全大学(1) (74 大学)		全大学(2) (72 大学)		国立大学 (38 大学)		公立大学 (7 大学)		私立大学等(1) (29 大学)		私立大学等(2) (27 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
ある	67	90.5	66	91.7	34	89.5	7	100	26	89.7	25	92.6
ない	7	9.5	6	8.3	4	10.5	0	0	3	10.3	2	7.4

総合診療部門の有無  
全大学(1)(74大学)



総合診療部門の有無



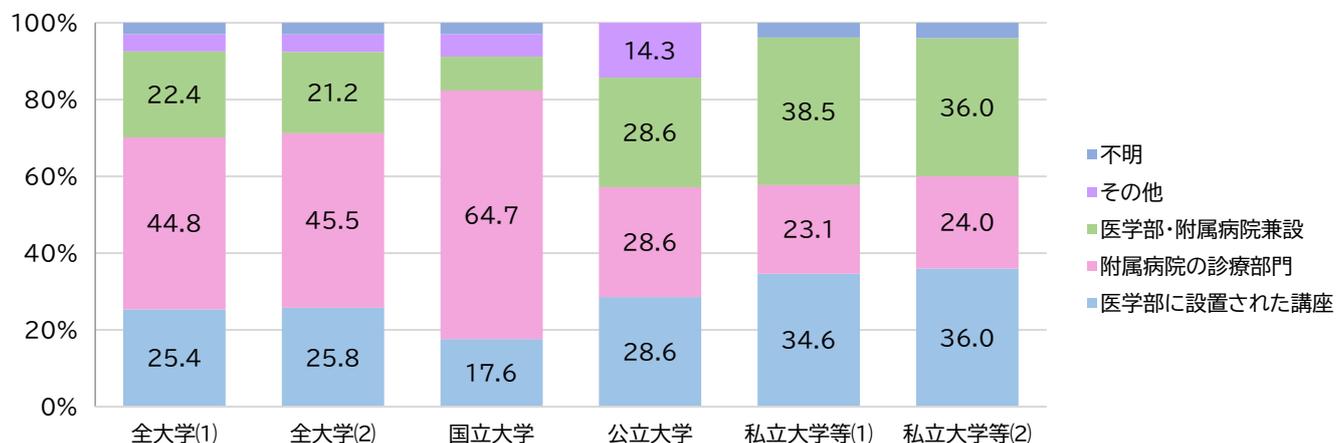
回答のあった 74 大学中、総合診療部門があると回答した大学は 67 大学 (90.5%) であった。大学種別の割合では、多い順に公立大学(100%)、私立大学等(89.7%)、国立大学(89.5%)だった。

問4-1 総合診療部門の設置形態について教えてください。

		全大学(1) (67大学)	全大学(2) (66大学)	国立大学 (34大学)	公立大学 (7大学)	私立大学等(1) (26大学)	私立大学等(2) (25大学)
医学部に設置された講座	設置大学数	17	17	6	2	9	9
	割合(%)	25.4	25.8	17.6	28.6	34.6	36.0
附属病院の診療部門	設置大学数	30	30	22	2	6	6
	割合(%)	44.8	45.5	64.7	28.6	23.1	24.0
医学部・附属病院兼設	設置大学数	15	14	3	2	10	9
	割合(%)	22.4	21.2	8.8	28.6	38.5	36.0
その他	設置大学数	3	3	2	1	0	0
	割合(%)	4.5	4.5	5.9	14.3	0	0
不明	設置大学数	2	2	1	0	1	1
	割合(%)	3.0	3.0	2.9	0	3.8	4.0

※問4の集計は問3にて「ある」と回答した大学を母数として算出しています。

医学部に設置された講座の設置状況



総合診療部門を附属病院の診療部門として設置している大学が 30 大学(44.8%)と最も多く、次に医学部に設置された講座 17 大学(25.4%)、兼任部門医学部・附属病院兼設 15 大学(22.4%)の順であった。

医学部に設置された講座の割合は多い順に私立大学等(34.6%)、公立大学(28.6%)、国立大学(17.6%)で、附属病院の診療部門の割合は多い順に国立大学(64.7%)、公立大学(28.6%)、私立大学等(23.1%)だった。

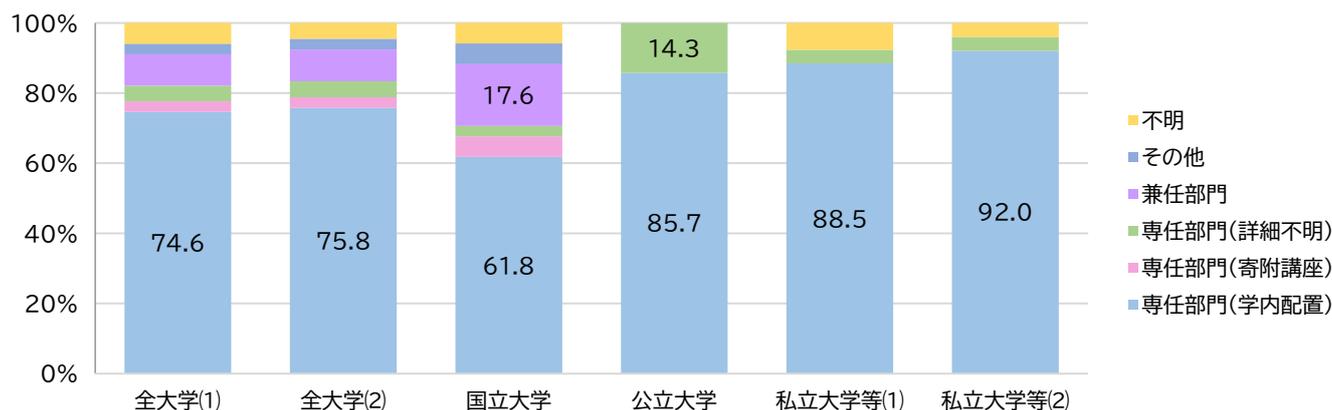
また、医学部・附属病院兼設の割合は多い順に私立大学等(38.5%)、公立大学(28.6%)、国立大学(8.8%)だった。

## 問4-2 総合診療部門の設置種別

		全大学(1) (67大学)	全大学(2) (66大学)	国立大学 (34大学)	公立大学 (7大学)	私立大学等(1) (26大学)	私立大学等(2) (25大学)
専任部門 (学内配置)	設置大学数	50	50	21	6	23	23
	割合(%)	74.6	75.8	61.8	85.7	88.5	92.0
専任部門 (寄附講座)	設置大学数	2	2	2	0	0	0
	割合(%)	3.0	3.0	5.9	0	0	0
専任部門 (詳細不明)	設置大学数	3	3	1	1	1	1
	割合(%)	4.5	4.5	2.9	14.3	3.8	4.0
兼任部門	設置大学数	6	6	6	0	0	0
	割合(%)	9.0	9.1	17.6	0	0	0
その他	設置大学数	2	2	2	0	0	0
	割合(%)	3.0	3.0	5.9	0	0	0
不明	設置大学数	4	3	2	0	2	1
	割合(%)	6.0	4.5	5.9	0	7.7	4.0

※問4の集計は問3にて「ある」と回答した大学を母数として算出しています。

総合診療部門の設置種別  
全大学(1)(67大学)



総合診療部門を専任部門(学内配置)として設置している大学が 50 大学(74.6%)と最も多く、次に兼任部門 6 大学(9.0%)、専任部門(詳細不明)3 大学(4.5%)の順であった。

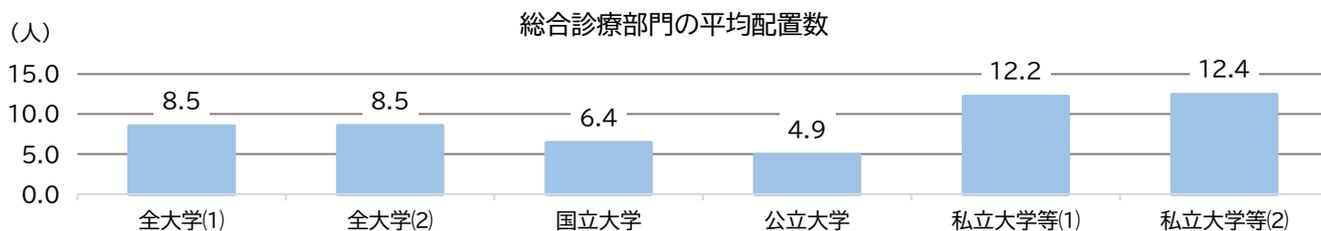
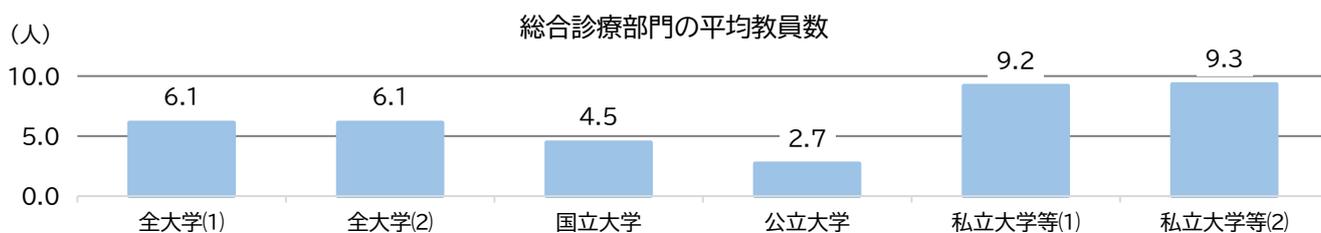
専任部門(学内配置)の割合は、多い順に私立大学等(88.5%)、公立大学(85.7%)、国立大学(61.8%)で、兼任部門は、国立大学で 6 大学(17.6%)あり、公立大学と私立大学等には設置されていなかった。

### 問4-3 教員等の配置数

		全大学(1) (67大学)	全大学(2) (66大学)	国立大学 (34大学)	公立大学 (7大学)	私立大学等(1) (26大学)	私立大学等(2) (25大学)
教授	人数	97	94	34	7	56	53
	配置大学数	57	56	28	6	23	22
	平均人数①	1.7	1.7	1.2	1.2	2.4	2.4
	平均人数②	1.4	1.4	1.0	1.0	2.2	2.1
准教授	人数	62	62	21	3	38	38
	配置大学数	34	34	17	3	14	14
	平均人数①	1.8	1.8	1.2	1.0	2.7	2.7
	平均人数②	0.9	0.9	0.6	0.4	1.5	1.5
講師	人数	59	58	28	7	24	23
	配置大学数	37	36	18	3	16	15
	平均人数①	1.6	1.6	1.6	2.3	1.5	1.5
	平均人数②	0.9	0.9	0.8	1.0	0.9	0.9
助教	人数	192	190	69	2	121	119
	配置大学数	50	49	27	1	22	21
	平均人数①	3.8	3.9	2.6	2.0	5.5	5.7
	平均人数②	2.9	2.9	2.0	0.3	4.7	4.8
その他	人数	157	157	65	15	77	77
	配置大学数	40	40	19	5	16	16
	平均人数①	3.9	3.9	3.4	3.0	4.8	4.8
	平均人数②	2.3	2.4	1.9	2.1	3.0	3.1
教員数合計	人数	410	404	152	19	239	233
	配置大学数	66	65	33	7	26	25
	平均	6.1	6.1	4.5	2.7	9.2	9.3
配置数合計	人数	567	561	217	34	316	310
	配置大学数	67	66	34	7	26	25
	平均	8.5	8.5	6.4	4.9	12.2	12.4

※平均人数①は合計人数を配置大学数で割った平均人数として算出しています。

※平均人数②は「総合診療部門がある」と回答した大学を母数として算出しています。



総合診療部門への教員等の配置については、教授 97 人(57 大学にて配置)、准教授 62 人(34 大学にて配置)、講師 59 人(37 大学にて配置)、助教 193 人(51 大学にて配置)、その他 157 人(40 大学にて配置)であった。

「その他」の多くは医員・助手だった。教員数の合計は 410 人(66 大学)で、1 大学平均 6.1 人が配置されていた。

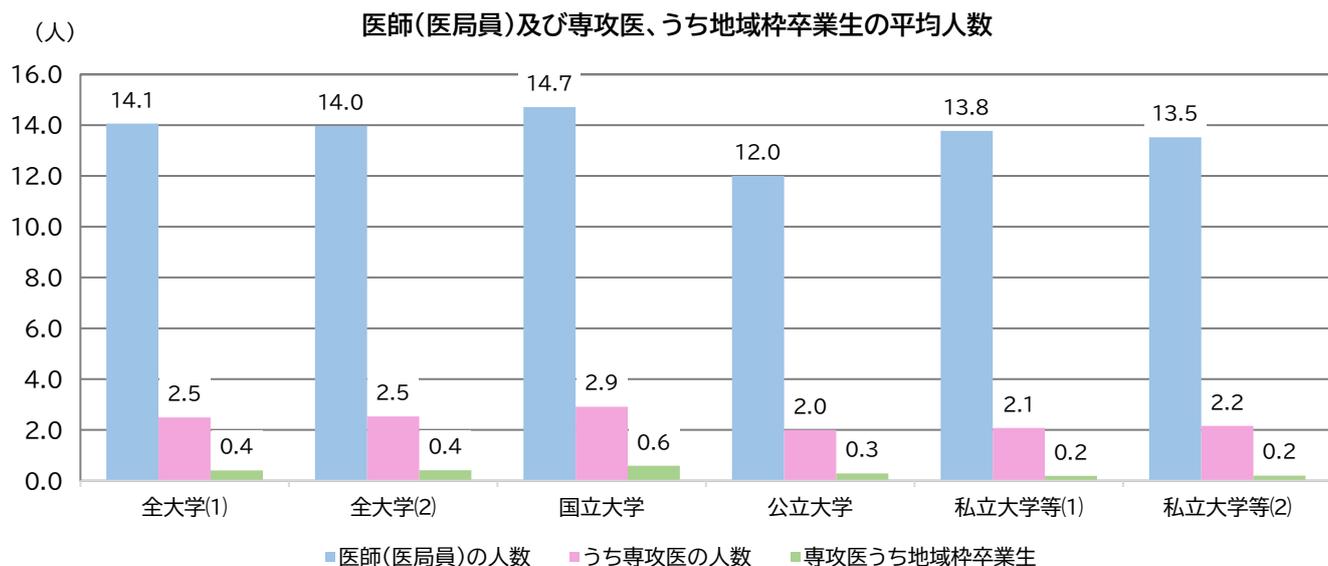
配置数の合計は 567 人(67 大学)で、1 大学平均 8.5 人が配置されていた。

配置数が多い順に私立大学等(12.2 人)、国立大学(6.4 人)、公立大学(4.9 人)だった。

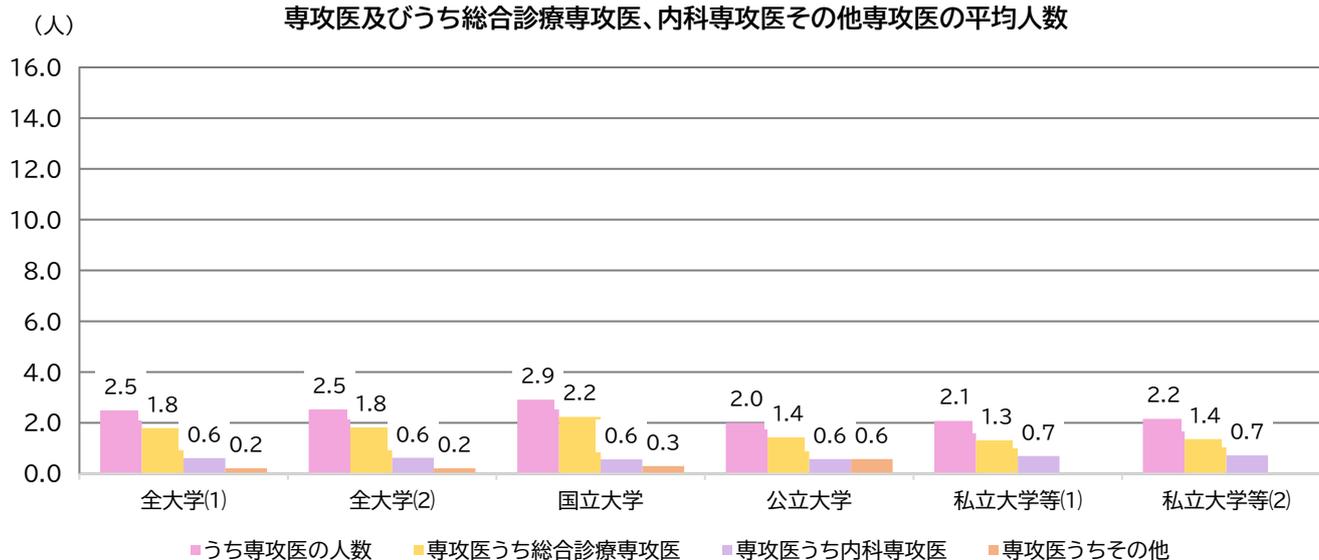
問4-4 関連施設を含む医師の人数(いわゆる医局員)は何人ですか。

		全大学(1) (67大学)	全大学(2) (66大学)	国立大学 (34大学)	公立大学 (7大学)	私立大学等(1) (26大学)	私立大学等(2) (25大学)
医師(医局員) の人数	人数	942	922	500	84	358	338
	配置大学数	66	65	33	7	26	25
	平均	14.1	14.0	14.7	12.0	13.8	13.5
うち専攻医の人数	人数	167	167	99	14	54	54
	配置大学数	42	42	23	4	15	15
	平均	2.5	2.5	2.9	2.0	2.1	2.2
専攻医うち地域 卒卒業生	人数	27	27	20	2	5	5
	配置大学数	18	18	15	1	2	2
	平均	0.4	0.4	0.6	0.3	0.2	0.2
専攻医うち総合 診療専攻医	人数	120	120	76	10	34	34
	配置大学数	36	36	22	2	12	12
	平均	1.8	1.8	2.2	1.4	1.3	1.4
専攻医うち内科 専攻医	人数	41	41	19	4	18	18
	配置大学数	15	15	7	2	6	6
	平均	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7
専攻医うちその 他	人数	14	14	10	4	0	0
	配置大学数	5	5	4	1	0	0
	平均	0.2	0.2	0.3	0.6	0	0

※平均人数は「総合診療部門がある」と回答した大学を母数として算出しています。



専攻医及びうち総合診療専攻医、内科専攻医その他専攻医の平均人数

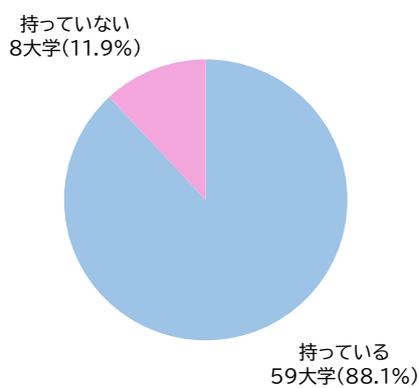


関連施設を含む医師の人数は、942人で、66大学で配置があり1大学平均14.1人が配置されていた。  
 また、医局員のうち専攻医の人数は167人(42大学配置)で、対象67大学での平均は2.5人、専攻医のうち地域  
 卒卒業生は27人(18大学配置)で0.4人、総合診療専攻医は120人(36大学配置)で1.8人、内科専攻医は41人  
 (15大学配置)0.6人、その他の医師は14人(5大学配置)0.2人だった。  
 医師の人数に関して配置数は多い順に国立大学(14.7人)、私立大学等(13.5人)、公立大学(12.0人)で、専攻医の  
 うち地域卒卒業生は多い順に国立大学(0.6人)、公立大学(0.3人)、私立大学等(0.2人)だった。

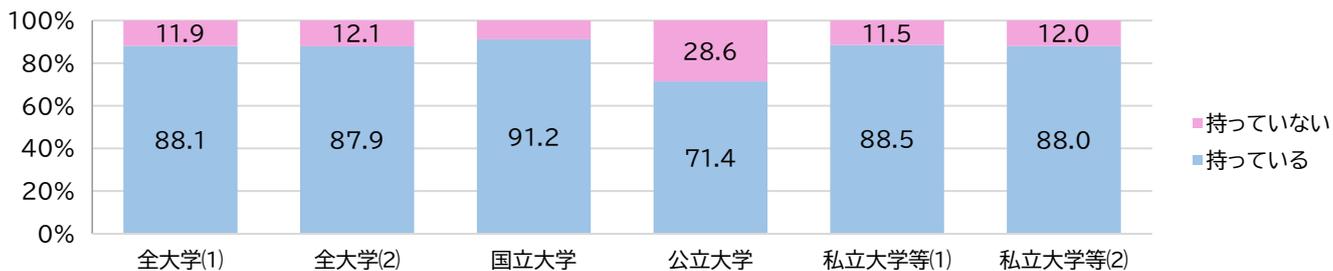
問4-5 基幹型施設として、総合診療専門医プログラムを持っていますか。

	全大学(1) (67大学)		全大学(2) (66大学)		国立大学 (34大学)		公立大学 (7大学)		私立大学等(1) (26大学)		私立大学等(2) (25大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
持っている	59	88.1	58	87.9	31	91.2	5	71.4	23	88.5	22	88.0
持っていない	8	11.9	8	12.1	3	8.8	2	28.6	3	11.5	3	12.0

総合診療専門医プログラムの有無  
全大学(1)(67大学)



総合診療専門医プログラムの有無

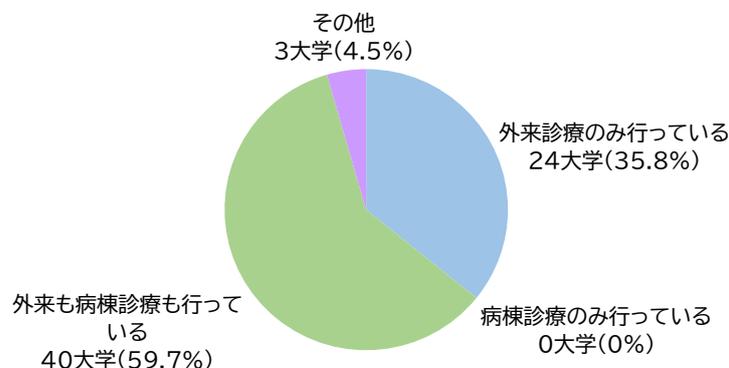


総合診療部門があると回答した 67 大学中、基幹型施設として、総合診療専門医プログラムを持っていると回答した大学は 59 大学(88.1%)であった。大学種別の割合では、国立大学(91.2%)と私立大学等(88.5%)が高く、公立大学(71.4%)で低かった。

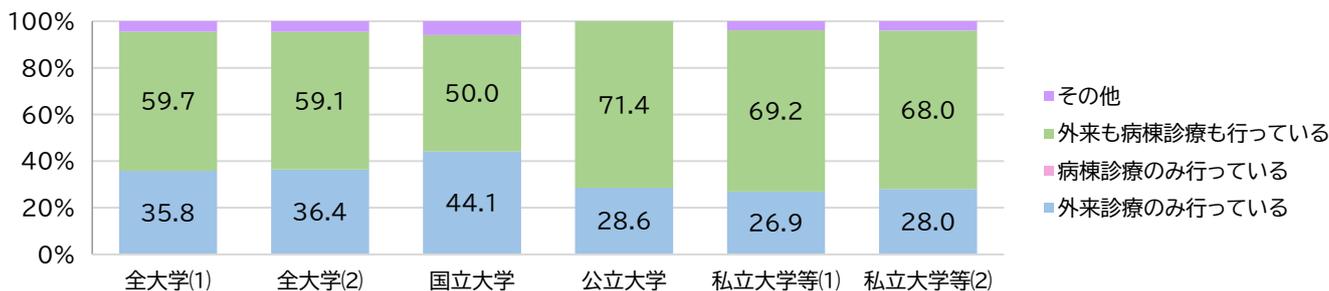
問4-6 大学病院での業務内容を教えてください。

	全大学(1) (67大学)		全大学(2) (66大学)		国立大学 (34大学)		公立大学 (7大学)		私立大学等(1) (26大学)		私立大学等(2) (25大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
外来診療のみ 行っている	24	35.8	24	36.4	15	44.1	2	28.6	7	26.9	7	28.0
病棟診療のみ 行っている	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外来も病棟診療 も行っている	40	59.7	39	59.1	17	50.0	5	71.4	18	69.2	17	68.0
その他	3	4.5	3	4.5	2	5.9	0	0	1	3.8	1	4.0

大学での業務内容  
全大学(1)(67大学)



大学での業務内容



【その他の記述内容】

- ・医学部の教育業務のみで大学病院での業務はない
- ・ERの1、2次救急とウオークイン、ERの一泊入院。総合診療科外来
- ・外来診療と救急

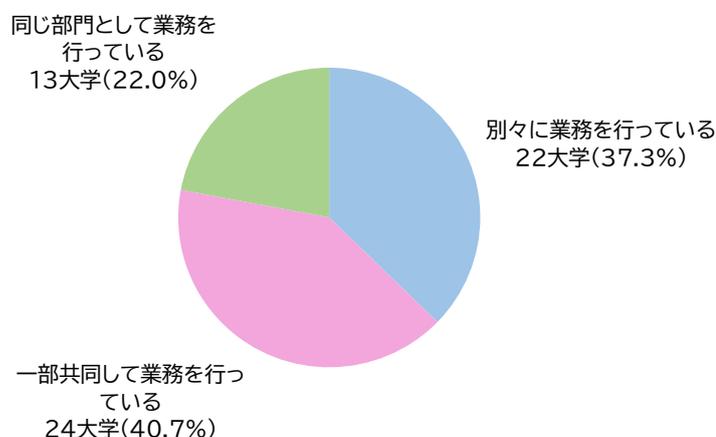
総合診療部門があると回答した 67 大学中、大学病院での業務内容を外来診療のみ行っていると回答した大学は 24 大学 (35.8%) で、外来も病棟診療も行っていると回答した大学は 40 大学 (59.7%) であった。

問4-7 地域医療教育部門との関係について教えてください。

	全大学(1) (59 大学)		全大学(2) (58 大学)		国立大学 (31 大学)		公立大学 (6 大学)		私立大学等(1) (22 大学)		私立大学等(2) (21 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
別々に業務を行っている	22	37.3	22	37.9	11	35.5	3	50.0	8	36.4	8	38.1
一部共同して業務を行っている	24	40.7	23	39.7	11	35.5	2	33.3	11	50.0	10	47.6
同じ部門として業務を行っている	13	22.0	13	22.4	9	29.0	1	16.7	3	13.6	3	14.3

※地域医療教育部門があり、総合診療部門がある大学を母数として算出しています。

地域医療教育部門との関係  
全大学(1)(59大学)



地域医療教育部門との関係



地域医療教育部門があり、総合診療部門があると回答した 59 大学中、地域医療教育部門との関係については、別々に業務を行っていると回答した大学は 22 大学(37.3%)で、一部共同して業務を行っていると回答した大学は 24 大学(40.7%)で、同じ部門として業務を行っていると回答した大学は 13 大学(22.0%)であった。

問4-8 地域医療教育部門との関係について、具体的な業務分担等について教えてください。

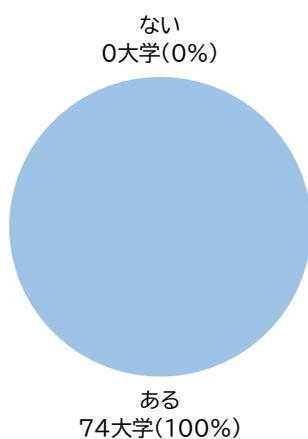
- 卒前教育を医学教育・総合診療医学教室、卒後教育を大学病院臨床研修センターが担当している。
- 学生教育について、カリキュラムを共同で実施している。また、地域医療実習の受入機関とのカリキュラム検討会や卒後臨床研修について共同で業務を行っている。
- 総合地域医療教育支援部は医学部・卒後の地域医療教育の総括を行なっている。地域総合診療医育成寄附講座は主に医学生臨床実習での地域医療実習を行っている。
- 副部門長を兼任している。
- ほぼ同じメンバーが一体となって、地域医療教育と総合診療科の両方について、教育・診療・研究に従事している。
- 外来診療。
- 総合診療部外来を手伝ってもらっている。
- 医学教育センター卒前医学教育部門内の各室での検討の上、ユニット(科目)運営等で連携している。
- 他の学系分野と同じく、診療・教育・研究等を包括しているため、特に具体的な業務分担等はない。
- 社会医学研究会などの学生活動を、地域医療教育部門と連携して行っている。
- 主に医学教育センターが卒前教育、総合医療健康科学分野は卒前・卒後教育の両方をカバーし、互いに連携することで、卒前卒後のシームレスな教育が行われるようにしている。
- Early Exposure 2は両者が協働して行っている。地域基盤型臨床実習は医学教育統轄センターがおこなっている。その他の学外実習は各診療科が主体となっている。
- 総合診療を主体とした訪問診療を行っている。
- 総合診療医学教室は学生教育については、臨床推論(診断推論)、緩和医療・終末期医療をそれぞれの担当教員が行い、地域医療、社会医学、医療面接は姉妹講座の医学教育学教室と合同で行っている。
- 同じ部門として業務を行なっているため、業務分担はしていない。
- 「実習のまとめ」を隔週の金曜日に行っているが、これを同じ部屋で行うなどしている。
- 地域医療学:第5学年臨床実習(【市区町村】)総合内科学:第4~6学年臨床実習。
- 地域医療学講座の教授が総合診療部の部長を、准教授が総合診療部の副部長を担っている。
- 総合診療専門医の育成と医学科4~6年生の地域医療教育と実習を総合内科が担当し、地域医療医学センターは【都道府県】修学資金受給医学生および当該医師の教育と管理、医学科2~3年生の地域医療教育と実習を担当している。
- 同一部門で、人員も共通である。
- 同じ部門として一緒に、学生教育、専門研修指導、研究等を行っている。各地域医療学講座の教員は各々の所属する病院での診療、臨床教育に比重が高く、附属病院総合診療科の教員はカリキュラム全体の統括や評価を行うことに比重が高くなっている。
- 地域医療の講義を担当しています。
- 医師の派遣。
- 大学病院の総合診療外来は1診体制で、地域医療学講座の医師が担当している。この外来では未だ学生教育に関与できていない。いっぽう、教育サテライト施設(【病院名】・【診療所名】)での診療・教育、ならびに学内での卒前の地域医療教育も。地域医療学講座が担っている。業務量としては、大学病院の総合診療外来は、講座業務全体の10%程度に過ぎない。
- 学部生教育(チュートリアル等)を共同でおこなっている。
- 一部の地域医療部門の教員が総合内科・総合診療科にて外来診療、病棟診療を行っている。
- 同じ部門として業務を行っているため、診療担当と講義担当の調整を行っている。
- 地域医療教育部門の教員が総合診療部門の外来を分担している。
- 総合診療医学分野(寄附講座)は卒前教育を担当、地域医療支援、総合診療部は大学病院内の診療業務、卒後教育を担当。
- 医学部における寄附講座として地域医療学講座を担当。総合診療科と兼務。
- 同じ医学教育部門として業務を分担している。プライマリ・ケア/地域医療学実習は、総合診療部、公衆衛生学、家庭医療学講座で担当している。
- 地域医療実習の計画・実施。
- 派遣専攻医に対する指導医学科学生講義。
- 地域医療教育と総合診療を同一の組織で行っている。従って、部門間の業務分担はない。
- 医学部の常置部門である総合内科・総合診療科講座と総合外科・地域連携学講座の教員が地域医療学センターの業務を兼任している。
- 診療等に関しては、総合診療部門講義等に関しては、地域医療教育部門。
- 特に分担はなく、全員で大学病院における診療と大学における地域医療教育を行っている。
- 講義は医学教育統括センター、公衆衛生学、総合診療医学、医療プロフェッショナルリズムで実施。臨床教育は、総合診療部門が担当。

- 地域医療教育部門(医学部及び大学院医歯薬学総合研究科)と病院総合診療科は相互に教育・研修の機会の提供や講師の派遣を行っている。地域医療学の講義や定期試験については分担しながら共同で行っている。そのほか、両部門は臨床実習の受入先を提供している。

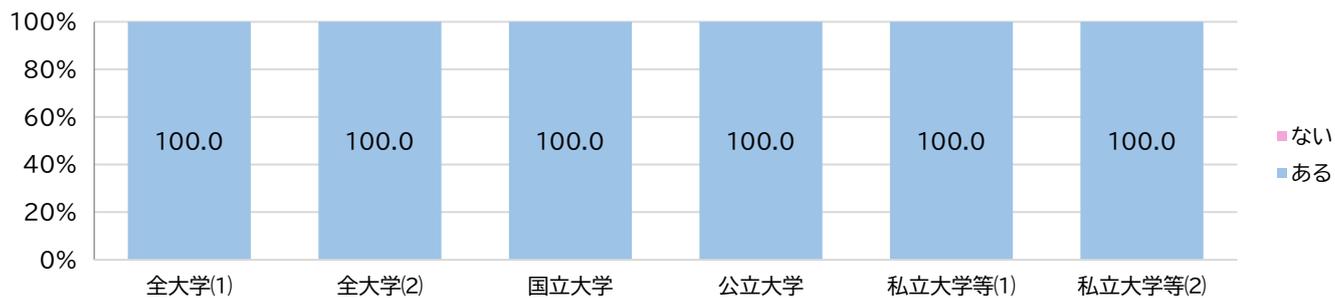
問5-1 貴学には、地域医療の教育を目的としたプログラムはありますか。

	全大学(1) (74 大学)		全大学(2) (72 大学)		国立大学 (38 大学)		公立大学 (7 大学)		私立大学等(1) (29 大学)		私立大学等(2) (27 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
ある	74	100	72	100	38	100	7	100	29	100	27	100
ない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

地域医療教育プログラムの有無  
全大学(1)(74大学)



地域医療教育プログラムの有無



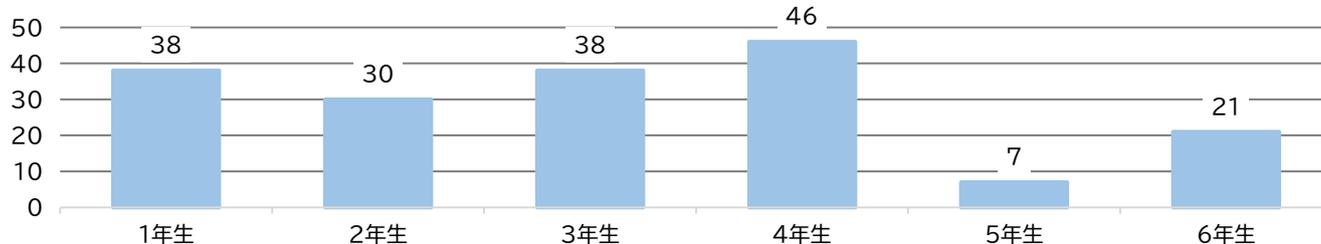
回答のあった 74 大学中、全ての大学において地域医療の教育を目的としたプログラムがあると回答した。

問5-2 地域医療の教育を目的とした講義や演習は何コマありますか。

		全大学(1) (74大学)	全大学(2) (72大学)	国立大学 (38大学)	公立大学 (7大学)	私立大学等(1) (29大学)	私立大学等(2) (27大学)
1年生	コマ数	582	560	320	90	172	150
	導入大学数	38	37	21	4	13	12
	平均	15.3	15.1	15.2	22.5	13.2	12.5
2年生	コマ数	401	384	192	50	159	142
	導入大学数	30	29	16	3	11	10
	平均	13.4	13.2	12.0	16.7	14.5	14.2
3年生	コマ数	493	474	250	29	214	195
	導入大学数	38	37	19	3	16	15
	平均	13.0	12.8	13.2	9.7	13.4	13.0
4年生	コマ数	709	705	497	76	136	132
	導入大学数	46	44	23	6	17	15
	平均	15.4	16.0	21.6	12.7	8.0	8.8
5年生	コマ数	81	71	63	0	18	8
	導入大学数	7	6	4	0	3	2
	平均	11.6	11.8	15.8		6.0	4.0
6年生	コマ数	248	234	51	0	197	183
	導入大学数	21	20	12	0	9	8
	平均	11.8	11.7	4.3		21.9	22.9
合計	コマ数	2,514	2,428	1,373	245	896	810
	導入大学数	70	68	37	6	27	25
	平均	35.9	35.7	37.1	40.8	33.2	32.4

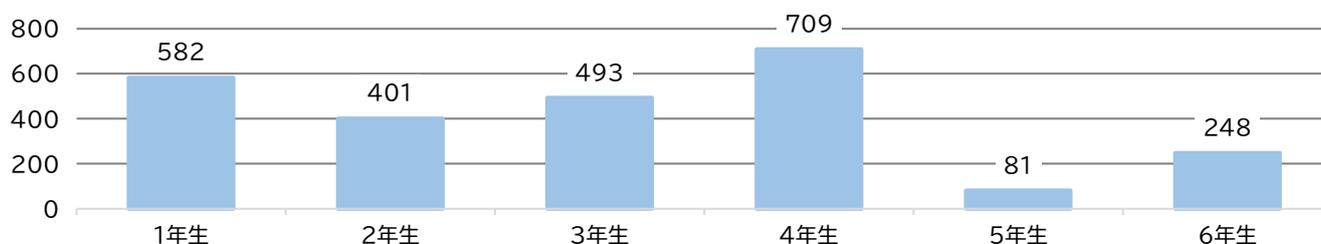
※問5の集計は問5-1にて「ある」と回答した大学を母数として算出し  
コマ数は導入大学数を母数に算出しています。

学年別導入大学数  
全大学(1)(73大学)



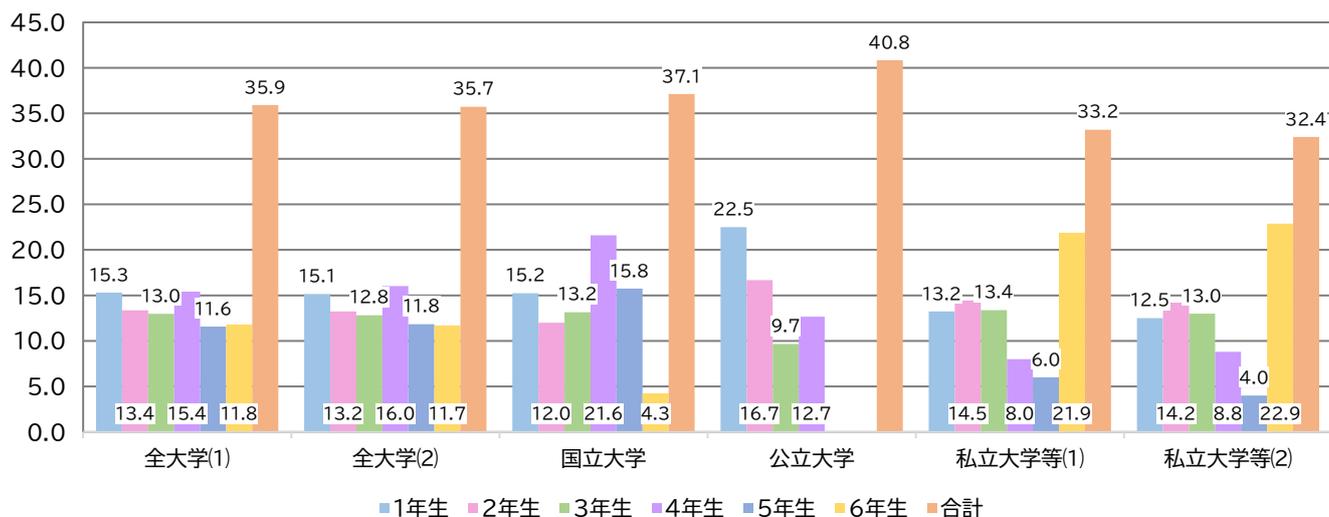
(コマ)

学年別講義・演習コマ数  
全大学(1)(73大学)



(コマ)

教育を目的とした講義や演習の平均コマ数



地域医療の教育を目的としたプログラムがあると回答した73大学中、70大学で地域医療の教育を目的とした講義・演習を行っていた。

4年生に導入している大学が46大学と最も多く、次に1年生、3年生に導入している大学が38大学で、5、6年生では比較的少なかった。

講義・演習のコマ数の合計では、多い順に、4年生709コマ、1年生582コマ、3年生493コマであった。

各学年のコマ数合計を学年別の導入大学数で割った平均コマ数は、多い順に、4年生15.4コマ(46大学)、1年生15.3コマ(38大学)、2年生13.4コマ(30大学)の順であった。

低学年で導入する大学が多い一方、一部の大学では高学年で地域医療の講義・演習を強化している状況が窺える。

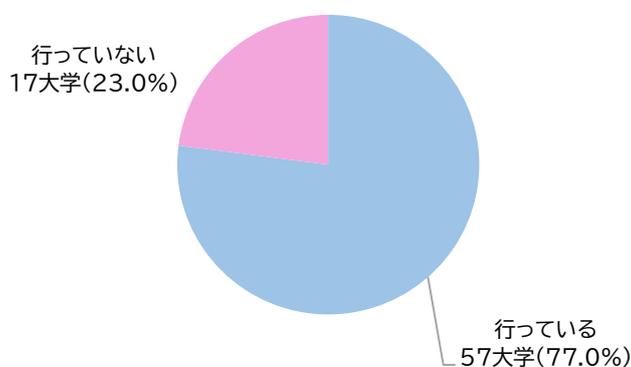
合計コマ数に関して大学種別では、多い順に、公立大学(40.8コマ)、国立大学(37.1コマ)、私立大学等(33.2コマ)の順であった。

問5-3 この中で、地域包括ケアシステムについての教育は行っていますか。

	全大学(1) (74 大学)		全大学(2) (72 大学)		国立大学 (38 大学)		公立大学 (7 大学)		私立大学等(1) (29 大学)		私立大学等(2) (27 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
行っている	57	77.0	55	76.4	32	84.2	6	85.7	19	65.5	17	63.0
行っていない	17	23.0	17	23.6	6	15.8	1	14.3	10	34.5	10	37.0

※問5の集計は問5-1にて「ある」と回答した大学を母数として算出しています。

地域包括ケアシステムについての教育の有無  
全大学(1)(74大学)



地域包括ケアシステムについての教育の有無

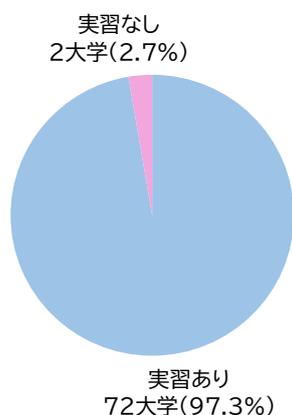


地域医療の教育を目的としたプログラムがあると回答した 74 大学中、地域包括ケアシステムについての教育を行っていると回答した大学は 57 大学 (77.0%) であった。大学種別の割合では、公立大学(85.7%)と国立大学(84.2%)で高く、私立大学等(65.5%)で低かった。

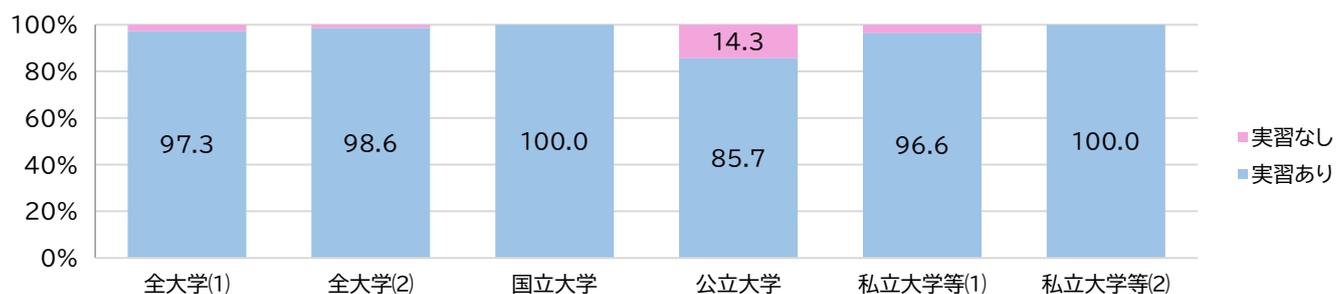
## 問5-4 地域医療の教育を目的とした実習について

	全大学(1) (74 大学)		全大学(2) (72 大学)		国立大学 (38 大学)		公立大学 (7 大学)		私立大学等(1) (29 大学)		私立大学等(2) (27 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
実習あり	72	97.3	71	98.6	38	100	6	85.7	28	96.6	27	100
実習なし	2	2.7	1	1.4	0	0	1	14.3	1	3.4	0	0

地域医療の教育を目的とした実習の有無  
全大学(1)(74大学)



地域医療の教育を目的とした実習の有無

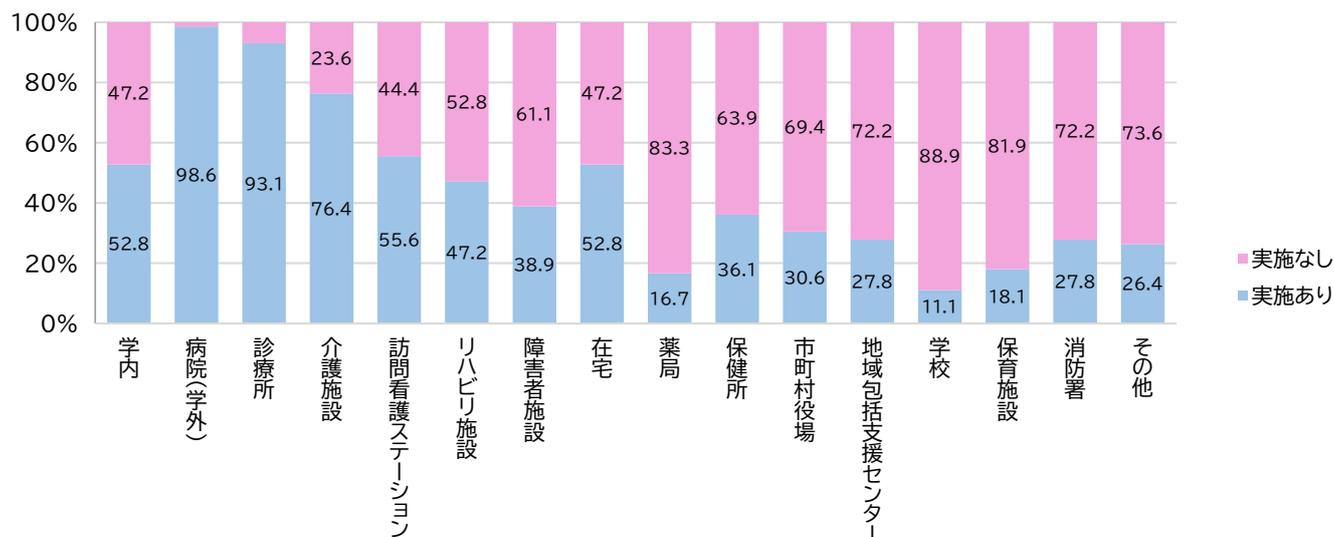


回答のあった 74 大学中、地域医療の教育を目的とした実習を実習ありと回答した大学は 72 大学 (97.3%) であった。大学種別の割合では、国立大学(100%)と私立大学等(96.6%)で高く、公立大学(85.7%)で低かった。

## 問5-5 実習の実施場所

	全大学(1) (72大学)	全大学(2) (71大学)	国立大学 (38大学)	公立大学 (6大学)	私立大学等(1) (28大学)	私立大学等(2) (27大学)
学 内	38	37	20	3	15	14
病 院 ( 学 外 )	71	70	38	6	27	26
診 療 所	67	66	37	5	25	24
介 護 施 設	55	54	30	5	20	19
訪問看護ステーション	40	39	22	3	15	14
リハビリ施設	34	33	20	4	10	9
障 害 者 施 設	28	27	13	4	11	10
在 宅	38	38	22	3	13	13
薬 局	12	12	7	1	4	4
保 健 所	26	26	19	2	5	5
市 町 村 役 場	22	22	17	2	3	3
地域包括支援センター	20	19	13	2	5	4
学 校	8	8	5	1	2	2
保 育 施 設	13	13	7	3	3	3
消 防 署	20	20	14	1	5	5
そ の 他	19	19	12	1	6	6

実習の実施場所



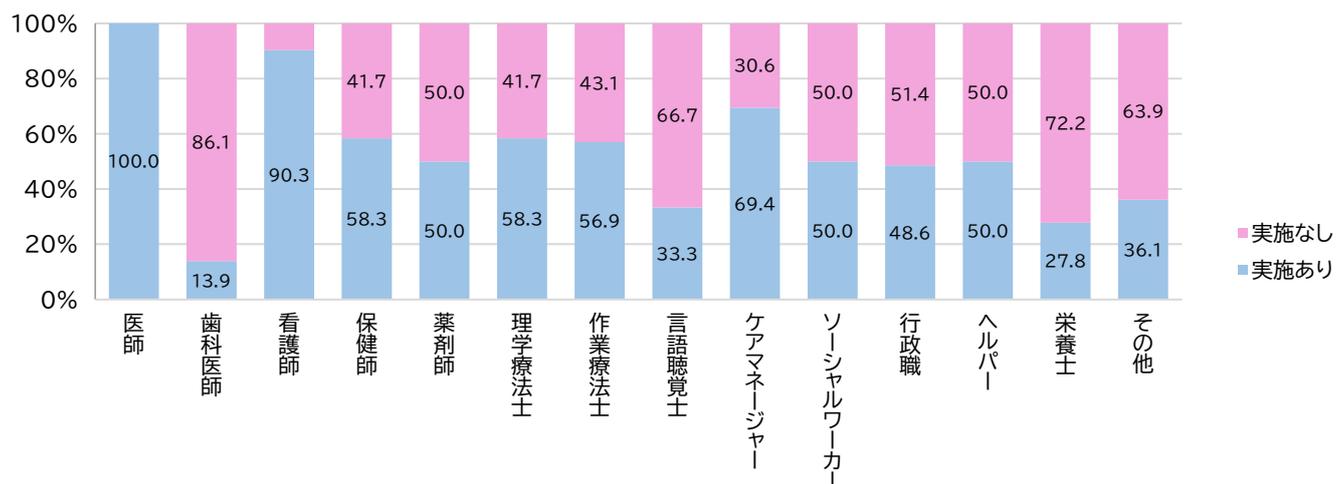
### ■実習実施場所でその他の欄に記載された施設等

- 自治体の健康祭りや公民館など
- 特別支援学校
- フィリピン
- NPO 学童保育等
- 高齢者福祉施設等
- 健康プラザ
- 衛生研究所
- 高齢者施設
- 高齢者宅
- へき地医療施設に隣接する公共施設
- ケニアのへき地
- 救急現場
- 保健センター、社会福祉協議会、地区公民館)
- 衛生研究所等
- 障害児サマースクール等
- 地区自治会館
- 学生自身が学内外を問わず事由に選択する
- サロン
- 漁業・農業体験等
- 住民宅
- ハンセン病の【施設名】
- 血液センター
- 原子力発電所
- 県・市等の研究所
- 合宿所
- 市民団体

## 問5-6 実習の対象職種

	全大学(1) (72 大学)	全大学(2) (71 大学)	国立大学 (38 大学)	公立大学 (6 大学)	私立大学等(1) (28 大学)	私立大学等(2) (27 大学)
医師	72	71	38	6	28	27
歯科医師	10	10	7	0	3	3
看護師	65	64	33	6	26	25
保健師	42	41	25	3	14	13
薬剤師	36	36	25	1	10	10
理学療法士	42	42	24	2	16	16
作業療法士	41	41	24	2	15	15
言語聴覚士	24	24	15	0	9	9
ケアマネージャー	50	49	27	5	18	17
ソーシャルワーカー	36	35	23	2	11	10
行政職	35	34	24	3	8	7
ヘルパー	36	36	21	3	12	12
栄養士	20	20	13	1	6	6
その他	26	26	14	4	8	8

実習の対象職種



### ■実習の対象職種でその他の欄に記載された職種等

- ボランティア団体構成員等
- 介護士
- 教員(遺伝学講座)
- 社会福祉士
- 小学校教諭・小学生
- 消防士
- 鍼灸師
- 患者、利用者
- 住民
- 住民代表者
- 家族
- 大学近隣の家庭
- 遺伝カウンセラー
- 救急救命士
- 施設職員
- 保育士
- 養護教諭、小中学校教諭
- 臨床検査技師
- 連携企業(信用金庫)・市民
- 近隣住民
- 住民ボランティア
- 地域住民、患者、利用者
- 在宅療養患者及びその家族
- 地域住民

問5-7 実施場所詳細

■学年別 実施場所内訳

学年	実施 大学 数	学内	病院 (学 外)	診療 所	在宅	訪問 看護 ステ ーシ ョン	地域 包括 支援 セン ター	介護 施設	リハ ビリ 施設	障害 者施 設	薬局	保健 所	市町 村役 場	学校	保育 施設	消防 署	その 他
1年	52	15	39	37	11	20	7	39	17	15	5	7	12	2	4	8	9
2年	41	12	30	28	11	18	6	24	13	12	2	5	10	2	3	8	5
3年	50	14	42	39	12	16	8	19	12	4	2	10	12	4	5	6	7
4年	44	18	37	33	15	14	8	16	7	4	1	7	8	2	2	5	7
5年	58	16	54	43	23	18	10	21	10	4	3	9	9	3	1	6	2
6年	51	12	48	41	19	15	9	14	10	4	5	9	6	3	3	6	2

【うち、総合診療部門が関わっているプログラム(%)】

学年	実施 大学 数	学内	病院 (学 外)	診療 所	在宅	訪問 看護 ステ ーシ ョン	地域 包括 支援 セン ター	介護 施設	リハ ビリ 施設	障害 者施 設	薬局	保健 所	市町 村役 場	学校	保育 施設	消防 署	その 他
1年	19.2	20.0	28.2	27.0	18.2	30.0	28.6	17.9	17.6	13.3	40.0	14.3	50.0	0	0	12.5	11.1
2年	19.5	16.7	33.3	21.4	27.3	38.9	33.3	33.3	23.1	16.7	100	20.0	40.0	0	0	12.5	20.0
3年	30.0	42.9	33.3	35.9	33.3	31.3	25.0	36.8	25.0	0	50.0	10.0	33.3	25.0	20.0	16.7	28.6
4年	40.9	50.0	45.9	45.5	40.0	35.7	37.5	43.8	28.6	50.0	100	14.3	37.5	50.0	50.0	20.0	42.9
5年	46.6	68.8	53.7	58.1	47.8	55.6	50.0	52.4	50.0	50.0	100	33.3	66.7	66.7	0	33.3	50.0
6年	39.2	58.3	41.7	43.9	52.6	46.7	55.6	64.3	40.0	0	40.0	22.2	66.7	66.7	33.3	16.7	50.0

■必修科目のうち 学年対象別 実施場所内訳

必修 選択	学年	対 象	実施 大学 数	学内	病院 (学 外)	診療 所	在宅	訪問 看護 ステ ーシ ョン	地域 包括 支援 セン ター	介護 施設	リハ ビリ 施設	障害 者施 設	薬局	保健 所	市町 村役 場	学校	保育 施設	消防 署	その 他
	必修	1年	地域枠のみ	19	3	14	16	4	7	2	8	6	2	2	3	6	0	0	2
全学生			36	14	23	17	4	7	1	25	10	12	3	3	4	1	2	3	5
2年		地域枠のみ	12	2	10	10	2	6	1	4	3	2	0	3	5	0	0	1	2
		全学生	27	6	15	10	5	9	2	18	9	12	2	2	3	0	2	5	2
3年		地域枠のみ	15	5	14	14	3	5	0	3	2	1	0	3	4	0	0	1	1
		全学生	31	7	21	20	5	9	4	11	9	3	2	6	5	3	4	3	3
4年		地域枠のみ	9	4	7	7	1	3	0	2	2	1	0	1	2	0	0	2	1
		全学生	28	11	23	19	10	9	5	9	4	3	1	5	3	1	1	1	3
5年		地域枠のみ	10	1	9	9	2	3	0	2	1	1	0	1	2	0	0	1	0
		全学生	50	15	45	34	18	14	7	16	9	2	3	6	5	2	0	3	0
6年		地域枠のみ	10	0	9	8	1	3	0	2	1	1	0	1	1	0	0	1	1
		全学生	23	7	23	18	7	4	3	5	5	0	2	3	2	1	0	0	0

【うち、総合診療部門が関わっているプログラム(%)】

必修 選択	学年	対 象	実施 大学 数	学内	病院 (学 外)	診療 所	在宅	訪問 看護 ステ ーシ ョン	地域 包括 支援 セン ター	介護 施設	リハ ビリ 施設	障害 者施 設	薬局	保健 所	市町 村役 場	学校	保育 施設	消防 署	その 他
	必修	1年	地域枠のみ	26.3	33.3	28.6	31.3	25.0	42.9	50.0	37.5	33.3	50.0	50.0	33.3	50.0			50.0
全学生			11.1	14.3	17.4	17.6	25.0	14.3	100	8.0	10.0	8.3	33.3	0	25.0	0	0	0	0
2年		地域枠のみ	33.3	50.0	30.0	30.0	0	50.0	100	50.0	33.3	50.0		33.3	40.0			0	0
		全学生	18.5	16.7	33.3	20.0	60.0	33.3	50.0	22.2	22.2	8.3	100	0	33.3	0	0	20.0	0
3年		地域枠のみ	40.0	60.0	35.7	35.7	33.3	20.0	0	33.3	0	0	0	0	25.0			0	0
		全学生	29.0	42.9	28.6	35.0	40.0	22.2	25.0	27.3	33.3	0	50.0	0	20.0	33.3	25.0	33.3	33.3
4年		地域枠のみ	33.3	25.0	28.6	28.6	0	33.3		50.0	0	0		0	50.0			0	0
		全学生	53.6	63.6	52.2	57.9	60.0	33.3	60.0	44.4	50.0	66.7	100	20.0	33.3	100	100	100	66.7
5年		地域枠のみ	20.0	0	22.2	22.2	0	33.3		50.0	0	0		0	50.0			0	0
		全学生	50.0	73.3	51.1	61.8	61.1	57.1	71.4	50.0	55.6	100	100	50.0	80.0	100		66.7	
6年		地域枠のみ	10.0		11.1	12.5	0	33.3		50.0	0	0		0	0			0	0
		全学生	56.5	57.1	56.5	61.1	71.4	50.0	100	60.0	40.0		50.0	33.3	100	100			

■選択科目のうち 学年対象別 実施場所内訳

必修/選択	学年	対象	実施 大学 数	学内	病院 (学 外)	診療 所	在宅	訪問 看護 ステ ーシ ョン	地域 包括 支援 セン ター	介護 施設	リハ ビリ 施設	障害 者施 設	薬局	保健 所	市町 村役 場	学校	保育 施設	消防 署	その 他	
選択	1年	地域枠のみ	3	0	3	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		全学生	18	2	15	14	4	7	4	7	2	1	0	2	5	1	2	3	1	
	2年	地域枠のみ	5	1	4	3	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		全学生	19	3	14	13	4	5	3	6	1	0	0	1	4	2	1	2	1	
	3年	地域枠のみ	6	1	4	3	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		全学生	21	2	18	15	4	6	4	7	1	0	0	2	5	1	1	2	2	
	4年	地域枠のみ	3	0	3	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		全学生	20	3	18	17	4	5	3	8	2	1	0	2	5	1	1	2	3	
	5年	地域枠のみ	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		全学生	18	2	18	15	5	5	4	7	2	1	1	2	6	2	1	2	1	
	6年	地域枠のみ	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		全学生	28	7	26	23	13	10	7	10	5	3	4	5	5	3	3	5	1	

【うち、総合診療部門が関わっているプログラム(%)】

必修/選択	学年	対象	実施 大学 数	学内	病院 (学 外)	診療 所	在宅	訪問 看護 ステ ーシ ョン	地域 包括 支援 セン ター	介護 施設	リハ ビリ 施設	障害 者施 設	薬局	保健 所	市町 村役 場	学校	保育 施設	消防 署	その 他		
選択	1年	地域枠のみ	0																		
		全学生	16.7	0	20.0	14.3	0	28.6	0	28.6	0	0		0	40.0	0	0	0	0	100	
	2年	地域枠のみ	0																		
		全学生	10.5	0	14.3	7.7	0	20.0	0	33.3	0			0	25.0	0	0	0	0	100	
	3年	地域枠のみ	0																		
		全学生	14.3	0	16.7	13.3	25.0	33.3	25.0	42.9	0			50.0	40.0	0	0	0	0	50.0	
	4年	地域枠のみ	0																		
		全学生	15.0	33.3	16.7	11.8	0	20.0	0	25.0	0	0		0	20.0	0	0	0	0	33.3	
	5年	地域枠のみ	0																		
		全学生	22.2	0	22.2	13.3	0	20.0	0	28.6	0	0	0	0	16.7	0	0	0	0	100	
	6年	地域枠のみ	0																		
		全学生	25.0	42.9	23.1	26.1	38.5	40.0	28.6	50.0	40.0	0	25.0	20.0	40.0	33.3	33.3	20.0	100		

実習の実施場所に関して、学外の病院や診療所、介護施設での実施が多い傾向にあり、必修科目でも同様だった。また選択課目では訪問看護ステーションなどでの実施が多い傾向にあり、選択することで少人数となり、実施できる実習内容が増えたことが窺える。

実施場所のうち総合診療部門が関わっているプログラムは学年が上がるごとに増加する傾向にあった。

## 問5-8 全国の地域医療臨床実習一覧

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
1	地域医療基礎実習	医学部・保健医療学部の第1学年が合同で実習を行う。地域医療の現場を実際に見学し、地域住民の生活を理解し、医療・福祉の連携、専門職連携を実践的に学ぶ。	3~4日	全学生選択
1	早期体験実習Ⅰ	病院、福祉、ケア施設での患者ケア体験。	2	全学生必修
1	医療体験実習	①臨床医学および医療の現場の一端に触れ、将来優れた医師になることを目指して努力するモチベーションを与える。 ②社会生活における初期治療・救急医療の重要性を理解し、医師になる者としての自覚を高めるとともに、医学専門教育を受ける厳しさを身に付けさせる。	2	全学生必修
1	地域医療見学研修	地域医療の現状を把握し、問題点を抽出し、その解決法を考察する。それにより、地域医療に関する見識を深め、その重要性と本質を理解する。	1	全学生必修
1	被災地体験実習	東日本大震災の被災地の地域医療の実情を現地へ赴き、現状視察・講話から学びとる。	1	全学生選択
1	地域医療体験実習	学外施設を訪問(1日)とグループワーク。	1日	全学生必修
1	早期地域医療・臨床実習	1年生10月~12月の毎週火曜日にAクラス、Bクラス隔週で、県内の医療機関および大学各科へ3日間1-3名づつ見学型の実習を行っている。3回のうち2回学外に出る学生と1回出る学生が混在する。学外では、地域医療連携や地域包括ケアについての実習を含んでいる。	1日か2日	全学生必修
1	早期医学・医療体験学習	地域の消防隊員からの講義及び救急車搭乗実習等。	4週間	全学生必修
1	地域実習Ⅰ	地域住民の生活を支える施設(重症障がい児(者)施設、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設)に足を運び、スタッフの方々の活動の一端を担いながら入所している方々と一人の人間として向き合い、健康と幸福について思索する。	7	全学生必修
1	医療・福祉現場でのふれあい	デイケアセンター、特別養護老人ホームなどでの実習介護体験を主目的とする。	2日	全学生必修
1	早期体験実習	医療従事者や患者について理解する。大規模と中小規模の医療機関の役割について比較しながら理解する。	3	全学生必修
1	コミュニティーヘルスインターンシップ(地域医療早期体験実習)	大学病院、社会福祉施設、地域病院の現場を体験して、患者、利用者とその家族に触れ、相手の心を理解し信頼関係を築く課題を学ぶ。	5	全学生必修
1	地域包括医療実習Ⅰ	地域社会で求められている医療・保健・福祉・介護の活動におけるプライマリヘルスケアについて学ぶ。	15	地域枠のみ必修
1	良医への道コース臨床入門実習1	小中学校、ケアハウス、重症心身障害児施設において、多様な地域の人々と触れあう体験を通して、コミュニケーションスキルを身につけるとともに、地域社会が医師に求めることを考える。		全学生必修
1	課外学習プログラム【都道府県】の医療	【都道府県】内の医療機関に従事する医師、【都道府県】職員による講義と意見交換を行う。	9	地域枠のみ必修
1	チーム医療Ⅰ(IPEⅠ)	地域の医療・保健施設の見学を通して、各種の医療専門職を理解する。	2	全学生必修
1	自主創造の基礎2	学外の医療・福祉・保健施設において体験実習を行い、実際の医療等の現場で現状を体験する。	3日間	全学生必修
1	医学実地演習Ⅱ	地域医療を担う病院で、医療業務現場を実体験し、今後の学生自身の取り組み方を理解する。	5	全学生必修
1	EEP1	介護施設などで医療の現場を体験する。	5	全学生必修
1	福祉体験実習	地域の授産厚生施設への1週間の「参加型」実習。	5	全学生必修
1	在宅訪問実習	近隣の方の自宅へ訪問し、人となりや、地域の様子についてまとめ、発表する。	1	全学生必修
1	【都道府県】地域医療学生研修(へき地医療実地研修)	へき地医療の医療施設見学や住民との交流等を通して、へき地における医療の実態及び医師の役割と重要性等を認識させる。	4	地域枠のみ必修
1	福祉施設実習	福祉の役割や意義を学び、施設入所者の方との交流を通してヒューマン・リレーションについて体験的に学習します。【病院名複数記載あり】、【複数施設名記載あり】で、少人数グループに分かれ40時間集中的に実習を行います。指導は各施設の医師もしくは指導者が行います。また、事前にオリエンテーション、実習後には報告会を開催します。	5日	全学生必修

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
1	医療福祉体験実習(医療プロフェッショナルリズム入門)	社会における医療と福祉・介護の接点について、早期に実地体験することにより理解を深め、将来医師となるために必要な学習の動機付けにする。	4日	全学生必修
1	早期臨床体験実習	入学1年目に事前講義を15コマ実施した後、2日間地域病院にて、主に看護師業務を中心に見学および実習をする。	2日	全学生必修
1	初期体験実習	医学生としての自覚を高めることを目的として、実際の医療・福祉の現場を体験する実習。約1か月間の実施期間において、毎週木曜日と金曜日の2日間、各施設をローテーションして実習を行う。	12	全学生必修
1	地域体験実習	地域における様々な世代の方々と交流を行うことで人生のライフサイクルを理解し、さらにコミュニケーション能力を養成することを目的として、週1日を6週間、保育園や診療所にて継続的な体験実習を行う。	8	全学生必修
1	新入生オリエンテーション	超早期教育とし医療福祉施設体験学習を通して施設で生活する人々への理解と関心を深める。	1	全学生必修
1	医薬看連携地域参加型学習	医・薬・看護の3学部が学部混成グループに別れ、地域の一般病院、山間地、離島等を対象に地域社会の実際のニーズを抽出し、学生なればできる課題の解決を学習テーマとしている。	約10ヶ月	全学生必修
1	早期体験実習1c	卒業生の開業クリニックでのシャドーイング。	1	全学生必修
1	地域基盤型保健医療実習	4人グループが【都道府県】下全市町のうち1市町を担当し、文化人類学的方法で地域サーベイを行う。	年間2週間前後	全学生必修
1	早期体験学習	【都道府県複数記載あり】下の病院・診療所や福祉施設・福祉活動団体といった医療・保健・福祉の現場において、学生自身が体験的に関与し、医療や福祉支援を必要とする人たちがそれを支えるスタッフとの交流を通じて、医学を学ぶ自分自身の役割や課題を省察する。	5	全学生必修
1	地域医療体験ツアー	【都道府県】養成医が勤務する診療所を訪問して、地域医療の実践に触れる。グループワークを行い、学びを深める。	2	地域枠のみ必修
1	地域医療特別演習Ⅰ	・地域医療の第一線病院(【地域】)を訪問し、地域医療の現場を見学する。 ・地域医療に従事する医師から話を伺い、地域医療の意義や課題などを理解する。	2日間	地域枠のみ必修
1	【都道府県】学	【都道府県】の文化、歴史、自然などを通じて「【都道府県】」についての理解を深めるとともに、県内の行政機関や医療機関を訪問して県の医療状況を知り、【都道府県】の医療に貢献する意思を涵養する。	5日	全学生必修
1	地域福祉施設体験実習	老人福祉施設の現場で介助体験を通じて理解し、ケアマインドやコミュニケーションスキルを身につける。	4	全学生必修
1	Early Exposure (早期臨床体験実習)	入学後の早い時期から医療の現場を体験し、医学及び医療に対する関心を高め、問題意識を深める。	5	全学生必修
1	早期体験・ボランティア	早期に地域の医療を体験して、その精神を学び動機付けを行う。	3	全学生必修
1	早期地域医療体験実習	早期から地域の医療現場に触れることで、人間性豊かで地域社会に貢献出来る医師となるための心構えや態度を身につける。	10日(5日)	地域枠のみ必修
1	医学入門	医師としての自覚を養うために、福祉の現場を体験することを通じて、社会における保健・医療・福祉の役割を理解する。	1	全学生必修
1	医療プロフェッショナルの実践Ⅰ	地域医療と介護福祉の現場に触れて、医師としてあるべき姿を学ぶ。	4日	全学生必修
1	早期医療体験実習	入学直後の早期に、地域医療の現場を実際に見学し、地域医療の重要性と職種間連携を経験する。	5	全学生必修
1	EME 初期臨床医学体験	早期から医療・福祉に触れ、将来の医療人としての心構え・態度を身につけるために附属病院、福祉施設、市中のクリニックでの実習をおこなう。	15	全学生必修
1	施設体験学習1	地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を学ぶ。	10	全学生必修
1	【都道府県】内基幹病院・中核病院実習	夏期休暇中に、【都道府県】県内の基幹形病院・中核病院で実習後、グループディスカッションを行う。	5日	地域枠のみ必修
1	早期臨床体験実習Ⅰ	地域の各実習施設にて、医療・介護・福祉の現場で見学・体験実習を行う。施設の全体像(施設、スタッフ、患者の概要、主な設備、活動の内容)の把握・記録、看護(介護)体験、リハビリ見学、ケースワーカーとの面接、ケースカンファレンス参加などを行う。	4日間	全学生必修
1	県外地域医療実習	一年次の終了時の春休みに、県外で先進的な地域医療をされている地域を訪問・見学し、【都道府県】における地域医療と比較し、その後の【都道府県】での実践に結び付けられるように深く経験し学ぶ。	4日	地域枠のみ必修
1	早期医療体験学習	患者本位の医療とそれを提供するための仕組みを知るために、患者とその家族の思いおよび地域社会における医療の現状と課題を理解し、医療従事者の役割および医療機関の活動を学ぶ。	10	全学生必修

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
1	チーム医療体験学習	安全・安心な質の高い医療を提供するために、多職種連携による医療の現状を学ぶ。	9	全学生必修
1	放射線基礎医学体験学習	【都道府県】の住民とのコミュニケーションを取りながら放射線実態について学び、放射線リスクコミュニケーションについて理解する。	6	全学生必修
1	衛生学体験学習	1. 人をとりまく環境およびその変動が健康におよぼす影響について理解し、その測定方法を習得する。2. 大気汚染対策、水質汚染対策、化学物質の環境リスク評価、廃棄物対策について実地体験する。	10	全学生必修
1	医と社会	保健学科との共修でリハビリテーション施設において体験実習を行う。	1日	全学生必修
2	健康教育セミナー	医学部・保健医療学部の第2学年が合同で実習を行う。学生が地域の小中学校において児童・生徒向けのヘルスプロモーションを行う。地域医療を展開する上で必要となる基本的な知識と態度を身につけ、地域住民、患者、多職種とのコミュニケーション能力を高めることを目的とする。	2～3日	全学生選択
2	メディカル・カフェ	医学部・保健医療学部の第2学年が合同で実習を行う。学生が地域の連携企業(信用金庫)において市民向けのヘルスプロモーションを行う。地域医療を展開する上で必要となる基本的な知識と態度を身につけ、地域住民、患者、多職種とのコミュニケーション能力を高めることを目的とする。	2～3日	全学生選択
2	早期体験実習Ⅱ	【都道府県】各地域に派遣して、その地域の医療問題を調査し、その解決策を発表する。	3	全学生必修
2	医療概論Ⅱ在宅ケア	(在宅ケアに関するPBLチュートリアル、講義の1週間のコースの中で)診療所・小病院実習。	1	全学生必修
2	地域福祉実習	地域包括ケアシステムの概念のもとで、地域における保健・医療・福祉・介護の分野間および多職種間の連携の必要性を説明できる。福祉や介護の専門職の日常を体験(包括認知症サポーター養成講座への参加)することで、介護保険制度ならびに障害者総合支援法による医療保健福祉制度を踏まえた地域医療における実践能力を養う。	4	全学生必修
2	地域包括医療実習Ⅱ	地域社会で求められている医療・保健・福祉・介護の活動におけるプライマリヘルスケアについて学ぶ。	10	地域枠のみ必修
2	チーム医療実習	地域包括ケアを含め現在の福祉と介護のチーム連携を学び、介護老人保健施設、介護老人福祉施設等で実地実習を行う。実習前講義をすべて受講した者だけが、施設実習を行います。講義後レポート課題と実習での目標設定を行います。	10	全学生必修
2	良医への道コース臨床入門実習2	特別養護老人ホームや重症心身障害児施設において、認知症や障害などによりケアが必要な方の介護の体験を実施することを通して、コミュニケーションスキルを身につけるとともに、ケアに関わる専門職の専門性やスキルについて学ぶ。	8	全学生必修
2	チーム医療Ⅱ(IPEⅡ)	地域の医療・保健施設の見学を通して、各種の医療専門職、プライマリケアに関わる専門職チームを理解する。	2	全学生必修
2	医学実地演習Ⅲ	介護医療施設等の現場を実体験する。	1	全学生必修
2	重症心身障害児療育体験実習	【都道府県】内の特別支援学校、療育病院での重症心身障害児療育施設での「参加型」実習。	5	全学生必修
2	地域子育て支援体験実習	児童館、保育園、幼稚園、プレーパークなどでの地域の子どもの支援施設での「参加型」実習。	5	全学生必修
2	福祉施設実習	医療や福祉の現場を知り、そこに携わる人々がいかに現場を支え、課題に対してどのように立ち向かっているかを学び医師になるために必要な態度、コミュニケーションとは何かを各自考える。	6	全学生必修
2	トリアージ訓練	医学科(2年)・看護学科(3年)の合同実習。附属病院で実施している防災訓練に傷病者・付添・ボランティア役に分かれ参加し地域医療の連携などを見学する。	1	全学生必修
2	医学概論Ⅱ	地域の中核病院、訪問看護介護ステーションにおいて、コミュニケーションをテーマに実習を行う。	2	全学生必修
2	地域社会医学実習	介護・福祉施設での介護体験実習、地域救急医療(救急車同乗)実習。	2	全学生必修
2	地域基盤型保健医療実習	1年からの継続実習。地域サーベイに基づく地域貢献活動の実施。	年間2週間前後	全学生必修
2	地域医療体験実習Ⅰ	【都道府県複数記載あり】下の老人保健施設やケアハウス等を併設する医療機関において、さまざまな医療職者による指導のもと、病診連携、病病連携、在宅医療、多職種連携のチーム医療、地域における疾病予防・保健維持増進の活動等を見学・体験し、地域医療について包括的に理解する。	5	全学生必修
2	早期臨床実習1	・専門職と連携して地域で働くための態度や基本的知識を身につける。 ・保健・福祉・介護サービスに関する現状、医療、との関係、解決すべきことなど学ぶ ・他施設での実習結果を報告会で共有し、これらの学習内容の理解を深める。	5	全学生必修
2	地域医療特別演習Ⅱ	・【大学名】の地域医療の拠点である【病院名】で体験実習を行い、地域医療や家庭医療などの実際に触れる。 ・【病院名】と地域医療機関や地域住民との交流を見学し、地域医療の意義や課題などを知る。	2日間	全学生必修
2	地域実習(保育園実習)	乳幼児とふれあうことにより、ケアマインドやコミュニケーション能力を身につける。また、実習を通じて育児を支援する保育園の現状を学ぶ。	2	全学生必修

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
2	地域実習 (障害者福祉施設実習)	大学病院では、ほとんど経験することの出来ない障害者福祉施設での実習を行うことにより、さらにケアマインドを育成し、医療の現状について理解を深める。	2	全学生必修
2	臨床配属Ⅰ (学外病院見学)	低学年から地域医療の現場を体験し、また身体的、社会的弱者の立場と心情を理解する。さらに医師として医療・福祉のリーダーになるには自分には何が足りないのかを実感し、医を学ぶ動機を得る。	2	全学生必修
2	施設体験学習 2	地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を学ぶ。	10	全学生必修
2	早期地域医療実習	学外の医療・福祉の現場の体験と通じて、医療従事者と医療・福祉を受ける者あるいは地域住民とが、どのような関わり方を持っているのか学ぶ。	4	全学生必修
2	体験学習	①療養型入所施設の見学実習体験(各々1日)②ハンセン病の【施設名】の見学(1日)	2日	全学生必修
2	僻地・被災地医療体験学習Ⅰ	総合診療医として従事する地域の医療を理解するために、【地域】の医療の現状・課題を現場で学習する。	3	全学生必修
2	介護・在宅医療体験学習	総合診療医として従事する地域の医療を理解するために、【地域】の介護、福祉を現場で学習する。	3	
2	医と社会	高齢者施設の見学型実習。	1日	全学生必修
3	地域密着型 チーム医療実習	医学部・保健医療学部の第3学年が合同で実習を行う。地域において、対象症例の事前検討及び当日のインタビューを通して、ナラティブに医療を捉えることを経験し、学びながら多職種連携の重要性を改めて認識するとともに、医療・介護専門職間の連携の実際を理解する。	2~3日	全学生必修
3	地域医療研修	本研修は early clinical exposure の第3段階として位置づけられている。地域医療機関で働く医師になるために、地域医療に関連する分野全体とそれに携わる職種を理解して、医師になる者としての自覚を高めるとともに、地域内で医師が果たすべき役割を習得する。	5	全学生必修
3	地域実習Ⅱ	地域住民や医療福祉行政の担当者など現場で働く医療人にじかに接することで、地域における医療の問題を理解し、地域における医師への期待を知ることで、自分が目指す医師像を描き、医学生としての自覚をさらに高め、幅広い学習への動機づけの機会とする。	7	全学生必修
3	医療概論Ⅲ 地域ヘルスプロモーション	(学内で1週間の健康教育企画準備演習の後に)地域のヘルスプロモーションを実施(介護予防、喫煙予防他)	0.5	全学生必修
3	地域包括医療実習Ⅲ	地域社会で求められている医療・保健・福祉・介護の活動におけるプライマリヘルスケアについて学ぶ。	10	地域枠のみ必修
3	海外地域医療研修Ⅰ	フィリピンにおける海外研修を通して国際的に見た地域医療の現状や問題点を正しく理解し、今後の日本における地域医療の在り方を考える。	14	全学生選択
3	公衆衛生学	広く社会を意識しつつ、その中で将来医師となる自分を位置付けることを目標として、保健・医療の社会性について考える機会を提供する。半期の授業のうち施設実習は2日間。	2	全学生必修
3	医師見習い 体験学習	医療現場の見学、体験を通して医師の業務、役割を理解し、医師、他の医療専門職、患者とコミュニケーションすることで、自らを省察し、医療人として求められるコミュニケーション能力、プロフェッショナルリズム(自覚、利他、共感、患者に対するいたわり・敬意・責任感、守秘義務、プライバシー保持、生涯学習能力)を修得する。また、現場の医師の様々な働き方を見学し、自らの医師としてのキャリアについて考察する。	2	全学生必修
3	EEP2	主に、家庭医療専門医の診療を見学し、グループワークなどで地域包括ケアシステムについての理解を深めるためのものである。	5	全学生必修
3	地域医療実習	地域の医療機関の役割を理解する、多職種の業務について理解しコミュニケーションの取り方を学ぶ、患者家族医療職のコミュニケーションについて学ぶ。	3	全学生必修
3	女性医師の ロールモデル 実習	主体的に目標を立て、自ら実習を依頼し、見学実習を行う。地域医療などで活躍する先輩女性医師の下での見学を通して、医療場面での対話、医師患者関係、チーム医療の様子、地域医療あるいは病院医の役割などについて気付きを得る。また、女性医師のライフサイクルを理解し、キャリア開発を計画できるようになる。	2~7	全学生必修
3	在宅ケア実習	訪問看護ステーションでの「参加型」実習。	5	全学生必修
3	高齢者医療 体験実習	介護老人保健施設での「参加型」実習。	5	全学生必修
3	地域医療実習	地域医療の実際を観察し、地域医療での医師の役割、内容を身をもって体験する。	3	全学生必修
3	公衆衛生学 Ⅰ	企業の安全衛生担当者による会社概要、作業内容、安全衛生活動の概要について説明を受け、産業医から企業における医師の役割について説明を受ける。老人福祉、老人保健に関わる法制度とその問題点を理解する。高齢者福祉と公的介護保険について学び、一般の市民に向けた自治体の健康福祉施策と予防医学に対する理解を深める。	3	全学生必修
3	地域医療学 実習	【大学名】総合診療部、【病院名】、【診療所名複数記載あり】などで働く医師とほぼマンツーマンで診療などに参画し、それぞれの施設の地域医療に果たす役割、施設間の連携を学び、それぞれの施設での問題点や今後課題を一つ選んで調査し、レポートにまとめる。	5	地域枠のみ必修
3	医学・医療と 社会Ⅰ (介護体験実習)	介護施設での実習での体験・データ分析をとおして具体的な課題の解決策を整理し、「健康保持・増進」を果たす医師の役割を理解する。	1	全学生必修

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
3	研究室配属(地域医療推進講座)	【市区町村】国民健康保険【診療所名】が毎年夏に実施している「地域医療体験ツアー」に参加し、以下の実習をとおし、地域医療及び家庭医療の理解を深める。 ・【診療所名】での診療実習・保健・福祉との連携など地域包括ケアの体験実習・海水浴場での救護ボランティア。	5	全学生必修
3	救急車同乗実習	3年次に1当務24時間(8:30～翌日8:30まで)、1消防署に一人で滞在し救急隊員と行動を共にし主に患者搬送を見学・実習する。	1日	全学生必修
3	健康社会医学	健康社会医学では、地域において実習を行い公衆衛生医の仕事の概要を理解するとともに臨床医として必要な公衆衛生・疫学の知識を得る。	3	全学生必修
3	基礎医学セミナー	地域医療、医学教育に関する研究。	120	地域枠のみ必修
3	基礎自主研修	【市区町村】および【組織名】の寄附により設置された地域医療学寄附講座が、4ヶ月間で地域枠を中心とした学生を対象として地域医療に関連した研究を実践・指導する。	約4ヶ月	地域枠のみ必修
3	地域包括ケア実習	老人保健施設、慢性期病院、訪問看護ステーションなどで地域包括ケアシステムの運用を体験する。	4	全学生必修
3	早期臨床実習2	・専門職と連携して地域で働くための態度や基本的知識を身に着ける。 ・保健・福祉・介護サービスに関する現状、医療、との関係、解決すべきことなど学ぶ。 ・他施設での実習結果を報告会で共有し、これらの学習内容の理解を深める。	5	全学生必修
3	地域医療特別演習Ⅲ	・地域医療の第一線病院(【市区町村複数記載あり】)を訪問し、地域医療や家庭医療などの実際に触れる。 ・地域医療機関や地域住民との交流を見学し、地域医療の意義や課題などを知る。 ・地域医療に従事する医師から話を伺い、地域医療の意義や課題などを知る。	3日間	地域枠のみ必修
3	地域医療実習1	クリニック実習、幼稚園・保育所実習、ホスピス実習のいずれかを選択し、地域医療の現状を知り、将来、地域医療の担い手となるための心構えを身につける。	4日	全学生必修
3	社会医学課題実習	過疎地域での医療を理解する。高齢者の多い地域での保健活動を実体験する。	1～3	全学生必修
3	課題実習	地域の医療現場や山間部等へき地医療の現場で地域医療に関する実習を行う。	28	全学生選択
3	3年次研究室配属(地域医療教育ユニット)	訪問診療を行っている医師、訪問看護を行っている看護師、実際に訪問診療・訪問看護を受けている方、家族の方からのインタビューを通じて、在宅診療の現状ならびに問題点について考え、それらを過去の文献と比較しながら、考察し、まとめる。	20	全学生選択
3	臨床医学入門Ⅱ(地域医療体験)	地域医療機関(一部離島含む)での体験実習。	4日	全学生必修
3	公衆衛生学(保健所実習・各施設実習)	保健所を代表とする保健/医療/福祉に関連した学外施設での実習。	4日	全学生必修
3	地域医療体験	地域の特徴、健康の社会的決定要因、地域における市中病院や関連施設の使命と役割、多職種協同、チーム医療の実際、医師患者(・家族)関係、コミュニケーションの実際、病歴聴取や緩和ケアの実際、地域における保険・介護・福祉活動の実際を学び、これまで学んだ基礎医学・臨床医学知識を定着させる。	10	全学生必修
3	早期臨床体験実習Ⅲ	地域医療の現場を更に深く知り、臨床で求められるものとは何か、その為に今後何をどう学ぶかを考えてもらうこと、および臨床医学への関心と学習意欲を持ってもらうことを目的とし、各施設での実習スケジュールに従い、体験学習を行う。	5日間	全学生必修
3	総合診療・総合外科・地域医療	チュートリアル形式の講義・グループディスカッションと2日間の診療所実習。	2週間	全学生必修
3	研究室配属(地域医療)	学生が希望する研究室に所属して、生命科学研究に必要な基本的な手技、研究に対する考え方や心構え等について学ぶ。地域医療・総合診療医学講座に所属した学生は、各自研究テーマを設定し、調査、データ収集分析を行い、最終的にまとめて発表を行う。	20	全学生選択
3	地域医療研究	地域医療に関する調査や、研究を行う。	数日	地域枠のみ必修
3	離島地域病院実習	県内の離島地域の総合病院で約1週間実習(多職種との交流も含め)、その間関連診療所やその他訪問診療・看護等、現在の県内の医療の現状を学ぶ。	5	全学生必修
3	僻地・被災地医療体験学習Ⅱ	総合診療医として従事する地域の医療を理解するために、【地方名】の医療の現状・課題を現場で学習する。	3	地域枠のみ必修
3	救急・災害医療体験学習	【都道府県】内の災害拠点病院の救急診療部門の見学を通して、救命救急・災害医療に必要な知識やスキルがどのようなものかについて体験する。	5	全学生必修
3	社会医学Ⅴ(公衆衛生学演習)	【市区町村】の病院等を訪問し、地域医療の現状を学ぶ。	1	全学生選択
3	関連職種連携ワーク	複数の学部学生とチームとなり課題として与えられた事例に対して対応を検討する。	15	全学生必修
3	医と社会	医学科単独で市内診療所において診療所医師の診療を見学、シャドーイングする実習。	1日	全学生必修
4	地域医療学	町立病院等の地域医療施設での体験学習。	2日	全学生必修

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
4	地域医療臨床実習(選択)	地域医療(含へき地医療)を第一線の現場で体験する。	5	全学生選択
4	地域包括医療実習Ⅳ	地域社会で求められている医療・保健・福祉・介護の活動におけるプライマリヘルスケアについて学ぶ。	11	地域枠のみ必修
4	海外地域医療研修Ⅱ	フィリピンにおける海外研修を通して国際的に見た地域医療の現状や問題点を正しく理解し、今後の日本における地域医療の在り方を考える。	14	全学生選択
4	チームワーク実習	IPE(Interprofessional Education)でもっとも大切とされる「共に学ぶ」という理念のもと、臨地実習の課題にチームで取り組み、専門職間の連携・協働のあり方について学ぶことを目的とする。半期の授業のうち臨地実習は2日間。	2	全学生選択
4	臨床実習2 コース導入クリニカルワークショップ 2-1 地域医療実習	【都道府県】内を中心に地域の病院、診療所、小中学校で地域の保健医療福祉介護について、その連携について学ぶ地域医療体験実習と、【大学名】と合同で専門職連携実習のいずれかを選択必修として全員が実習に参加している。	4	全学生必修
4	チーム医療Ⅳ(IPEⅣ)	模擬患者から情報収集し、各医療専門職に相談しつつ入院患者の退院計画を作成し、ディスカッションを行うことにより、地域医療についての理解を深める。	2	全学生必修
4	Pre.BSL 社会医学(含実習)	学内外医療施設等で医療提供における組織医療の重要性を認識し、チームリーダーとしての医師の在り方を理解する。	9日間	全学生必修
4	総合診療医学実習	総合診療科では学内1週間、学外1週間で実習をしている。	10	全学生必修
4	夏期特別診療所実習	診療所での医師と患者の one-to-one の触れ合いを体得する。限られた facility を最大限に生かした効率の良い診療の実際に触れる。頻度の高い患者との接触による疾患の時間的推移と治療効果の評価を観察する。診療所と病院の連携と機能分担について理解を深める。	1週間	全学生選択
4	家庭医実習	地域の開業医、小規模病院での外来中心での実習。	5	全学生必修
4	基本臨床実習(地域)	県の地域医療の拠点である付属病院において各診療・夜間外来の実習を行い実地医療を体験する。	3	全学生必修
4	介護と在宅医療	大学近隣の家庭を訪問して、問診・血圧測定、尿検査等、保健指導の実施を通じた在宅医療を学ぶ。	5日	全学生必修
4	総合内科学(第4学年見学型臨床実習)	医療チームの一員として、病だけをみるのではなく、病を患う人をみる医療に積極的に参加し、総合的臨床能力の基礎としての知識・技能・態度を習得する。	2日	全学生必修
4	医学・医療と社会Ⅱ(環境保健学実習)	様々な公衆衛生の現場での実習により、健康を阻害する要因を把握するとともに、健康を増進する要素を発見し、保健の立案をとおして健康管理の在り方を学ぶ。	7	全学生必修
4	コミュニティ・ヘルスケア応用:家庭訪問実習	地域在住の高齢者の家庭を訪問し、生活や健康状態についてのヒアリングを通じて、日常生活環境における健康維持等に関する課題を学ぶ。	2	全学生必修
4	地域医療早期体験実習	県内約40の中小病院で医師や看護師、その他の職種のシャドーイングを行う。	3	
4	診療参加型臨床実習A(地域医療)	診療内容に在宅診療が含まれる中小病院や診療所で医師、多職種の仕事に参加する、または仕事を見学する。	5	全学生必修
4	地域社会医学実習	・専門職と連携して地域で働くための態度や基本的知識を身に着ける。 ・保健・福祉・介護サービスに関する現状、医療、との関係、解決すべきことなど学ぶ。 ・他施設での実習結果を報告会で共有し、これらの学習内容の理解を深める。	7	全学生必修
4	【市区町村】健康講話ツアー	住民への健康講習会に参加し、健康講話を実践する。	1	全学生選択
4	地域医療特別演習Ⅳ	・最近のゲノム解析技術の飛躍的な発展により、疾患関連遺伝子の探索研究が大きく変貌していることを踏まえ、実際に、【病院名】の患者検体をを用い、DNA シークエンシングの基礎や次世代シークエンサーによる網羅的ゲノム解析を実地体験し、臨床遺伝学を素養として身につける。	2日間	地域枠のみ必修
4	地域医療体験	周辺の医療施設で地域医療を体験する。医療現場のスタッフや、患者さんと交流する。	4	全学生必修
4	公衆衛生学(社会医学実習)	保健・医療・福祉に関するテーマを選択し、実地訪問調査等を行い、発表を行うことでそれぞれのテーマについての理解を深める。	4	全学生必修
4	衛生学(社会医学実習)	保健・医療・福祉に関するテーマを選択し、実地訪問調査等を行い、発表を行うことでそれぞれのテーマについての理解を深める。	4	全学生必修
4	衛生学(環境保健実習)	【施設名】の見学及び、大気・水・騒音等の測定実習を行い、環境保健に関する知識の定着を図る。	1	全学生必修

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
4	地域医療ワークショップ	【都道府県】の地域医療における課題について議論。	毎週木曜日昼休み	地域枠のみ必修
4	研究室配属(総合内科・総合診療科)	地域の健康問題をテーマとした研究を立案し、地域の現場でアンケートや聞き取り調査を実施し、発表する。	2か月から3ヶ月間	全学生選択
4	研究室配属(総合外科・地域連携学)	地域における外科診療に関する住民のニーズ、外科医のやりがいなどをアンケート調査等で明らかにし、発表する。	4週間	全学生選択
4	臨床実習内における地域病院実習	・必修実習(ポリクリ)における、地域医療部からの地域クリニック等への1~2日間・選択実習(クリクラ)における、学外病院実習(1~3か月、土日は除く)。		全学生必修
4	臨床実習 I	附属病院の1つである地域の病院で臨床実習を行う(本学は、今年度3年生までの在籍のため、2020年度に初めて実施予定)。	14	全学生必修
5	地域医療実習	地域医療施設での臨床実習。	14	全学生必修
5	臨床実習 I	診療参加型実習を行う中で、外科・小児科・産婦人科の実習のうち8週を地域の病院で行い、現場を通して医療の実際を学ぶ。	56	全学生必修
5	地域医療臨床実習	地域医療における医師の役割と重要性を再確認し、見識を深めるとともに、実際に地域医療の診療に参加することで、専門に分化した医療にとらわれず、総合性を重視したプライマリ・ケアの充実を図ることを目的とする。	20	全学生必修
5	地域医療実習	地域医療を実践する医療機関の臨床に参加し、地域医療・プライマリケアを理解する。	5	全学生必修
5	【都道府県】研修病院実習	1年間の学内実習終了後、5年の9月末に3週間、県内の研修病院を中心とした各病院で診療参加型実習を行っている。	3週間	全学生必修
5	地域医療臨床実習	地域医療(含へき地医療)を第一線の現場で体験する。	10	全学生必修
5	地域保健実習	保健所において地域の保健福祉活動を理解し、その法的根拠及び具体的な業務内容を学ぶ。	5	全学生必修
5	地域中核病院実習	日常診療で遭遇する実際の症例を通して、地域の中核病院での医療を理解する。	5 1日7時間	全学生必修
5	衛生学公衆衛生学実習	10以上ある実習プログラムの中で「地域医療班」を設定。全国(離島や山間など)の診療所・病院で実習。	5	全学生選択
5	地域医療実習	大学病院の周辺の2地域(【市区町村】あるいは周辺地域、および【市区町村】)の医療機関で1週間(月~金)実習。		全学生必修
5	地域基盤型臨床実習	市中病院に1ヶ月滞在して実習をおこなう。	20	全学生必修
5	地域医療実習	プライマリケア、病診連携、病病連携、地域の救急医療、在宅医療、チーム医療、地域における疾病予防、健康増進対策を学ぶ。	5	全学生必修
5	地域医療実習	地域社会(離島を含む)で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して、各々の実態や連携の必要性を学ぶために、地域のプライマリ・ケアを体験する。病診連携・病病連携を体験する。地域の救急医療、在宅医療を体験する。多職種連携のチーム医療を体験する。地域における疾病予防・健康維持増進の活動を体験する。	2週間	全学生必修
5	地域医療実習	地域医療の現場でこれまでに修得した知識・技術・態度を生かした実践的な実習を行う。	5	全学生必修
5	臨床実習(地域医療実習)	学外医療施設にて患者のケアの場を俯瞰し、ニーズや背景をくみ取りながら展開する医療の重要性を学ぶ。	4	全学生必修
5	学外臨床実習	臨床医学の学習を通して地域医療や高齢者医療の実態を理解し、それらを実践するために必要な知識・技能を身につける。		全学生必修
5	総合診療医学実習	医療面接、診療録の作成、臨床推論、プロブレムリストの立案方法を中心に診断のプロセスを概説する。内科救急指針について概説する。地域包括ケアシステムの意義と必要性、高齢者医療、地域診療、在宅診療について概説する。	5	全学生必修
5	臨床実習 I	【市区町村】から離れた【病院名】圏に総合診療と併せて2週間の実習を行っている。	10	全学生必修
5	総合内科学(第5学年診療参加型臨床実習)	特定の疾患にかかわらず、種々の疾患や様々な不定愁訴をもつ患者を全人的に診療することに積極的に参加し、内科一般診療におけるプライマリケアの分野で主要な病態、診断、治療を理解し、各種スタッフとの円滑な連携を尊重した医療を学ぶ。生活習慣病、性差医療、漢方医学などのレクチャーを通して、その必要性、意義を学ぶ。ユニット講義で体得した学習内容を発展させ、各種カンファレンスや抄読会に参加する。関連のユニット講義の到達目標も合わせて達成する。	5日	全学生必修
5	地域医療学(第5学年診療参加型臨床実習)	地域医療現場に接することで、地域医療に必要な総合診療能力の重要性を理解し、また、地域医療を支える医療以外の分野の人たちと交流し、地域包括ケアを行うためのチームワークの重要性を理解する。	10日	全学生必修
5	学外臨床実習	学生が自らのニーズ(将来の進路等)に応じて、自分に必要なカリキュラムを組む。多様な施設での将来に応じた知識を習得し、医療チームに積極的に参加・協力する。	5日	全学生必修
5	BCC実習	4年次後半にてスチューデントドクターに認定された学生が【都道府県】内の中規模病院に5日間学外実習を実施する。	5	全学生必修

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
5	臨床実習Ⅰ	関連教育病院などで臨床実習を行う。	11	全学生必修
5	救急車同乗実習	救急科実習の一環として、消防署見学および救急車同乗実習を行う。	1	全学生必修
5	多職種連携教育	喘息、糖尿病、禁煙支援などのシナリオとSP参加型の実習。	1	全学生必修
5	臨床実習：訪問医療・訪問看護実習	総合内科実習の中で、【市区町村】内の協力地域医療施設において、2日間の訪問医療・訪問看護実習を行う。	2	全学生必修
5	在宅医療実習	在宅医の訪問診療に同行し、患者自宅、又は居住系施設が医療現場となる在宅医療を経験する。	5.5	全学生必修
5	地域病院実習	地域病院実習を通じて地域の病院で求められる保健・医療・福祉等の活動を通して、病態を把握し、地域との連携の必要性を学ぶ。	22	全学生必修
5	診療参加型臨床実習Ⅱ（地域医療）	地方都市の地域医療病院で診療業務に参加する。	20	地域枠のみ必修
5	臨床実習（診療所実習）	将来地域に貢献できる医師となるために、【都道府県】下の実習協力協定診療所において、保健・医療・福祉・介護等の活動を通して診療所の地域社会における役割を学び、その実態や連携の必要性についての理解を深める。	5	全学生必修
5	臨床実習（国立病院機構【病院名】）	本学の地域医療教育研究拠点である【病院名】において、common diseaseを持つ患者の初期診察手順を習得するとともに、【都道府県】の地域医療の現状を理解する。	10	全学生必修
5	臨床実習（地域医療機能推進機構【病院名】）	本学の地域医療教育研究拠点である【病院名】において、患者のもつ問題点を的確に抽出し、全人的医療を行うため、初期診療を中心とした診断治療手順を習得するとともに、【都道府県】下の医療の実態を理解し、地域医療に貢献できるための能力を身につける。	10	全学生必修
5	地域医療・総合診療実習	臨床実習期間内に、地域医療、総合診療を体験し、臨床推論や身体診察、総合診療医の役割、地域医療の役割などを深める。	10	全学生必修
5	地域医療特別演習Ⅴ	・【病院名】臨床実習カリキュラムにおいて、診療参加型臨床実習（クリニカルクラークシップ）として内科4部門・外科1部門（各4週間）の履修を設定しているが、内科4部門のうち1部門を【病院名】で行う。・地域包括ケアにおけるプライマリケア医と地域の病院の役割と連携について学び、プライマリケアの素養を涵養する。	20日間	地域枠のみ必修
5	臨床実習（公衆衛生学配属）	・保健所および老人保健施設で地域の保健活動の実際を学ぶ。	1日間	全学生必修
5	臨床実習（【病院名】配属）	・地域医療の現場で地域包括ケアとプライマリケアの現場を経験し、総合診療の素養を磨く。	5日間	全学生必修
5	臨床実習Ⅰ	地域医療総合教育研修センター（【病院名】）で外来、病棟、在宅医療、訪問看護を実習する。	5	全学生必修
5	臨床実習Ⅰ	近接性、包括性、継続性、協調性、責任性などの特色をもつ地域医療の本質を理解するために、【都道府県】内の30医療機関において2週間の実習を行う。	10	全学生必修
5	臨床実習Ⅰ 地域医療	一週間の泊まり込みで地域医療現場を経験する。	5	全学生必修
5	指定学外実習Ⅰ	希望する診療科において、四国の学外病院での実習を行う。地域医療実習も選択肢に含まれる。	20	全学生選択
5	指定学外実習Ⅱ	希望する診療科において、四国の学外病院での実習を行う。地域医療実習も選択肢に含まれる。	20	全学生選択
5	プライマリ・ケア/地域医療実習	へき地医療機関、市中医療機関、福祉施設等で実習。	10	全学生必修
5	学外実習	県内の初期臨床研修病院で臨床実習をおこなう。	15	全学生必修
5	総合内科実習	地域の病院に赴き、初診患者の診察、診断などをおこなう。	5	全学生必修
5	臨床実習Ⅰ（地域医療教育ユニット）	外来初診診療・在宅診療の実習を通じて、病院・診療所外来や地域医療現場での症候診断学、プライマリケアを学ぶ。 訪問看護や老人保健施設での実習を通じて、地域医療における医師およびほかの医療専門職の役割と連携について学ぶ。	5	全学生必修
5	地域医療実習	へき地の中核病院を拠点としたプログラムによる実習（病院、診療所、介護施設、在宅）、発表会は大学で実施。	2週間	全学生必修
5	クリニカルクラークシップⅠ（総合内科・総合診療科）	2週間のうち3日間を地域の総合診療部門を有する病院、診療所で総合診療、多職種連携などを学ぶ。	2週間	全学生必修
6	診療参加型選択科臨床実習「地域医療学」	クリニカル・クラークシップの一環で、【都道府県】内の地域医療施設で実習する。	4週	全学生選択

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
6	臨床実習Ⅱ	診療参加型実習を行う中で、4週間をへき地の医療機関での実習にあて、現場を通して医療の実際を学ぶ。	28	全学生必修
6	長期地域医療実習	少人数体制で密度の高い長期の地域医療実習を通じて、診療スキル・地域医療・医療体制を学ぶ。	28	全学生選択
6	BSLアドバンスコース (総合診療コース)	地域の病院、クリニック等で臨床実習を実施する。	10	全学生選択
6	公衆衛生学実習	地域の医療・保健機関で公衆衛生学の観点から実習を行う。	5	全学生必修
6	選択臨床実習	学外コースを設置しており、該当コースを選択した学生は学外施設において地域診療に関連する臨床実習を行う。	8週間	地域枠のみ必修
6	選択制クリニック・ワークショップ	地域医療を希望する学生は、実習期間8週の中で希望する期間、実習が可能である。	48	
6	学外病院実習	地域の病院で学生が医療チームの一員として参加し、積極的に診療業務を分担し、知識、思考法、技能、態度の基本を実践的に学ぶ。	21-28	全学生必修
6	学部連携地域医療実習	6年時に複数学部のグループが、診療所・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーションなどの施設で連携の取れた参加型の実習を行う。	10	全学生選択
6	クリニックワークショップ	学生が希望する病院・診療科で4週間×2ヶ所の実習を行う。	4週間×2ヶ所	全学生必修
6	地域保健医療学実習	地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護の機能、体制を踏まえ、地域における医療や保健活動を体験的に学び、各々の現状や連携の必要性を理解します。	10日	全学生必修
6	総合診療医学実習	外来診療にて、医療面接、身体診察(許容範囲内で)を実施する。内科救急指針を念頭においた診療を実施することの意義を概説する。総合診療病棟で大学病院から地域医療に移行する患者の診療を見学する。地域診療や在宅診療を介して、地域包括ケアの意義と必要性、高齢者医療の一端を経験し、今後の医療に重要な分野であること、また患者中心の医療を実践する行動技法を概説する。	15	全学生選択
6	臨床実習 医師会・クリニックコース	大学近隣の医師会・クリニック等における臨床実習を通して地域医療の実際を学ぶ。	12	全学生選択
6	臨床実習 学外市中病院コース	学外病院(市立病院等)における臨床実習をととして地域医療の実際を学ぶ。	12	全学生選択
6	臨床実習 地域医療コース	離島、僻地の診療所における臨床実習をととして地域医療の実際を学ぶ。	12	全学生選択
6	臨床実習Ⅱ	【都道府県】内2週間、【都道府県】外2週間(【大学名複数記載あり】)において在宅医療を中心とした地域医療の見学実習。	28	全学生選択
6	総合内科学(第6学年選択型臨床実習)	特定の疾患にかかわらず、種々の疾患や様々な不定愁訴をもつ患者を全人的に診療することに積極的に参加し、内科一般診療におけるプライマリケアの分野で主要な病態、診断、治療を理解し、各種スタッフとの円滑な連携を尊重した医療を学ぶ。生活習慣病外来、女性外来、睡眠外来、漢方外来など複数の外来診療に指導医とともに参加し、その必要性、意義を学ぶ。ユニット講義で体得した学習内容を発展させ、臨床実習だけではなく、各種カンファレンスや抄読会に参加する。関連のユニット講義の到達目標も合わせて達成する。	10日	全学生選択
6	臨床実習Ⅱ	10週間学内または地域病院などの学生の希望診療科で臨床実習を行う。	50	全学生必修
6	臨床実習Ⅱ	地域病院における約7週間のクラークシップ。	35	地域枠のみ必修
6	家庭医療学長期地域実習	地域の病院にて、総合診療科2~3か月、外科1か月を組み合わせた参加型の臨床実習を行う。	3~4か月	
6	臨床実習(学外臨床実習)	【都道府県複数記載あり】下の実習協力協定病院において、地域の第一線の医療・介護・保健・福祉等の実際につれ、多様な臨床経験を重ねることにより、それまでに経験した臨床実習での学修成果の統合を図るとともに、将来のキャリア形成への一助とする。	30	全学生必修
6	選択実習	6年次の4~6月に選択実習の期間を設け、うち5・6月で希望する学生には、地域の基幹病院や診療所での臨床実習を経験する機会(地域医療実習)を設定している。	4週間	全学生選択
6	臨床実習Ⅱ(【市区町村】)	地域の病院における診療参加型臨床実習。	20日	全学生選択
6	個別計画実習(地域医療)	地域医療活動を積極的に行っている医療機関において、診療実践をととして、地域医療の在り方を体験する。	10	全学生選択
6	地域医療特別演習Ⅵ	・最終学年である6年次において、自ら実習施設・内容・計画を考える「自由選択実習」を設定している(4週間×2施設)。そのうち、地域枠学生については希望により地域医療施設での実習を斡旋する。また、成績・語学力などが一定水準を満たし本人が希望する場合は、海外における家庭医療・総合診療の現場を見学し実習を行うことを推奨する。	20日間	地域枠のみ必修
6	地域医療実習2	地域(へき地)医療体験実習、クリニック実習のいずれかを選択し、地域住民の健康管理および医療の実態を知るとともに、プライマリケアの在り方、全人的医療の重要性を学ぶ。	5日	全学生必修
6	キャリアパスメンター実習	グループあるいは個人での面談、症例検討会、抄読会への参加し、学生の能力を最大限に発揮し得るキャリアパスを実現するため、必要な知識、技能、態度を身に付ける。		全学生必修

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
6	選択制臨床実習	学内だけでなく、県内各地の多様な医療現場を体験することにより、地域医療を担う意欲や使命感を高めさせる。	45	全学生必修
6	臨床実習Ⅱ	地域の教育関連病院で、指導医とともに患者を受け持ち、クリニカルクラークシップを行う。	60	全学生選択
6	臨床実習Ⅱ	5年次の地域医療実習を踏まえ、更に総合医療について学ぶため、学生の希望する期間、実習する。		全学生選択
6	臨床実習Ⅵ	地域医療を実践している医療機関において、医療チームの一員として実際の診療に参加する、診療参加型臨床実習を行う。	20日	全学生選択
6	地域医療実習	県内の医療機関でプライマリケアや地域医療に関する基本的教育を行い、医師になる動機づけのみならず、地域への帰属意識を深める。	5	全学生必修
6	選択実習Ⅰ	希望する診療科において、学内・学外での実習を行う。地域医療実習も選択肢に含まれる。	20	全学生選択
6	選択実習Ⅱ	希望する診療科において、学内・学外での実習を行う。地域医療実習も選択肢に含まれる。	20	全学生選択
6	選択実習Ⅲ	希望する診療科において、学内・学外での実習を行う。地域医療実習も選択肢に含まれる。	20	全学生選択
6	夏季・春季地域医療合宿	地域医療の現場を実際に参加し、地域医療の重要性と職種間連携を経験する。	5-10日	全学生選択
6	臨床実習Ⅱ(地域医療教育ユニット)	実習を通じて地域医療の現状と課題を理解し、地域医療に貢献できる能力を身に付ける。	20	全学生選択
6	臨床修練Ⅱ(離島実習)	【島複数記載あり】における離島実習。	3週~4週	全学生選択
6	クリニカルクラークシップⅡ(総合内科・総合診療科)	地域の病院、診療所、介護施設、在宅など希望する場所で主として総合診療を学ぶ。	4週間	全学生選択
6	離島・地域医療実習	離島・へき地で働く現場の医師と共に入院患者の受け持ち、外来診療、訪問診療、巡回診療、保健・福祉分野に関わる活動等を体験し、プライマリ・ケアについて学ぶ。	10	全学生必修
1~3	地域枠「地域医療実習」	「地域特性と地域医療」をテーマに、定期の医学部の講義、実習とは別に地域での実習を通じて地域医療を実習させて地域医療に対する意識付けを諮ることを趣旨とする。	5	地域枠のみ必修
1~4	【都道府県】地域枠奨学生夏期・春期病院見学	【都道府県】内指定地域医療機関における夏期および春期休暇を利用した病院見学。	10	地域枠のみ選択
1~4	【都道府県】地域医療体験セミナー	地域の医療・介護施設の見学を行い、地域医療に関わる医療専門職とディスカッションを行うことにより、地域医療現場・実状についての理解を深める。	2	全学生選択
1~4	緊急医師確保枠学生地域医療特別実習1	休暇中の月曜日～金曜日までの5日間、1日6時間、合計30時間【大学名】教育協力施設等の医療施設で実習を行う。	5日	地域枠のみ必修
1~4	夏期地域医療セミナー	地域医療(中山間地)の現場に一泊二泊で赴き体験する。	2	地域枠のみ必修
1~4	冬期地域医療セミナー	合宿学習を通して地域医療の理解を深める。	2	地域枠のみ必修
1~4	春期地域医療セミナー	地域医療(中山間地)の現場に1~2泊で赴き体験する。	2~3	地域枠のみ選択
1~4	ふるさと枠セミナー	地域医療について定例的に学ぶ。地域枠の一体感を醸成する。	1回/週	地域枠のみ必修
1~4	夏期地域医療実習	【都道府県】の山間や離島における地域医療を学ぶため、地域住民や地域の医療者と交流を行う。	3日	全学生選択
1~5	新医学セミナー	【都道府県】内の様々な医療機関に2泊ないし3泊で見学実習に行っている。	3	全学生選択
1~5	【市区町村】の医療にふれる会	【市区町村】の生活と医療にふれ、【市区町村】における地域医療や予防医学の現状と課題について学ぶ。	2	全学生選択
1~5	【都道府県】地域医療研修会	本学地域枠学生と【大学名】大学生とが合同で地域医療の現場で地域医療の見学と職種間連携を学ぶ。	3日間	地域枠のみ必修
1~6	メディカルプロフェッショナルリズム実習	プロフェッショナルリズムとは何か、地域社会における実習での基本的態度や行動について学ぶ。		全学生選択
1~6	地域医療体験セミナーin【市区町村】	【地域】での地域医療の現場を体験する。【大学名】大学生・卒業医師との交流を通じて、医師という職業への自覚を深める機会を提供する。	1	地域枠のみ必修

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
1~6	地域医療体験セミナーin【都道府県】、数日型地域医療体験セミナーin【都道府県】	【都道府県】内の医療機関等において、1日～数日間にわたり実際の地域医療の現場を体験する。医師・医療スタッフ等との交流を通じて、医師という職業の役割を学び、医師としての地域への定着を図る。	46	地域枠のみ必修
1~6	【都道府県】臨床研修病院等見学バスツアー	【都道府県】内の臨床研修病院等を1日で複数見学する。医学部医学科生が地域実習や臨床研修病院等を選択する際の情報提供の一環とし、県内の地域医療の魅力を参加者に伝えることを目的としている。	6	地域枠のみ必修
1~6	在宅医療体験実習	医学科・看護学科の合同の希望者参加型実習。希望した日数にて在宅医療の見学をする。	希望日数	全学生選択
1~6	夏季体験実習	県内の地域医療拠点病院や診療所における体験実習。各機関が参加者を募り、地域医療医学センターがコーディネートを行っている。	学生の希望による	全学生選択
1~6	地域枠学生対象地域保健医療研修	【都道府県庁名】に委託し、行政施設の見学実習を行う。	年2回	地域枠のみ必修
1~6	地域枠B学生対象推薦病院・推薦自治体訪問	地域枠B学生が、夏季休暇を利用して、推薦病院、推薦自治体での実習を行う。	年1回	地域枠のみ必修
1~6	地域医療夏季セミナー	【都道府県】養成医師が勤務する医療機関を訪問し、参加型実習、住民との交流、地域の文化を学び、地域医療への理解を深める。	3	全学生選択
1~6	コンソーシアム実習(地域医療学概論)	【大学名】との連携講座で、夏季休暇中に【大学名】(【都道府県】)あるいは【大学名】において合計30時間の特別講義、ワークショップを履修する。	5日	全学生選択
1~6	地域医療体験実習Ⅰ	【都道府県】の医療・保険・介護・福祉の関連施設において、二次医療圏別にプログラムされた実習を行う。	3	全学生選択
1~6	地域医療体験実習Ⅱ	【都道府県】の医療施設及び全国の地域医療、災害医療、へき地・中山間地の医療、離島医療の現場で、地域医療に関連した参加型実習を行う。		全学生選択
1~6	【都道府県】夏期地域医療研修	夏休みを利用して、【都道府県】と総合診療医学分野が共催して行う【都道府県】内の地域医療機関での地域医療実習。	3	全学生選択
1~6	医学生サマーセミナー	ワークショップ(【大学名】医学部地域枠学生、【大学名】学生等学生が参加)※全員愛媛県出身。	1	地域枠のみ必修
1~6	地域医療実習	地域医療の現場を実際に参加し、地域医療の重要性と職種間連携を経験する。	2	地域枠のみ必修
1~6	【都道府県】シームレス地域医療人育成プログラム	医学科・看護学科合同実習で【都道府県】過疎地域の病院や地域包括支援センターでの現場実習、訪問看護見学、地域連携会議等に参加し地域包括ケアを学ぶ。	5	全学生選択
1~6	家庭医道場	年2回、中山間地に赴き、地域に人との交流、ワークショップなどをおこなう。	2	全学生選択
1~6	【地域】医療道場	【都道府県】西部の【地域】の基幹病院に出向き、診療科に分かれてマンツーマンの実習指導を受けたり、講演を聴いたりする。	3	地域枠のみ選択
1~6	地域医療セミナーin【都道府県】	毎年場所を変え、【都道府県】内の地域拠点病院と自治体の協力を得て、地域住民との交流、首長や院長の講話、体験実習などにより地域医療の魅力、地域の健康課題を学ぶ。	2日間	全学生選択
1~6	【都道府県】医学生地域医療ガイダンス	地域医療の現状を把握し、地域医療への意識醸成を図ることを目的に【都道府県】及び【大学名】医学部(地域医療・総合診療医学講座及び医療人育成支援センター)で協力し、実施している。	3	地域枠のみ必修
1~6	地域医療トレーニングキャンプ	へき地を訪れ、そこに宿泊して住民と交流し、意見を聴取する。(医学科、保健学科、歯科、薬学部生(他大学)が対象)。	2	全学生選択
1・2	選択必修地域医学・医療学入門	特定の地域の保健医療福祉介護や社会的文化的地理的な特徴を調査し、地域診断のプロセスを体験するとともに、地域住民を支える機関として保健センター、社会福祉協議会、回復期リハビリテーション病院を訪問し、実際の地域住民の方ともその地域で暮らすことについてお話を伺い、その地域の課題やそこで自分たちができることについて話し合い、発表会を開催した。	9	全学生選択
1・2	【都道府県】へき地医療研修会	【都道府県】内のへき地医療施設の医療従事者研修会に参加し、講演拝聴、グルーワーク参加。	2	地域枠のみ必修
1・2	全人的医療体験学習	【都道府県】下の実習協力診療所による訪問診療を受療中の患者及びその家族を、約2か月ごとに訪問し、患者の疾病だけでなく、一個人としての患者に適切に対応できる医師となるために、心理面、経済面、家族社会背景等の患者を取り巻く状況を幅広くとらえながらケアを行う全人的医療について学ぶ。	10	全学生選択

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
1・2	地域医療実習	地域の医療機関、自治体を訪問し、患者や住民と接する。	5	地域枠のみ必修
1・2	地域医療ゼミ(しまで学ぶ地域医療)(へき地・離島医療入門)	地域体験型ワークショップ。	3日	地域枠のみ必修
2～5	離島医療体験実習	離島という普段とは違った環境における医療を経験することで、プライマリケアを担う医師の素養を培う。	5日	全学生選択
2・3	夏季・春季休暇期間の地域枠実習	夏季・春季休暇期間中に地域医療4領域に関連した実習を行う。【都道府県複数記載あり】地域枠学生の希望者対象。	1～2	地域枠のみ選択
2・3	早期体験実習	1年次に実施した早期体験実習での学びを基に、「域包括ケア実習」として近隣の回復期リハビリテーション病院等で実習を行なっている。	2	全学生必修
2・3	僻地医療の実態	僻地医療従事経験のある医師による僻地医療の実情を検証する。	3	全学生選択
2・3	テュートリアル選択配属(地域配属実習)	テュートリアル選択配属において、地域医療医学センターを配属先として選択した学生が、地域の診療所等で実習を行う。実習に加えミニレクチャーや発表も行う。	5週間×2クール	全学生必修
2・3	地域医療先進地域見学ツアー	国内で先進的に地域医療・包括ケアに取り組む施設を訪問し、地域医療の実践ならびに見学を行う。	3	地域枠のみ選択
2・3	地域医療体験実習	臨床医学を学ぶに先立って地域の医療現場に触れることで、これから学ぶべき知識と目指していく方向性を再度確認する。	5日	全学生必修
2・3	early exposure実習(早期体験実習)	早期体験実習として様々な実習先を選択し3日間実習するというもの。1日は関連急性期病院のため2日間を対象として記載した。	2	全学生必修
3～6	課外学習プログラム【愛称名】IPW実習	【都道府県】内の4つの大学と合同で専門職連携実習として地域の保健医療福祉の場でひとりの患者利用者のよりよい暮らしの実現のためのケアプランを多職種に目指す学生が連携して作成する。	6	全学生選択
3・4	シャドウイング	医療機関の現場で見学型の実習を行い、地域医療の実際を体験しながら学び、同時に地域を知る。	14	全学生必修
3・5	ケニアHIV関連施設視察実習	ケニアのへき地のHIV診療施設、障害児施設の視察。	10	地域枠のみ選択
4～6	臨床実習CC step1advanceCC	CC step1では、1日在宅医療診療所において外来と訪問診療を体験するadvanceCCでは、県内39の学外の医療機関において、訪問診療、介護施設等での医師の診療場面を体験する。	21	全学生必修
4～6	クリニカル・クラークシップ	地域の医療機関で臨床実習を行う。	32	全学生必修
4～6	臨床実習	臨床実習は、大学附属病院と地域の関係教育病院から選択。最低二週間のへき地にある医療機関での実習を義務づけている。	学生により異なる	全学生必修
4～6	全国医学生離島実習	【諸島】の島々を訪れ、診療所や病院、保健センターなどを訪問し、住民と交流しながら【地域】の文化や環境を学ぶ。	7	全学生選択
4・5	診療参加型コア科臨床実習「内科B」	クリニカル・クラークシップの一環で、地域医療施設で実習する。	4週	全学生必修
4・5	全科臨床実習「地域医療学」	地域医療において重要である諸事項に関する演習を行う。	4日	全学生必修
4・5	BSL 総合診療	地域の医療機関等で外来診療と在宅医療を中心に体験するほか、救命救急センターで救急の基本手技等を学習する。	20	全学生必修
4・5	地域保健医療論	公衆衛生学の定義、疾病予防対策や地域保健などの公衆衛生の実際の応用例について講義し、また、地域保健関連施設の施設実習で現状を見学してもらい、課題について発表してもらう。	5	全学生必修
4・5	クリニカル・クラークシップ	クリニカルクラークシップ70週のうち、地域医療機関での1週間の実習を義務付けている。	5	全学生選択
4・5	総合診療学・地域医療学	地域(へき地を含む)における医療提供の概要と課題を理解するとともに、その一員として活躍するための基本的な資質・能力を身につける。	4週間	全学生必修
4・5	地域医療実習	学外に出て、プライマリケアを中心として地域の診療所・小規模病院でどのような診療が行われているかを見学・体験します。また診療所や病院内で行われる医療のみでなく、これらの医療機関が地域の予防・保健活動、福祉などにどのように貢献しているかも学ぶ。	5.5	全学生必修

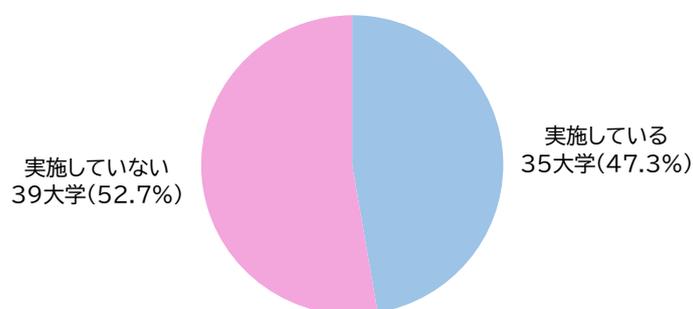
学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
4・5	家庭医療学 クリニカルク ラークシッ プ	地域の診療所、病院にて、参加型の臨床実習を行う。	4 週間	全学生必修
4・5	臨床実習Ⅰ (地域)	地域行政単位(自治会)への派遣によるグループ的アプローチ。 地域住民への個別アプローチ。	5 日	全学生必修
4・5	病院実習	県内へき地等の医療現場で実習を行い、地域医療の魅力や特性を理解し、地域医療に従事する医師の役割及び責任についての認識を深める。	2	
4・5	臨床実習Ⅳ・ Ⅴ (地域医療学 実習)	地域医療を実践している医療機関において、地域社会で求められる医療・保健・福祉・介護の活動について学ぶ。	5 日	全学生必修
4・5	診療参加型 臨床実習クリ ニカル・クラ ークシッ プ	1 年間のうち1週間、【都道府県】内または【市区町村】の様々な地域医療施設を回る実習。	5	全学生必修
4・5	医学実習Ⅰ	地域医療(へき地・離島を含む)で求められる保健・医療・福祉・介護の活動に参加することにより、各々の現状及び課題を理解し、地域医療の在り方を学ぶ。	5	全学生必修
4・5	クリニカル・ クラークシッ プⅠ 地域医療学 (在宅医療を 含む)、CMC	地域医療の現場を通して、地域における保健・医療・福祉・生活のあり方を知り、他職種の役割とそのなかで医師が果たす役割・地域包括ケアの実際を学ぶ。	10	全学生必修
4・5	臨床実習(離 島医療・保健 実習)	【島複数記載あり】コースに分かれて実施し、離島の地域包括医療・地域保健実習を行う。	5 日	全学生必修
4・5	臨床実習(地 域包括ケア実 習)	地域包括支援センター(1.5 日)、消防署(1 日)、訪問看護ステーション(1.5 日)での利用者宅訪問を含む実習。	5 日	全学生必修
4・5	臨床実習(地 域病院実習)	【都道府県】本土部の臨床研修病院において、臨床実習を行う。	5 日	全学生必修
5・6	地域医療実 習	上記の5年生9月の3週間の研修病院実習終了後、6年の夏までの間、4-5週間の選択式の診療参加型臨床実習となるが、その際、全員、1クールは【市区町村】以外の各種病院、診療所への地域医療実習を選択する。1~2名程度の少人数で4-5週間各機関に派遣される。ここでは、チームの一員の主治医として病棟や外来患者を受け持ちながら、できるだけ地域医療連携や地域包括ケア、多職種連携の経験を積む実習を企画していただいている。	4-5 週間	全学生必修
5・6	クリニカルク ラークシッ プ	4 週ずつ選択式の9つの診療科での実習のうち、3つの診療科を県内の医療機関において行う。	12 週間	全学生必修
5・6	総合診療科/ 医療概論Ⅴ	大学総合診療科および【都道府県】内の地域医療施設2-3施設における実習。	20	全学生必修
5・6	選択クリニカ ル・クラーク シッ プ総合診 療科	国内各地域医療機関における地域医療・総合診療科実習。	20	全学生選択
5・6	地域医療臨 床実習(選択 必修)	地域医療を実践する態度、技能、知識を一層深める。	20	全学生選択
5・6	臨床実習(選 択)	医学と医療に関する患者、ならびに地域のニーズを知る。患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療を提供することの重要性を学び、地域医療に貢献する意思を涵養する。	20	全学生必修
5・6	地域医療実 習	5年の7月~6年の4月まで行われる臨床実習に組み込まれている。(そのため一部学生においては6年)地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を学ぶ。	5 日	地域枠のみ必修
5・6	選択臨床実 習	5~6年次にかけて実施される選択臨床実習(4週×5クール)のうち、地域医療を希望する場合、最大3クールを学外の診療所等で実習を行うことができる。また、学内の総合診療部門と提携した地域医療実習も新設され、希望する場合は1クールの地域医療実習を行うことができる。(よって、合計で最大4クールの地域医療実習を行うことが可能。)	4 週間~ 16 週間	全学生必修
5・6	緊急医師確 保枠学生地 域医療特別 実習2	教育開発センター、地域医療学講座、県費奨学生配置センターが緊急医師確保枠学生のために企画する面談、会議、研修会に参加する。	5 日	地域枠のみ必修
5・6	選択制臨床 実習 地域医 療プライマ リ・ケア実践 コース	今後の超高齢化社会におけるプライマリケアと地域医療、在宅ケアの重要性について学ぶ。	10 日	地域枠のみ必修

学年	プログラム名	内容	日数	対象者及び必修/選択
5・6	医学実習Ⅱ	医学実習Ⅱは、診療参加型実習を主とし、医療の基本的な考え方を深めるとともに、卒後臨床研修に従事するに十分な知識・技能・態度のレベルに達することを目標とした実習となる。本実習では、地域医療実習の充実のため、各学生が少なくとも3週間の配属を義務付けている。	15	全学生必修
5・6	地域医療実習	地域の中核病院や診療所で実習し、地域医療の実際について学ぶ。	10日	全学生必修
5・6	特別臨床実習(クリニカルクラークシップ・インターンシップ)地域医療実習	選択実習として行われている特別臨床実習において、地域医療実習を提供している。正規の授業カリキュラムとして、県内の地域医療の協力病院から1つを選び、3週間1タームで計15ターム、地域医療実習を行っている。	5日間×3回×15ターム	全学生必修
5・6	クリニカル・クラークシップⅡ 地域包括ケア実習	医療のみならず地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して、地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性や重要性を学ぶ。	16	全学生必修
5・6	高次臨床実習	離島を含む県内全域の中核病院において、主に内科系(一部、放射線科あり)・外科系(一部、整形外科あり)・在宅医療のコースから選択し、診療参加型実習を行う。	4週間	全学生必修
不明	学生セミナー	・【都道府県】本島と近辺の診療所・介護施設・役場等において、学生の自主的計画の元、見学・実習を行い、【都道府県】の地域医療の現状を学び、将来のキャリアプランに役立て、【都道府県】の医療に貢献できるようにする。	3	地域枠のみ必修

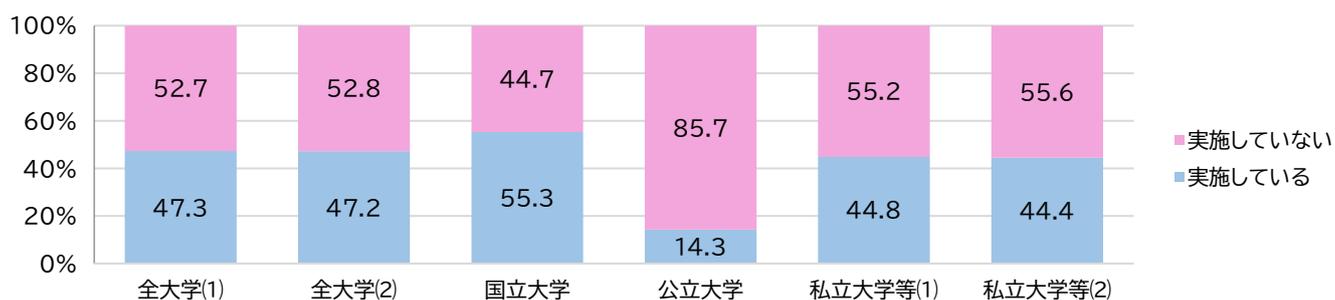
問6-1 医学生に対する地域医療教育をテーマとしたFD等(意見交換会等を含む)は実施していますか。

	全大学(1) (74 大学)		全大学(2) (72 大学)		国立大学 (38 大学)		公立大学 (7 大学)		私立大学等(1) (29 大学)		私立大学等(2) (27 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
実施している	35	47.3	34	47.2	21	55.3	1	14.3	13	44.8	12	44.4
実施していない	39	52.7	38	52.8	17	44.7	6	85.7	16	55.2	15	55.6

FD等の実施状況  
全大学(1)(74大学)



FD等の実施状況

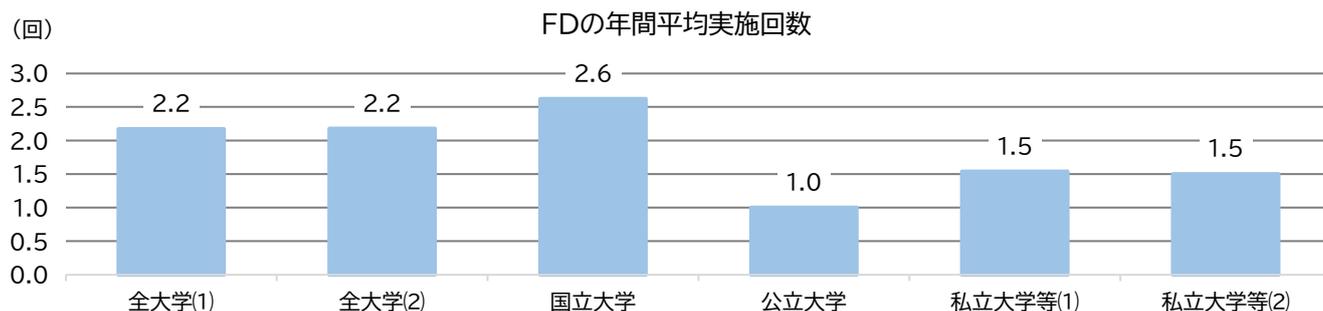


回答のあった74大学中、FD等(意見交換会等を含む)を実施していると回答した大学は35大学(47.3%)であった。大学種別の割合では、国立大学(55.3%)と私立大学等(44.8%)で高く、公立大学(14.3%)で低かった。

## 問6-2 FDの年間平均実施回数

		全大学(1) (35 大学)	全大学(2) (34 大学)	国立大学 (21 大学)	公立大学 (1 大学)	私立大学等(1) (13 大学)	私立大学等(2) (12 大学)
実施回数	FD 数の合計	76	74	55	1	20	18
	実 施 大 学 数	35	34	21	1	13	12
	平 均 ( 回 )	2.2	2.2	2.6	1.0	1.5	1.5

※集計対象は「問6FD実施をしている」と回答した大学を母数として算出しています。

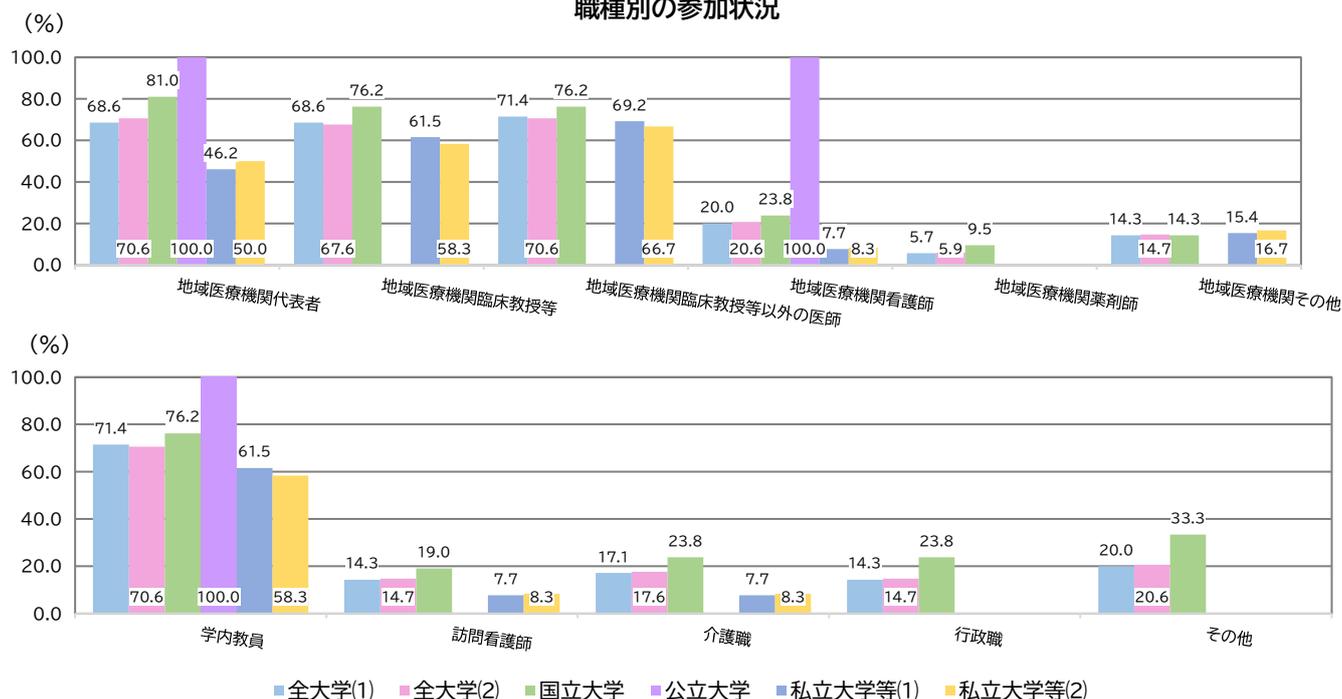


FDを実施している35大学中、年間のFD変換平均実施回数は平均2.2回であった。  
また多い順に、国立大学(2.6回)、私立大学等(1.5回)、公立大学(1.0回)の順で、国立大学で実施回数ともに多い傾向にあった。

### 問6-3 職種別の参加状況

	全大学(1) (74 大学)		全大学(2) (72 大学)		国立大学 (38 大学)		公立大学 (7 大学)		私立大学等(1) (29 大学)		私立大学等(2) (27 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
FD 実施大学数	35	47.3	34	47.2	21	55.3	1	14.3	13	44.8	12	44.4
	導入大学数	割合(%)	導入大学数	割合(%)	導入大学数	割合(%)	導入大学数	割合(%)	導入大学数	割合(%)	導入大学数	割合(%)
地域医療機関代表者	24	68.6	24	70.6	17	81.0	1	100	6	46.2	6	50.0
地域医療機関臨床教授等	24	68.6	23	67.6	16	76.2	0	0	8	61.5	7	58.3
地域医療機関臨床教授等以外の医師	25	71.4	24	70.6	16	76.2	0	0	9	69.2	8	66.7
地域医療機関看護師	7	20.0	7	20.6	5	23.8	1	100	1	7.7	1	8.3
地域医療機関薬剤師	2	5.7	2	5.9	2	9.5	0	0	0	0	0	0
地域医療機関その他	5	14.3	5	14.7	3	14.3	0	0	2	15.4	2	16.7
学内教員	25	71.4	24	70.6	16	76.2	1	100	8	61.5	7	58.3
訪問看護師	5	14.3	5	14.7	4	19.0	0	0	1	7.7	1	8.3
介護職	6	17.1	6	17.6	5	23.8	0	0	1	7.7	1	8.3
行政職	5	14.3	5	14.7	5	23.8	0	0	0	0	0	0
その他	7	20.0	7	20.6	7	33.3	0	0	0	0	0	0

職種別の参加状況



FDに参加する職種については、地域医療機関臨床教授等以外の医師と学内教員が最多で、FDを実施している25大学(71.4%)で参加していた。次いで、地域医療機関臨床教授等24大学(68.6%)、地域医療機関代表者24大学(68.6%)の参加が多く、地域医療機関看護師7大学(20.0%)、地域医療機関その他5大学(14.3%)、地域医療機関薬剤師2大学(5.7%)の参加が比較的少なかった。

また、その他として医学生、学長、副学長、保護者、PT、OT、ST、医療従事者を目指す高校生、自治体首長、事務職員、副病院長があげられていた。

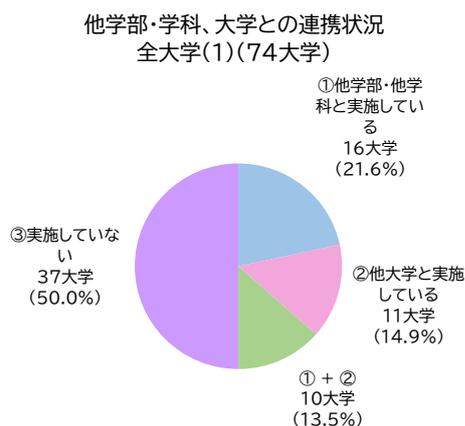
## 問6-4 FD等の実施内容について

- 振り返り、医療面接ロールプレイのフィードバック、健康の社会的決定要因のプログラムの進め方他。
- チーム医療実習協力施設との意見交換会を年2回、臨床実習(選択)協力施設との意見交換会を年1回開催している。実習の運営に関する意見交換のほか、医学教育の流れについても情報を提供している。
- 6年生の実習を受け入れている実習施設との懇談会(意見交換会)を実施し、現在の医学教育の内容や課題について情報提供するとともに、学生の実習に関する意見を伺っている。
- 本学医学部の医学教育の現状、地域医療実習での学び、施設からのアンケート実施と意見交換。
- 地域医療実習実施に際し、本学の求める教育内容に関し十分な理解を求め、また相互に意見交換を行うことで実習内容がより充実したものになるよう努めている。また、評価のばらつきが生じないよう、平準化に努めるとともに、課題としてあがってくる問題点の改善に資している。
- 地域医療医師奨学金受給者のカリキュラムを検討する会議。長期休暇中の実習についての検討や、卒前卒後学生の合同報告会の検討、各地域におけるキャリア形成プログラムの情報交換等を実施。
- 地域基盤型臨床実習を担当する実習責任者の方に集まっていただいて、意見交換をしている。
- 地域医師会の代表者と夏期特別診療所実習についての意見交換している。
- 1.学外実習の指導担当者への研修、交流会を実施している。2.クリニカルクラークシップの診療科指導医への出張FDを行っている。
- 地域医療教育の現状及び本学の地域医療実習の説明・意見交換。
- 地域医療実習を行っている医療機関に集合し、これまでの実習の振り返りや、他大学での事例などを講演してもらうなどしている。
- 地域実習や在宅診療実習の実習担当者の地域の先生方や事務担当の方と意見交換を、実習前に年1回ずつ行っている。
- 学外地域医療実習の説明会を各医師会で実施している。
- 第1学年、第3学年、第5学年の学生の地域医療研修会に合わせて、FDを実施している。
- 問5に記載の実習のうち①早期体験学習において、実習協力施設・団体と本学との間で、当該年度の実習の振り返り及び次年度の実習の実施計画について協議するとともに、大学教員ではない各施設・団体の医療職者・職員等が行う実習指導のあり方について意見交換・情報共有する、打合せ会を実施している。
- 上記の「地域医療・総合診療」の教育医療機関の指導医(臨床教授等)と、教育内容や方法について話し合い、改善に向けて検討する機会を定期的に設けている。
- 早期臨床実習1、地域社会医学実習において意見交換と事例発表をおこなっている。
- 【都道府県】内の病院を見学して感想を全大会で報告する。
- 医学教育関連病院協議会を年に2回開催して、地域の医療機関の代表者と学内の教員が意見交換を行っている。
- 地域医療実習終了後、5年生及び6年生の地域医療実習の取り組みについて、各地域の拠点で、FDを兼ねた地域医療教育連絡会を実施している。
- 地域医療体験実習の実習協力施設の先生方を対象として、地域医療教育の先駆者からの講話、グループワークを行い、望ましい地域医療教育の在り方についてディスカッションを行っている。
- 4~5学年に実施している臨床実習Ⅳ・Ⅴにおける地域医療学実習について、実習内容、評価方法等について、意見交換を行っている。
- 5年生の臨床実習Ⅰ地域医療で学生を受け入れている5病院の代表者が集まって学生評価や次年度への改善点について話し合う。優秀レポートの選考もここで行う。外部講師による講演を行う年もある。
- 地域医療の現場を実際に体験してもらい地域医療マインドを醸成することを目的とした地域医療セミナーについて、【都道府県】を中心に関係の教育機関、医療機関及び自治体が協力して実行委員会を組織しており、セミナーの実施内容に関する意見交換やセミナー実施後の振り返りを行っている。
- 【都道府県】地域医療教育研究会として一年に2回定期開催しており、毎回約50名の参加者がいる。内容としては、地域医療をテーマにした貢献会や実習報告会を行っている。
- 教育関連病院の先生方と医学教育プログラムについて、意見交換を行っている。
- 【都道府県】内各地域の医療体制の現状と展望、地域医療における機能分担や医療連携について、関係教員が報告や講演、行政などとの意見交換を行っている。
- 地域医療体験実習終了後に、実習指導に関わった各施設担当者に参集頂き、実習方法の問題点や改善策を討議している。

- 数年1回、医学教育に関する講演(医学センター教授)、学外講師による地域医療教育の講演を受けていただき、その後、地域医療教育に関する種々のテーマでグループディスカッションを行っている。地域医療実習においては毎年、地域医療学センター教員が実習病院に出向き、実習に関する情報交換、反省会を行っている。また、実習報告書によって様々な施設における実習内容を共有するように努めている。
- 学外実習施設の指導者等を対象とし、学外講師による講演、学生発表、グループワークを行っている。
- 地域医療実習報告において、地域の医師や、学外の医師を交えた意見交換を行っている。
- ①学内の各科臨床実習代表者会議  
②【病院名】(教育関連病院)と大学医学科との評議会  
③各関連協力病院と大学医学科との協議会
- 離島地区 4ヶ所(【市区町村複数記載あり】)で毎年開催している。学生の感想や評価を示し、実習指導者との意見交換を行った後、地域医療に関連した講演会を開催している。

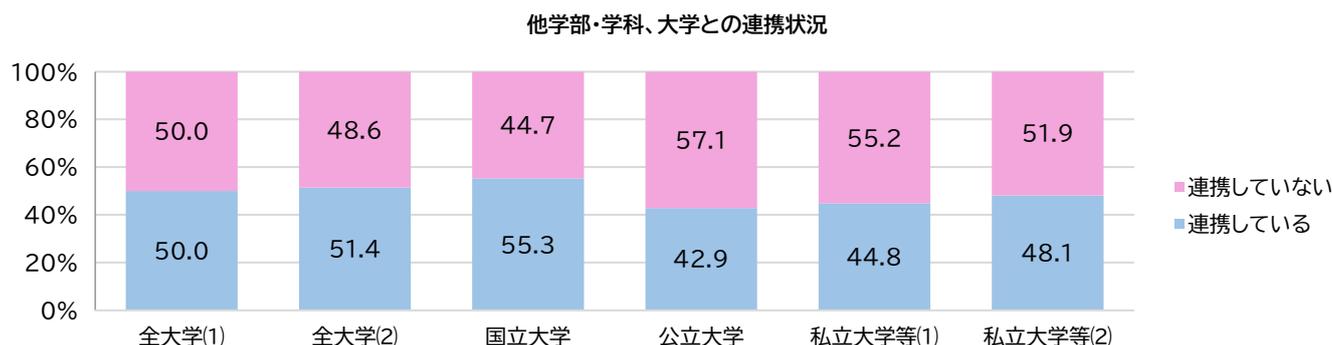
問7-1 医学生を対象とした地域医療教育プログラムについて、他学部・他学科、他大学との連携はありますか。(実習協定など)

	全大学(1) (74 大学)		全大学(2) (72 大学)		国立大学 (38 大学)		公立大学 (7 大学)		私立大学等(1) (29 大学)		私立大学等(2) (27 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
①他学部・他学科と実施している	16	21.6	16	22.2	10	26.3	2	28.6	4	13.8	4	14.8
②他大学と実施している	11	14.9	11	15.3	2	5.3	0	0	9	31.0	9	33.3
① + ②	10	13.5	10	13.9	9	23.7	1	14.3	0	0	0	0
③実施していない	37	50.0	35	48.6	17	44.7	4	57.1	16	55.2	14	51.9



他学部・他学科名
医学部看護学科
医学部保健学科、経済学部、理学部
看護学部
看護学部、薬学部
看護学部・保健医療学部
歯学部
歯学部、薬学部、保健学科
歯学部・薬学部・保健医療学部
総合政策学部、外国語学部、保健学部
保健医療学部看護学科・理学療法学科・作業療法学科
保健学類看護学専攻

	全大学(1) (74 大学)		全大学(2) (72 大学)		国立大学 (38 大学)		公立大学 (7 大学)		私立大学等(1) (29 大学)		私立大学等(2) (27 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
連携している	37	50.0	37	51.4	21	55.3	3	42.9	13	44.8	13	48.1
連携していない	37	50.0	35	48.6	17	44.7	4	57.1	16	55.2	14	51.9



回答のあった74大学中37大学(50.0%)で他学部・他学科、他大学と連携があった。16大学(21.6%)が他学部・他学科と、11大学(14.9%)が他大学と連携しており、10大学(13.5%)は他学部・他学科と他大学の両方と連携していた。大学種別では、多い順に、国立大学(55.3%)、私立大学等(44.8%)、公立大学(42.9%)の順であった。連携している他学部・他学科としては、看護学科、保健学科、歯学部、薬学部、理学療法学科、作業療法学科などの医療系学部・学科の他、法学部や教育学部などの記載があった。

## 問7-2 他学部・他学科、他大学との連携内容についての自由記載

- 問5のプログラムを医学部、保健医療学部、【大学名】が合同で実施している。
- 早期体験実習Ⅰについては、医学科、看護学科の合同実習として行っている。
- 他大学から受け入れ希望があった場合に、随時。特に決まっている大学はない。
- 看護学部との協定は取り交わしていないが、第1学年「コミュニティーヘルスインターンシップ(地域医療早期体験実習)」にて医学部・看護学部ともに同じ社会福祉施設、地域病院にて実習を行っている。また、実習後に医学部・看護学部合同で実習の発表会を開催している。
- 【大学名】保健学科生とは、同一科目を履修する形式であり規定はとくにない。【大学名】とは大学間の単位互換協定を交わしている。
- 協定書を添付。
- 1～4年次に専門職連携教育(IPE)を上記学部とともに実施している(Step1～Step4)。以下、学生用学習ガイドより転載。  
『Step1「共有」は、患者やサービス利用者とふれあう体験、コミュニケーション・ワークショップや数々のグループワークなどをとおして、患者・サービス利用者の理解、コミュニケーション能力、相互尊重、といった、患者・サービス利用者中心の医療の実現に必要な専門職連携の基礎的能力を身につけるステップです。  
Step2「創造」は、医療現場や保健、福祉現場での見学実習やグループワークをとおして、専門職連携の在り方を理解し、さまざまなチームのありようを発見・考察することによって、患者・サービス利用者中心のチーム・ビルディングをしていくための能力を身につけるステップです。  
Step3「解決」は、専門職チームにおける意志決定、倫理調整をグループワークで実際に体験することで、チームにおける対立や葛藤を回避せず、向き合って、患者・サービス利用者中心に、さまざまな問題を解決するための能力を身につけるステップです。  
Step4「統合」は、Step1から積み上げてきたIPEに関する学びと、それぞれの専門分野の学びを統合し、退院計画を立案することで、患者・サービス利用者中心の医療を実践するための能力を身につけるステップです。  
以上の4つのステップをとおして、高い専門性と患者・サービス利用者のためにという意識をもち、自律しつつ、さまざまな専門職と連携し、お互いを高めあい、学ぶことをつづけていく、そのような「自律した医療組織人」の育成を目指しています。』
- 【大学名】は【病院名】での救急医療実習を提供し、【大学名】は【病院名】での地域医療実習を提供する。
- 本学、【大学名複数記載あり】の【都道府県】地域枠学生(3年生)3大学の合同ワークショップを実施。  
医師による講演、グループワーク、病院見学等を通じ将来の進路を考える機会を提供すると共に、仲間意識の醸成を図っている。
- 本学医学生の参加は有志に限られている。  
多職種の教員が学生とともにワークショップを行う。  
高齢患者の退院時を想定したPBLテュートリアル課題を多職種連携教育として行っている。  
正規の授業以外の時間帯に異分野連携で実施するにあたりICTを利用した教育実践を行っている。
- 6年次に複数学部のグループが、診療所・歯科診療所・薬局・訪問看護ステーションなどの施設で連携の取れた参加型の実習を行う。
- 6年生の選択制臨床実習について、学生から希望があれば、互いの付属病院、分院でも行える。4週間1診療科での実習として行う。
- 自らの専門分野を学びつつ、その知識をもとに本学が連携している【市区町村複数記載あり】などの自治体における地域課題に取り組んでいくための準備として、地域における大学の役割、地域の諸問題、地域での学び方について、講義とグループワークを通じて主体的に学んでいく。
- 第4学年、学生を対象に、医療における多職種連携協同及びチーム医療の意義を学ぶことを目的とした「多職種連携セミナー」をカリキュラムに組み込んでおり、高齢者医療を念頭においた地域医療教育を実施している。
- 【大学名複数記載あり】の医学生の選択実習の部分を【大学名】で引き受け、【大学名】の医学生と共に地域医療機関へ配し、同じ内容の実習を行っている。
- 総合診療学・地域医療学に関する実習において、保健学類看護学専攻との多職種連携を行っている。
- 当該大学の臨床実習生を受け入れている。
- 地域医療に関する講義を医学科及び看護学科合同で開講し、早い時期から地域医療やチーム医療への意識向上を図っている。また、その授業の中で、両学科の学生で混合チームを作り、TBL授業も実施している。
- 医学科2年次のトリアージ訓練では、看護学科生とペアを組み事前で開催されるオリエンテーション時から交流を持つよう心掛けている。また、医学科3年次にはAIDS講習会を看護学科と合同で開催しディスカッションをするよう指導している。
- 4年生向け選択講義「地域におけるIPE」において、多職種連携教育を実施しています。
- 医薬連携地域参加型学習において、医・薬・看護の3学部の1年生が学部混成グループに別れ、地域の一般病院、山間地、離島等を対象に地域社会の実際のニーズを抽出し、学生なればできる課題の解決を学習テーマとしている。
- 【都道府県】主催で、1年に2回、県内4大学の地域枠学生を対象とした必修の研修会が実際されており、それに参加している。
- 年2回程度の休日を利用した多職種連携教育を学内、地域病院で実施。参加は、希望学生を募集。
- 問5に記載の実習のうち①早期体験学習については、本学医学部看護学科第1学年配当の人間発達実習と連携し、事前学習(グループワーク等)、実習、事後学習(ディスカッション)等を、医学科と看護学科の学生を混在させた形式で実施することにより、医学と看護学の両領域の視点を相互に意識させ、多職種連携の重要性への気づきを促している。
- 地域医療体験ツアーでは、医学科と保健学科の学生が参加し、地域医療現場の視察とともに学びに係るグループワークを行う。  
地域医療健康講話ツアーを、医学科、保健学科、【大学名】の学生が参加し、共同作業を行い、一つのテーマで健康講話を実施する。  
【ツアー名】では、医学科、保健学科、経済学部、理学部、【大学名】の学生が参加し、まちづくり事業の一部のよいとこ健診の業務に携わるとともに、地域住民との交流を行う。
- 【大学名】と本学の教員が参加して1週間行う夏季特別講座。
- 課外で希望者のみに施行しているが、「【セミナー名】」を毎年実施している。【市区町村】へ1年をとおし季節ごとに(年4回程度)出かけ、住民と直接交流しながら、専門の違う学生たちがみる視点の違い、お互いの専門性について考える機会としている。チーム医療、多職種連携を学ぶ教育の基礎になっている。
- 連携はしていないものの、地域医療体験実習のとある実習協力施設において【大学名】の実習を時期が重複することがあり、同性の場合は同じ宿舎で共同生活をしてもらい、互いに刺激を受けあっているとの報告がある。

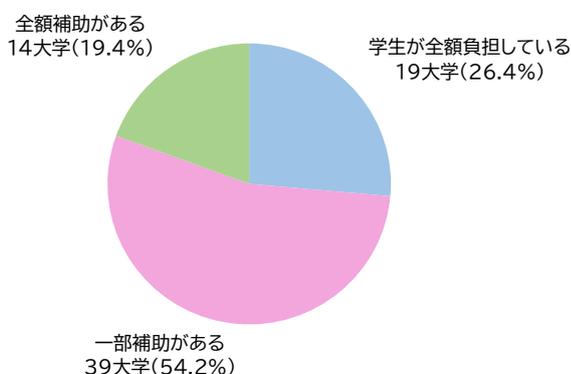
- 選択実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、本学の希望者が【大学名複数記載あり】の地域医療実習に参加できるように協定を結んでいる。
- 医療プロフェッショナリズムの実践Ⅰにおいて、臨床心理学科の学生と合同で地域医療実習を行っている。
- 1.「【都道府県】シームレス地域医療人育成プログラム」は医学科・看護学科合同実習で【都道府県】過疎地域の病院や地域包括支援センターでの現場実習、訪問看護見学、地域連携会議等に参加し、医師・看護師それぞれの視点から地域包括ケアを学ぶ。  
2.「【都道府県】医学生サマーセミナー」は【大学名】医学部地域枠学生と【都道府県】出身の【大学名】医学部生とのワークショップを開催している。
- 看護学科学生は家庭医道場に参加可能。看護学科の教員がスタッフとして参加。EMEの一部(外来つきそい実習、BLS実習)は看護学科と共通プログラムとして共同で実施している。
- 地域医療包括ケアシステム実習。
- 【大学名】離島医療研究所の離島実習に参加。
- 医学科、看護学科合同による「医学・医療概論」の講義を実施している。
- 保健学科学生との合同の症例を用いた講義を行っている。  
【大学名】医学部医学科の、【都道府県】での地域医療実習希望の学生と、本学の学生と一緒に約12日間の実習を行っている。
- ・保健学科とは、上記実習⑤にて参加希望者を募っている。・【大学名】とは、上記実習①にて、数年に一回交流している。
- 歯学部:【島】コースで原則5日間(月～金)の離島医療・地域保健・福祉実習を行う。保健・福祉実習は医学部と一部薬学部と共修を行う。  
薬学部:【島】コース、【島】コースで実施し、(1)医療実習:保険薬局と病院で実習し、地域医療における薬剤師の活動や離島医療を学ぶ、(2)福祉実習:社会福祉協議会で実習し、介護保険制度や介護サービスについて学ぶ、(3)保健実習:県・市・町の保健行政施設で実習し、各々の活動内容や役割について学ぶ。保健・福祉実習は医学部と一部歯学部と共修を行う。  
保健学科:医学科必須科目の「医と社会」において、新入生の医療人としてのマインドセット及びキャリアパスに関する講義や、歯学部及び薬学部の学生を交えて「医学ゼミ」のほか、学内外医療施設の見学を含め1～2年次の間に複数の講義で共修を行う。  
他大学:原則的に【島複数記載あり】コースで実施し、5日間以上の離島医療・地域保健実習が望ましいが、相談の上調整する。実習施設は、地域医療に必要とされる医療・保健・福祉ネットワーク、中核病院と診療所とのネットワークが学べるよう、相談の上選択する。  
【大学名】の医・歯・薬学部共修を行っているほか、他大学(【大学名複数記載あり】)とも連携し、離島での実習生を受け入れている。

## 問8-1 交通費は誰がどのように負担していますか。

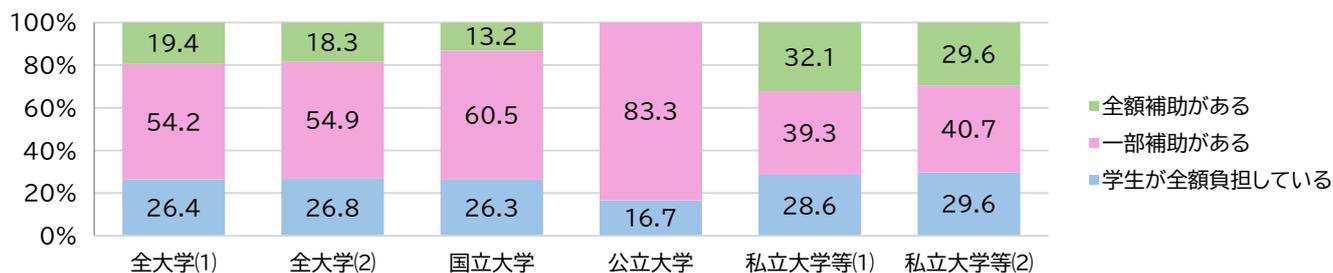
	全大学(1) (72 大学)		全大学(2) (71 大学)		国立大学 (38 大学)		公立大学 (6 大学)		私立大学等(1) (28 大学)		私立大学等(2) (27 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
学生が全額負担している	19	26.4	19	26.8	10	26.3	1	16.7	8	28.6	8	29.6
一部補助がある	39	54.2	39	54.9	23	60.5	5	83.3	11	39.3	11	40.7
全額補助がある	14	19.4	13	18.3	5	13.2	0	0	9	32.1	8	29.6

※集計対象は「問5実習がある」と回答した大学を母数として算出しています。

交通費補助の状況  
全大学(1)(72大学)



交通費補助の状況



地域医療実習がある 72 大学中、一部補助があるが 39 大学(54.2%)と最も多く、学生が全額負担しているが 19 大学(26.4%)であった。14 大学(19.4%)で全額補助があり、国公立大学より私立大学等で高い傾向にあった。交通費負担に関する自由記載では、県や地方自治体からの補助、医学部後援会からの補助、基金や寄付金の活用、実習先からの提供など様々な対応があげられており、実習プログラムごとに補助の程度が比較的大き異なる実態が認められた。

## 問8-2 交通費の負担についての自由記載

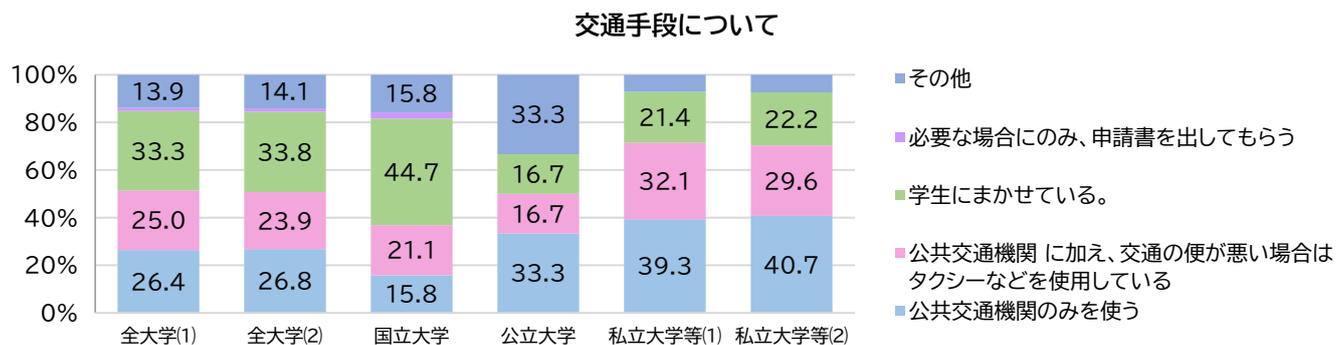
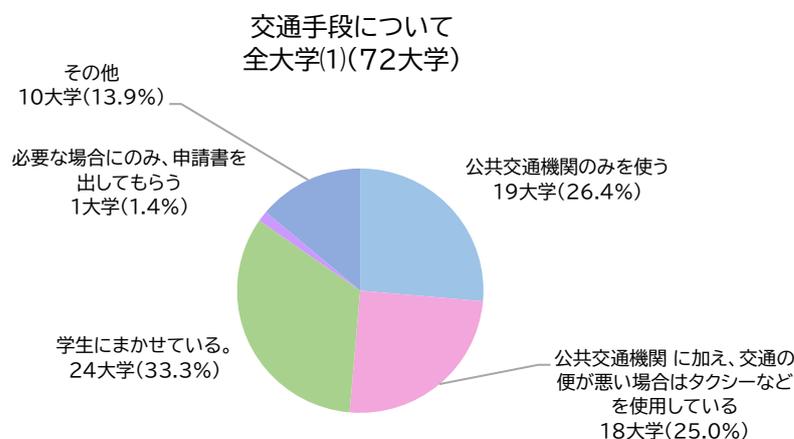
- 補助者：【都道府県】(指定施設)、大学(その他施設)。  
補助のルール：地域により規定額を補助。
- 補助者①：地方自治体(【都道府県】) 補助のルール①：医学部生のみ対象 金額①：最大400万円。  
補助者②：大学後援会 補助のルール②：後援会加入者のみ 金額②：学生一人あたり1.5万円(宿泊費含む)。
- 別添「【大学名】学外実習経費支給要項」に基づき支給している。
- 1年生の被災地体験実習は寄付講座の資金から賄っている。5、6年生の実習は実習先の病院が負担するところもあり、また一律で大学の後援会から五千元支給されている。
- 1年生は、【市区町村】内は自分で公共機関であるが、【市区町村】外は、地区を合わせてジャンボタクシーで送迎している。(すなわち1年生は、一部、補助(タクシー分))。  
5、6年生は原則として公共機関で移動で全学学生負担。
- 県の補助金を活用し、大学と地域(【市区町村】内を除く)医療機関との間の交通について、貸し切りバスやタクシーを手配している。現金支給はしていない。
- 実習① 貸切バスは大学予算。タクシーについては、後援会(保護者で組織する団体)が補助。  
実習② 実習先が負担。  
実習③、④ 後援会が公共交通機関利用の場合、補助している。
- 【市区町村】寄付講座の予算にて、往復のタクシー代を支払っている。他は自己負担。
- 大学の規定により支給している。
- 交通費は交通機関利用時に学生が立て替え支払いし、後日大学にて清算する。(大学が全額負担)。
- チーム医療実習では、遠方で実習を行う学生に対して交通費の一部補助を実施している。補助者：後援会、ルール：片道30km以上 金額：1,000円/日他の実習では、補助を行っていない。
- 3,000円までは学生の自己負担。超えた分に関しては大学が補助。
- 希望者には5万円の奨学金を渡し、その中で交通費を工面してもらう。
- 最寄り駅の【駅名】、もしくは、【駅名】から実習先までを大学が支給している。
- 上限3万円まで大学が負担している。
- 臨床実習での必修化の場合は、遠隔地(新幹線を利用)の実習先の場合は大学が補助している。
- 原則自己負担遠方の場合は一部大学が負担する場合がある。
- 公共交通機関を利用した場合のみ、後日申請により支払う。
- 実習地域までの移動は各自に任せている(自家用車/公共の交通機関)。実習圏内では大学が用意したタクシーやバスチケットなどを用いて実習先に伺うようにしている。
- 第1学年「医療福祉体験実習」：全額負担している。  
第5学年「地域医療学」：全額負担している。  
第5学年「学外臨床実習」：【都道府県】以外…半額負担している。
- 必修の実習については、学生の自己負担となっている。  
希望者参加の在宅医療体験実習については実習参加費の名目で交通費を補助金から負担している。
- 【回答】1、3  
原則として交通費は学生の全額負担となるが、一部の施設については交通費の補助を行っている。  
(初期体験実習では、遠方の1施設についてのみ、医学科の後援会から交通費の補助を行っている。)
- 3年次の基礎自主研修にかかる交通費については、大学が派遣先に到達するための最も合理的かつ経済的な経路・方法により算出した交通費を支給している。
- 大学を起点とした交通費の全額補助。
- 大学～実習先の交通費のうち片道1,000円を上限として大学が補助している。
- 市町村振興協会交付金(地域医療教育に関する事業契約を締結)を活用している。実費分の補助。
- 問5に記載の実習のうち①早期体験学習、②全人的医療体験学習、③地域医療体験実習Ⅰ及び④臨床実習(診療所実習)については、学外団体である医学部医学科後援会が交通費補助(※全額又は一部。実習により異なる。)を行っている。補助のルール、金額等については、別添「交通費等補助金申請書(【大学名】医学部医学科・看護学科後援会)」のうち備考欄を参照されたい。
- 一部の限られた病院のみ交通費が病院から、金額の上限なく補助されるが、それ以外は全学学生負担である。
- 大学にて乗車券等を購入し、学生に支給している。
- 学生に実習先までの公共交通機関を使用した際の交通費を全額補助している。
- 地域医療特別演習において、原則として以下のとおり。  
・1年、3年：【往路】大学負担(タクシー)、【復路】自己負担。  
・6年：学生自ら設定する実習プログラムのため、都度判断する。
- 公共交通機関がない場合のみ、タクシー利用を認め、大学が負担している。

- 遠方の実習施設については、施設の最寄りの駅までの往復交通費を大学で負担している。(切符支給)  
人数多数の場合は大学でバスを借り上げ、送迎を行っている。
- 補助者: 大学  
ルール: 公共交通機関を利用した学生のみ1往復分の利用金額を支給。
- 出発点を大学とし、その医療機関までの移動費用(公共交通機関、自家用車)を補助している。また、宿泊先から実習先までの距離が5kmを超える場合は、宿泊先から実習先までの往復移動費用も補助している。
- 離島医療体験実習については【施設名】【都道府県】支部が旅費を全額支援している。それ以外の地域医療体験実習については学生が全額負担している。
- 公共交通機関を利用した場合の金額を大学が全額支給している。ただし、交通事情を鑑み、一部、学外実習医療機関のご厚意により、実習指導費に含めた形で送迎して頂いている。
- 原則学生の全額負担であるが、新幹線を利用しないと行けない病院がありその場合のみ一部交通費を補助している。
- 1年次、①医学入門の高齢者介護施設実習だけはタクシーによる移動で行い、タクシー代は医学部が全額負担している。  
②社会医学課題実習、③地域医療実習に関しては学生負担。
- 寄附講座の研究費から支出している。
- プログラムごとに学生の負担条件は異なる。
- ①EMEでは、公共交通機関、自家用車。バイクのガソリン代の実費負担。②PC/地域医療実習は自家用車の移動としており、定額3,000円/人の補助をおこなっている。③学外実習は補助なし。④家庭医道場、⑤【医療道場名】は全額補助。⑥総合内科実習は補助なし。
- M3のプログラムでは自己負担。  
M6のプログラムでは大学負担。
- 大学規定の交通費を学生へ支出。
- 後援会より交通費を補助している。公共交通機関を利用する場合、最も低廉な額を補助する。また、自家用車を利用する場合は1キロにつき10円補助する。
- 学外実習先のプログラムによって異なる。主に公共交通機関(新幹線、バスなど)にかかる費用が補助されている。補助が無いものもある。
- 地域によって一部補助を行っている市町村があり、学生が自ら申請することになっている。
- 学生負担は、交通費・宿泊費を含めて1人1000~9000円(地域によって異なる)。  
その他は、大学基金で負担。
- ・上記実習①③に関しては、内容の必要性・重要性から、交通費はほぼ大学予算で施行している。  
・上記実習⑤は、予算がかなり減額されたため、参加人数を減らした。(②④に関しては学生自費)。
- 学生からの申請により、大学から全額補助を行う。
- ②【市区町村】が負担している。③一部大学負担(チャーターしたバス)、一部学生負担(電車代)。
- 4年次1月から5年次12月までの1年間で実施する「臨床実習」では、離島の医療機関や地域医療施設等での実習が必須であることから、大学が学生の交通費の全額を負担している(財源は【都道府県】からの支援)。原則として、事前に乗車券やタクシーチケットが事務部で配布される。  
また、5年次1月から6年次7月までの半年で実施する「高次臨床実習」では、学生が実習先を選択するため、全額学生が負担している。

### 問8-3 交通手段は、どのようにしていますか。

	全大学(1) (72 大学)		全大学(2) (71 大学)		国立大学 (38 大学)		公立大学 (6 大学)		私立大学等(1) (28 大学)		私立大学等(2) (27 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
公共交通機関のみを使う	19	26.4	19	26.8	6	15.8	2	33.3	11	39.3	11	40.7
公共交通機関に加え、 交通の便が悪い場合は タクシーなどを使用している	18	25.0	17	23.9	8	21.1	1	16.7	9	32.1	8	29.6
学生にまかせている。	24	33.3	24	33.8	17	44.7	1	16.7	6	21.4	6	22.2
必要な場合にのみ、 申請書を出してもらう	1	1.4	1	1.4	1	2.6	0	0	0	0	0	0
その他	10	13.9	10	14.1	6	15.8	2	33.3	2	7.1	2	7.4

※集計対象は「問5実習がある」と回答した大学を母数として算出しています。



「公共交通機関のみを使う」大学が 19 大学 (26.4%) で、「公共交通機関に加え、交通の便が悪い場合はタクシーなどを使用している」大学が 18 大学 (25.0%) であった。また、24 大学 (33.3%) では交通手段を学生にまかせていた。交通手段に関する自由記載では、公共交通機関やタクシーによる移動の他に、貸し切りバスやジャンボタクシー等を利用している大学があったが、自家用車 (大学・個人) を利用している等の記載もあった。自家用車を利用する場合は、「申請によって許可している」「十分に安全に配慮する」「自己責任」等、取扱いについては大学によって多様であった。

## 問8-4 交通手段についての自由記載

- 実習地域ごとにバスを借り上げ、学生・引率教員が大学から一緒に移動する。実習人数が少ない地域の場合には、公共交通機関に加え、交通の便が悪い場合はタクシーを使用している。
- 実習先に事前に相談するよう学生に通知している。
- 1年生は、【市区町村】内は自分で公共機関であるが、【市区町村】外は、地区を合わせてジャンボタクシーで送迎している。5、6年生は原則として公共機関で移動。
- 遠方の実習先に関しては、実習の開始時と終了時に、大学と地域医療機関の間を貸し切りバスやタクシーを手配している。【市区町村】内については、公共交通機関を使うように指導している。
- 実習① 多数の学生が実習を行う遠方の施設については、貸切バス。その他の施設は鉄道、タクシーを利用。  
実習② 実習先が交通手段を確保。  
実習③、④ 公共交通機関を推奨しているが、へき地等での実習もあるため、学生に任せている。
- 公共交通機関を推奨しているが、半数は自家用車を利用している現状がある。
- 大学の規定による。
- 大学から公共交通機関(電車)を使用し、交通の便が悪い場合にタクシーを使用している。
- 公共交通機関に加え、交通の便が悪い場合にはタクシー、申請によっては自家用車の利用を許可している。
- 在来線、バス、新幹線(距離に応じて)など。
- バス、電車、地下鉄。
- 圏域内の移動に関してはバスチケットを渡すなどしている。公共の交通機関が乏しい場所に合ってはタクシーチケットを用意して、大学側が用意したタクシーに乗って移動するなどしている。
- 原則公共交通機関であるが、公共交通機関では時間的に通うことが出来ない等の場合には、届出書を提出のうえ、自家用車で通うことも認めている。
- 第1学年「医療福祉体験実習」:全額負担している。  
第5学年「地域医療学」:全額負担している。  
第5学年「学外臨床実習」:【都道府県】以外・・・職員旅費規程に準じて片道分の交通費を支給する。
- 基本的が公共交通機関を用いるよう指導しているが、本県は公共交通機関が充実しておらず、自家用車で往復を認めざるを得ない状況である。
- 原則として公共交通機関を使用することとしているが、一部の実習施設においては、自家用車の使用が許可されており、その場合、申請書等を提出させることとしている。
- 学生からの希望に応じ、実習用通学定期券の申請をとりまとめ、各交通機関に送付しています。
- 基本的には公共交通機関を利用するようにしているが、高学年の実習施設で交通の便が悪い場合は自家用車を利用している。
- 公共交通機関の利用を原則とするが、公共交通機関がない地域や時間帯に通学する必要がある等のやむを得ない場合、また実習施設からの指示があった場合等は、タクシー利用を許可している。なお、問5に記載の実習のうち②全人的医療体験学習及び④臨床実習(診療所実習)については、同様の条件下で、自家用車の利用も許可している。
- 公共交通機関に加え、実習先の最寄りの駅から病院までは、本学の現地職員が車で送迎をしている。
- 学生に、実習施設までの交通費を提出させている。
- 地域医療特別演習において、原則として以下のとおり。  
・1年、3年:【往路】タクシー移動、【復路】公共交通機関。  
・6年:学生自ら設定する実習プログラムのため、都度判断する。
- へき地の実習先においては、事前に交通経路について確認し、公共交通機関がない場合のみタクシー利用を許可している。
- 基本的には公共交通機関の利用を原則としているが、僻地などの場合は自家用車の利用を認めている。(自己責任のもと)
- 公共交通機関に加え、交通の便が悪い場合は自家用車利用も認めている。
- 自転車での通いが可能な施設もある。また、施設近辺の実家・親戚のお宅から通う・送迎してもらうというケースもある。
- ①医学入門はタクシーによる移動で行っている。事前にタクシーチケットを学生に配布している。  
②社会医学課題実習、③地域医療実習は公共交通機関を使うように勧めているが、最終的には学生にまかせている。
- 原則は公共交通機関であり、無理な場合は個別に相談して決めている。
- 全員で移動の場合はバス等を大学で用意する。  
学生が個別に直接地域連携病院に実習に行く場合の交通手段は学生にまかせている。
- ①EMEでは、公共交通機関、自家用車・バイクの使用を認めている(実習先により異なる)。実費について学生からの請求に基づき支給する。②PC/地域医療実習は自家用車を前提としており、定額3,000円/人の補助をグループに支給し、グループ内で負担に応じて按分している。④家庭医道場、⑤【地域名】医療道場は、大学でバスを手配しているので、学生の負担はない。
- 離島実習では、島内の移動用にマイクロバスを手配した。
- なるべく公共交通機関の利用を推奨しているが、不便な場所も多いので、自家用車で行く場合は十分安全に配慮するよう伝えている。

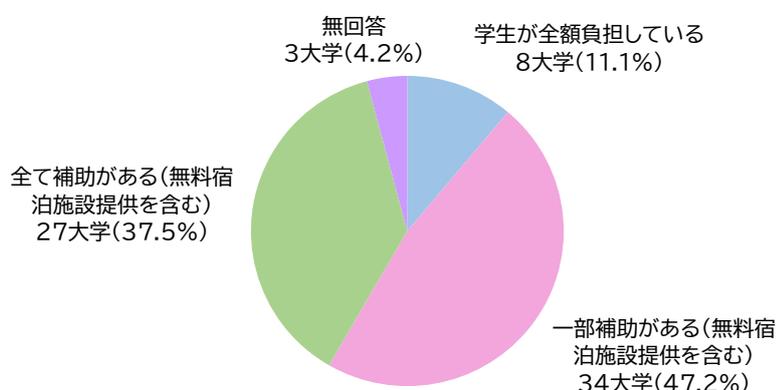
- 学外実習先のプログラムによって異なる。
- 基本的には学生の自家用車で実習病院まで行くようにしている。
- 交通手段は学生に任せている。
- ・上記実習①③に関しては、大学事務で予約し、ほぼ公共交通機関。  
・上記実習⑤は、主に学生に計画させている。
- 基本的に公共交通機関での移動とするが、交通の便が悪い場合はタクシーを使用させる。
- ②貸切バスを手配 ③5【都道府県】エリアへは貸し切りバス、その他は公共交通機関のみ。
- 実習地には公共交通機関で移動するが、止むを得ない理由により他の交通手段が取られた場合には、その差額を学生が負担することとなっている。

問8-5 宿泊を伴う場合、宿泊費は誰がどのように負担していますか。

	全大学(1) (72大学)		全大学(2) (71大学)		国立大学 (38大学)		公立大学 (6大学)		私立大学等(1) (28大学)		私立大学等(2) (27大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
学生が全額負担している	8	11.1	8	11.3	1	2.6	2	33.3	5	17.9	5	18.5
一部補助がある (無料宿泊施設提供を含む)	34	47.2	34	47.9	20	52.6	3	50.0	11	39.3	11	40.7
全て補助がある (無料宿泊施設提供を含む)	27	37.5	26	36.6	16	42.1	1	16.7	10	35.7	9	33.3
無回答	3	4.2	3	4.2	1	2.6	0	0.0	2	7.1	2	7.4

※集計対象は「問5実習がある」と回答した大学を母数として算出しています。

宿泊費補助の状況  
全大学(1)(72大学)



宿泊費補助の状況



一部補助がある(無料宿泊施設提供を含む)大学が最も多く34大学(47.2%)で、次いで全て補助がある(無料宿泊施設提供を含む)大学が27大学(34.5%)であり、8割以上の大学で何らかの補助が用意されていた。しかし、8大学(11.1%)では学生が全額負担しており、公立大学で多い傾向があった。

宿泊費に関する自由記載では、自治体や医学部後援会からの補助・寄付金を活用して宿泊費を確保している大学がある一方、複数の大学で実習施設にある無料宿泊施設(院内宿泊室や医師宿舎など)を利用していた。

## 問8-6 宿泊費の負担についての自由記載

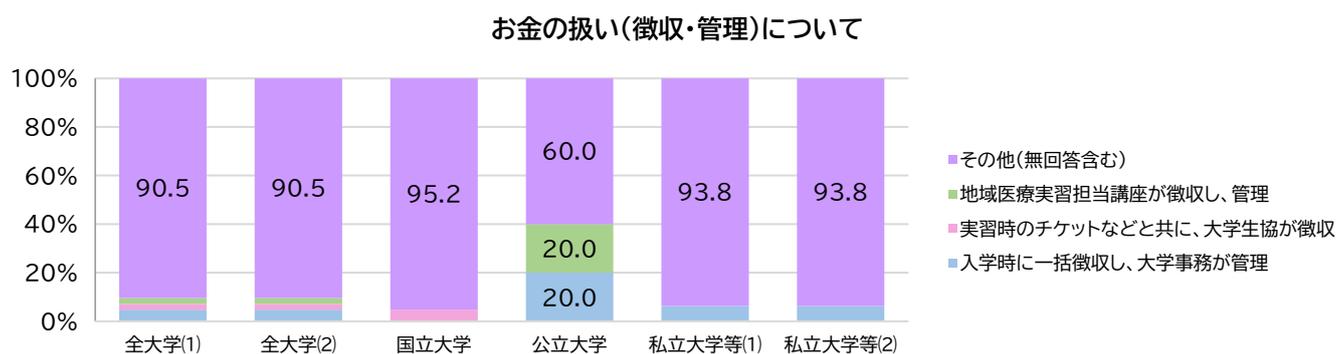
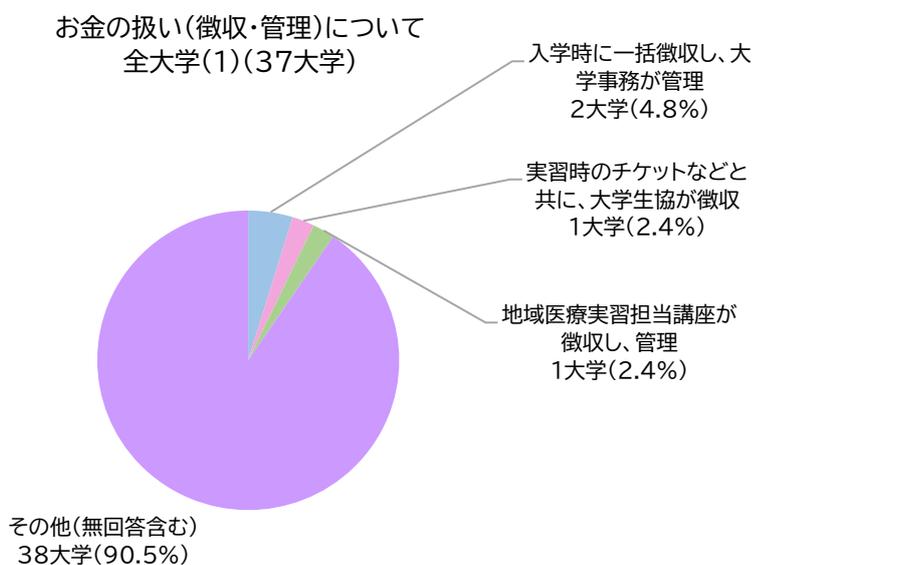
- 補助者:【都道府県】(指定施設)、大学(その他施設)。  
補助のルール:宿泊費 1 施設上限 4 万円まで(要領収書)。
- 補助者:大学後援会 補助のルール:後援会加入者のみ 金額:学生一人あたり 1.5 万円(交通費含む)。  
実習地域によっては、無料宿泊施設の提供あり。
- 別添「【大学名】学外実習経費支給要項」に基づき支給している。
- 実習先病院で無料宿泊施設を用意している。無料宿泊施設がない場合は、寄付金でまかなっている。
- 実習先の病院によって、宿所提供、ホテル代提供がある。
- 5、6 年生の実習において宿泊が必要となっている。この部分は、【都道府県】が予算化して、学生一人の 1 日宿泊料の上限を設けて、宿泊費として(規定上、大学ではなく)各病院に振り込んでいただいている。病院は、旅館やホテル、アパートにかかる年間の宿泊経費をこれを使って補填している。
- 県の補助金を活用し、宿泊は大学と契約したホテルに宿泊する。
- 実習① 宿泊なし。  
実習② 実習先が負担。  
実習③、④ 後援会が 1 泊 3 千円が上限として宿泊費を補助している。
- 施設により、無料宿泊施設、リネン代のみ自己負担、2500 円の一部宿泊代支払いなど様々。
- 大学の規定により支給している。
- 宿泊費は学生が立て替え支払いし、後日領収書にて大学が清算する。(大学が全額負担)。
- 大学からの宿泊補助はなし。臨床実習(選択)は 2 週間から 4 週間のプログラムであるため、実習施設によっては院内の宿泊施設の手配や、近隣宿泊施設の宿泊費の一部負担を提供して下さるところもある。
- 無料宿泊施設提供施設のみ利用。有料である場合には実習費として大学が支払う。それ以外は学生が負担。1 週間を超えない実習に関しては、基本的には公共交通機関で通える実習場所に配属している。
- 全国数か所の診療所や病院に派遣しており、派遣先で提供される場合に利用する(実費負担の場合もあり)。
- 先方の寮や宿泊施設がある場合には利用。自身で予約する場合には 8,000 円まで大学が補助し、超えた分については自己負担。
- 研修医用の宿舎などに空きがある場合には、使わせていただいている。一部、有料の場合もある。
- 基本的には、大学側が負担するが、実習先によっては、リネンやベッドなどのレンタル用品にかかる費用を学生が支払っている。
- 上限 3 万円まで大学が負担している(交通費も含む)。
- 臨床実習での必修化の場合は大学が補助し、選択科の場合は学生が負担している。
- 現状として、宿泊を伴う実習は実施していない。
- 宿泊に関しては全額補助があり、大学側が負担している。
- 宿泊施設を提供してくれる病院へ実習に行っている。
- 第 1 学年「医療福祉体験実習」:遠方の施設を全額負担している。  
第 5 学年「地域医療学」:全額負担している。  
第 5 学年「学外臨床実習」:遠方の施設について、実習施設から宿泊施設の提供がない場合、職員旅費規程に準じて 1 泊につき 7,800 円を限度として宿泊費を実費支給する。
- 実習先への移動が困難な遠方については、医師当直室等の施設を無料で提供していただいている。
- 一部では実習先の職員寮を無償で利用させてもらっているが、それ以外の宿泊については大学が予約をとり指定した宿泊先に宿泊させている。
- 【回答】1、3  
<テューリアル選択配属(地域配属実習)>  
一部の施設については、医学科の後援会から宿泊費を全額補助している。  
<選択臨床実習>  
実習先によっては、無料の宿泊施設(近隣のホテル、宿舎等)が受入れ機関から提供される。また、総合診療部門と提携して実施された地域医療実習においては、総合診療部門より宿泊費の全額補助があった。  
<夏季体験実習>  
実習病院内に宿泊施設がある場合は無償で提供を受けている。施設外の宿泊施設のあっせんを受ける場合は全額自己負担となっている。
- ⑥臨床実習Ⅱにおいては、実習施設側が希望者に対して、無料で宿泊施設を提供している(一部有料<1 日あたり、1000 円~1500 円学生負担>の施設もある)。
- 実習機関の受入条件により、研修医、スタッフ宿舎などを提供いただけるケースもあります。
- 大学が全額補助を行っている。概ね片道 3 時間以上の場合、宿泊許可としている。
- 宿泊費用の補助はないが、実習先に宿泊設備があれば無料で利用する。

- 市町村振興協会交付金(地域医療教育に関する事業契約を締結)を活用している。  
上限額を定め、超えた場合は学生の自己負担としている。
- 問5に記載の実習のうち②全人的医療体験学習及び④臨床実習(診療所実習)については、学外団体である医学部医学科後援会による宿泊費補助(※1泊あたり上限5,000円。)を行っている。補助のルール等については、別添「交通費等補助金申請書(【大学名】医学部医学科・看護学科後援会)」のうち備考欄を参照されたい。
- 宿泊施設を持っている病院については無料あるいは比較的安価な一定料金(一泊1,000円程度)で提供されるが、そのような病院は限られており、大多数の病院では学生が全学負担している。
- 各受け入れ病院の方針に任せている。
- 宿泊施設から大学に請求があり、大学が全額負担している。
- 学内の宿泊支給規則に従って支出している。ただし、実質費用の支払いを原則としている。
- 地域医療特別演習において、原則として以下のとおり。
  - ・1年、3年:全て大学負担。
  - ・6年:学生自ら設定する実習プログラムのため、都度判断する。
- 宿泊費を大学または市町村が負担している。
- 実習において宿泊を伴う場合については、宿泊費を大学で全額負担している。
- 補助者:大学  
ルール:実習先周辺に実家等の宿泊できる場所がなく、事前に宿泊申請手続きをした学生にのみ補助。(キャンセルした場合は自己負担)。
- 地域医療体験実習・・・本学の旅費規定に基づき支出、地域医療実習・・・宿泊先は本学が手配し、宿泊費のみ(駐車料金、食事代は不支給)翌月支払っている。
- 施設によって異なる。学生が全額負担する施設もあれば、施設側が負担して下さる施設もある。
- 学外実習医療機関のご厚意により、大学から支払われる実習指導費に含めた形で宿泊施設をご提供頂いている。
- 病院内の宿泊室あるいは空いている医師宿舎を利用することで無料としている。
- 実習先が宿泊施設を手配している。光熱費は後援会費で支出している。
- ほとんどは無料宿泊施設であるが、費用が発生する場合は寄附講座の研究費から支出している。
- 一部の実習病院より無料の宿泊施設の提供を受けている。
- 宿泊費の負担はプログラムにより本人負担と大学負担の場合がある。
- 宿泊は、②、③、⑥の一部、④、⑤の全部。②は宿泊施設(素泊まり料金のみ)もしくは無料宿泊提供、③、⑥は無料宿泊提供(遠方の1病院のみ)、④、⑤は1泊2食付の宿泊料金を補助(学生自己負担2,000円)を除く。
- 実習を受け入れている施設が負担している。
- 宿泊費用は施設の提供を受けているが、光熱費は自己負担。
- 実習先近隣の宿泊施設を大学にて事前に確保している。
- 1日当たり5,000円を上限に補助している。
- 学外実習先のプログラムによって異なる。実習先が宿泊施設を有する場合や、近隣のホテルを手配するなどがあり、宿泊費も全額補助から補助無しまで様々である。
- 学生が負担することはないです。実習病院が大学の謝金から支払う場合(ビジネスホテルや旅館)、それを地域医療学センターが補助する場合、様々です。
- できるだけ無料の施設に依頼している。
- 学生負担は、交通費・宿泊費を含めて1人1000~9000円(地域によって異なる)。  
その他は、【病院名】で負担。
- ・上記実習①③に関しては、内容の必要性・重要性から、宿泊費はほぼ大学予算で施行している。  
・上記実習⑤は、予算がかなり減額されたため、参加人数を減らした。
- 大学が宿を手配し、支払いも行う。
- ③大学の補助を用いて一部学生負担としている。
- 上記5年次及び6年次の臨床実習では、大学が宿泊費全額を補助するか、あるいは実習施設が宿泊施設を提供している。

問8-7 実習費用について、学生が全部・一部負担している場合、お金の扱い(徴収・管理)について教えてください。

	全大学(1) (42 大学)		全大学(2) (42 大学)		国立大学 (21 大学)		公立大学 (5 大学)		私立大学等(1) (16 大学)		私立大学等(2) (16 大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
入学時に一括徴収し、 大学事務が管理	2	4.8	2	4.8	0	0	1	20.0	1	6.3	1	6.3
実習時のチケットなどと 共に、大学生協が徴収	1	2.4	1	2.4	1	4.8	0	0	0	0	0	0
地域医療実習担当講座が 徴収し、管理	1	2.4	1	2.4	0	0	1	20.0	0	0	0	0
その他(無回答含む)	38	90.5	38	90.5	20	95.2	3	60.0	15	93.8	15	93.8

※集計対象は「問8-3学生が全学負担、または一部補助がある」と回答した大学を母数として算出しています。



その他の回答が最も多かったが、一部の大学では計画的・組織的に徴収・管理されていた。自由記載では、学生が私金立替後に大学に請求する制度を有する大学が多い一方、学生が費用を負担し、実習費用の管理に大学は関与していないとの記載もみられた。

## 問8-8 学生が全部・一部負担しているお金の扱いについての自由記載

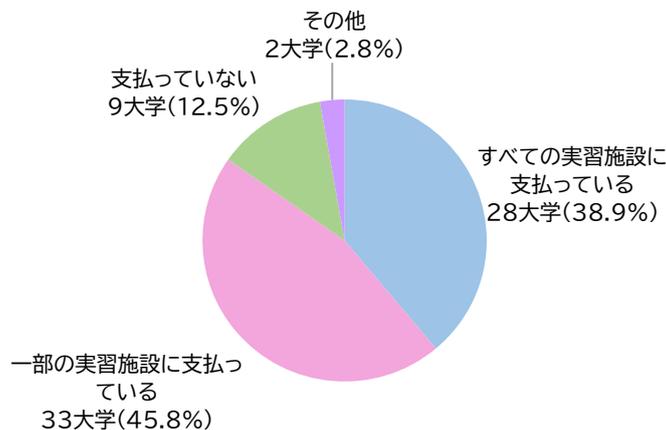
- 学生が立替払し、後日大学に請求。
- 地域医療実習担当部門が実習前に徴収し、当該部門にて管理。実習中は徴収した費用から実習引率教員が会計を行う。
- 外部の旅行会社に、宿泊施設及び交通チケットを手配する業務を委託している。  
別添「【大学名】学外実習経費支給要項」に規定する支給経費以外の費用や支給経費を超える費用が発生した場合は自己負担としている。
- 大学は管理していない。
- 学生が必要な出費を自分で賄っている。特に管理はしていない。
- 1年生の【市区町村】内と、5、6年生の実習の往復の交通費は、公共機関が原則で、学生負担となっている。したがって行先によっては、この学生によって差が出る。
- 入学時に後援会の会費として、一括徴収。
- 大学は関与しない。
- 交通費は交通機関利用時に学生が立て替え支払いし、後日清算する。
- 学生が負担する分について、大学では徴収・管理していない。
- 学生が実習費用の領収証を大学に提出し、後日大学が支払う。
- 上記プログラムによっても異なる。学費として徴収している実験実習料から負担するプログラムもあれば、学生が負担するプログラムもある。
- 宿泊費を含む旅費など費用については、学生が自己負担かつ管理することとなっている。
- 大学負担分以外は学生に委ねている。
- 学生が都度立て替えて支払い後、大学が指定の口座へ振り込み。
- 負担していない。
- 実習後、出席状況に応じて、電車代などを推進センターで計算し、学務課に提出し、大学事務から学生本人に支給している。
- 学事課(事務)で管理している。
- 大学として徴収していない。
- 原則として学生本人が実習施設へ支払う。
- 学生に任せている。
- 学生に任せている。大学では管理していない。
- 大学入学時に一括して徴収している。地域医療実習だけでなく OSCE や CBT としての費用にも捻出されている。
- 交通費は学生が各自で支払い(各自で切符等購入)。
- 本学負担分に関しては、学生から領収書を預かり、手続き等を行っている。
- 該当するものがございません。
- 交通費については在宅医療体験実習以外の実習は、自己責任としている。
- 実習費用(宿泊費等)を学生が負担する場合、本人が実習先に直接支払いを行っている。
- 大学では特に管理していない。
- 大学では特に管理していない。
- 基礎自主研修の交通費、実習謝金については【市区町村】および【組織名】の寄附により設置された地域医療学寄附講座の寄附金で支出している。その他の実習における実習費用は、交通費等は学生の自己負担、実習謝金等は事務が学生から実費として徴収し施設に支払を行っている。
- 実習病院として協定している病院での実習について全額大学負担である。  
協定病院以外の病院での実習を学生が希望した場合には費用は学生負担である。
- 特に管理していない。
- 各実習において学生の自己負担費用(※交通費、宿泊費等。)が発生する場合は、その都度、現場において本人の実費支払としており、あらかじめ本学が徴収・管理することはない。
- 特に管理していない。
- 大学では特に管理していない。
- 実習費用の学生負担については、交通費の負担のみ。  
大学では特に管理していない、学生個人に任せている。
- 実習費用(交通費)については全額学生が負担している。  
ただし、へき地の実習先においては、事前に交通経路について確認し公共交通機関がない場合のみタクシー利用を許可し、費用を大学が負担している。
- 交通費や宿泊費で、大学からの支給範囲を超える場合は学生自身が支払っている。特に学生から徴収はしていない。
- 学生自身が管理しており、講座は関わっていない。
- 交通費の負担だけであるが、本人が交通機関利用時に自分で払っている。

- 実習費用は当該施設が負担している。(実習費用に学生負担はない)
- 学生負担はありません。
- 交通費については、学生がその都度支払っている。
- 交通費や宿泊費が発生する場合、学生本人が現地等で支払い、全部又は一部負担額を後から学生に旅費等として支給する。
- 参加申し込み時もしくは当日に徴収している。公費負担ができないものの清算に充当している。
- 大学として徴収・管理はしていない。
- 本人負担分については、実習先で本人が直接支払っている。
- 実習費として別に徴収していない。
- 学生が一時的に負担、支払いを行い、後日、後援会より支援している。
- 学外実習先と学生との管理としている。
- 交通費(ガソリン代)は学生の手払い。
- 市町村から補助がある場合、学生が交通費や宿泊費を一旦、自己負担し、後で市町村から振り込みされる仕組みとなっている。
- 各実習毎に異なる。(実習①では 3)
- ③医学部教務課で徴収、管理。
- 大学が補助すべき実習費用を学生が負担した場合、一時的に私金立替えしたのち、大学に立替払い請求し、現金で払い戻しを受ける。

問8-9 学外の実習施設に対して、大学から実習費や謝金等の経費を支出していますか。

	全大学(1) (72大学)		全大学(2) (71大学)		国立大学 (38大学)		公立大学 (6大学)		私立大学等(1) (28大学)		私立大学等(2) (27大学)	
	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)	大学数	割合(%)
すべての実習施設に支払っている	28	38.9	27	38.0	18	47.4	1	16.7	9	32.1	8	29.6
一部の実習施設に支払っている	33	45.8	33	46.5	18	47.4	3	50.0	12	42.9	12	44.4
支払っていない	9	12.5	9	12.7	2	5.3	2	33.3	5	17.9	5	18.5
その他	2	2.8	2	2.8	0	0	0	0	2	7.1	2	7.4

実習費や謝金等の経費支出の有無  
全大学(1)(72大学)



実習費や謝金等の経費支出の有無



一部の実習施設に支払っているが33大学(45.8%)と最も多く、すべての実習施設に支払っているが28大学(38.9%)であった。また、9大学(12.5%)で支払っておらず、公立大学で高い傾向にあった。  
経費支出に関する自由記載では、大学の規定に基づいて実習経費を支払っている、日数・時間・人数に応じて支払っている、実習先施設からの請求に基づき支払っている等の回答が多かった。

## 問8-10 実習費や謝金等の経費支出についての自由記載

- 実習時間・学生人数に応じて、実習施設へ謝金を支出している。(謝金辞退申出施設を除く)
- 早期体験実習Ⅱ(インタビュー形式による各施設への訪問)以外は、実習施設に謝金等を支出している。
- 実習を受け入れた施設に対して、規定に基づいて支払い(1日800円)を行なっている。
- 限られた予算を、毎年、実習を依頼する学生の人数と期間で割って全体で分配している。
- 以前は支出していたが、予算確保も困難であり、実習先の医療機関のご好意で、実習費や謝金の支出は無くなった。
- 5-6年次総合診療科/医療概論Ⅴの実習施設には大学の規定による実習経費を支払っている。
- 大学の規定により支給している。
- 実習後、後日施設に対し謝礼を振り込んでいる。
- 外部施設への実習謝金に関する申し合わせに基づき支出している。実習生1人/1日あたりで算出する実習と、実習人数に関わらず時間単価により算出する実習がある。
- 施設からの請求に応じて支払っている。
- 経費の支出は上記プログラムによって異なり、大学から経費を支出するプログラムもあれば、学生が経費を支出するプログラムもある。また、原則として契約・協定等に基づき支払いを行うが、各実習施設の方針等により実習費・謝金等を受取らない施設もあり、その場合は当該学外施設の方針に従う。
- 学生一人当たり一日@5,000円を限度に、支払っている。
- 実習先施設からの請求に基づき支払い。
- できるだけ実習費の必要のない施設をお願いしているが、施設の管理者などによっては、払わざるを得ない。
- 6年生の実習のみ、謝金を支払っている。推進センターから実習費請求書を各施設に郵送し、必要事項を記入してもらう。返送後、請求額を学務から振り込む。
- 実習施設からの請求により支払っている。
- 協定に基づいて負担している。
- 各施設に何時間、何人見てもらっているかを調べて、医学生一人1時間あたりの単価が決まっており、それに従って謝金を支払っている。また単価はその年の総額を払うべき単価で割って決まっているため、年々単価が下がっていく傾向にある。
- 病院からの請求に基づき支払いを行っている。
- 第1学年「医療福祉体験実習」:学生一人当たり一日1,000円。
- 謝金について実習時間/日で単価を定め、実習施設からの実績報告に基づき、謝金を支払っている。
- 必修の実習については、大学から支出。  
選択実習については、県からの補助金で支出している。
- 【初期体験実習】  
学外の施設に対して、20,000円の謝金を支払っている。
- 【地域体験実習】  
謝金の支払いは行っていない。
- 【チュートリアル選択配属(地域配属実習)】  
謝金の支払いは行っていない。
- 【選択臨床実習】  
謝金の支払いは行っていない。
- 【夏季体験実習】  
謝金の支払いは行っていない。
- ②医学概論Ⅱでは、訪問介護・看護ステーションに対して、学生1名あたり1000円を支払っている。
- 受入人数に応じて謝金を支払っています。
- 基本的には学生から実習費として実費徴収し、各実習施設に支払を行っている。
- 1人5,000円/週を基本としているが、受け入れ施設に規定された料金を支払っている。  
辞退される施設には支払いを行っていない。
- クリニック等一部の实習施設に対して、年間実習時間に応じ、大学で定めた単価に基づいて支払っている。
- 原則として、「1.すべての実習施設」に対して本学が実習謝金を支払っているが、謝金受取りを辞退する意向があった実習施設等に対しては支払っていない。なお、実習謝金額の算定方法については、実習謝金の単価及び計算式を定め、実習時間・日数・グループ数を変数として、施設ごとに金額を算定し支払うこととしている。
- 各実習施設に実習費等の要否を確認しており、必要な施設のみ支払いを行っている。
- 大学の定めた金額を受け入れ施設にお支払いしているが、受け入れ先に、規定がある場合はその規定金額を支払っている。
- ただし、6年のみ学生自ら設定する実習プログラムのため、都度判断する。
- 実習施設と大学間にて契約書を取り交わし、契約書に沿って実習施設が発行する請求書を元に実習費の支払いを行う。
- 請求を基に支払い。

- 【大学名】の謝金基準額表に基づき支払っている。年間の実習時間、50 時間未満 70,000 円。50 時間以上 100 時間未満 105,000 円。100 時間以上 140,000 円。
- 学生1日1人当たり 3,000 円を謝金として支払っている。
- 学務から実習施設に支払っているとのことである。
- 5 年生の臨床実習 I 地域医療については大学から一律に支払っている。地域枠学生向けの実習については支払っていない。
- 実際に実習を行った日数・時間・人数を基に算出した謝金を支払っている。
- 実習先施設に謝金として実習の実施経費を支出している(しない場合もある)。
- 謝金の受け取りについて実習先の意向を確認し、実習指導時間に応じて支払う。(⑤は謝金なし)
- 大学から謝金をお支払いしている。
- 1グループにつき、1時間当たり1,000円を支払っている。  
なお、国立病院は先方の規定に基づき支払っている。
- 学生 1 人あたり一律の謝金を支払っている。
- 1,000 円~2,000 円/時間/人数のルールで支払っている。
- 希望する全ての実習施設に対して、謝金を支払っている。
- 実習修了後、施設ごとにまとめて大学から支払いをしている。(口座振込)  
総時間数×実習謝金単価(1時間あたり)。  
※実習謝金単価は、当該年度の予算配分額を事業計画書提出時点での総実習予定時間数で除した額を基準とする。
- 学生一人一日当たり 800 円(実習②③のみ)。
- 謝礼として現金や図書券で支払っている。
- ③学外の施設には実習費を支出している。
- 運営費交付金と県の補助金から、実習の実績に応じてすべての実習施設に対して謝金が支払われている。

## 問8-11 地域医療教育部門の教員の学外教育プログラムへのかかわり

- 学生の学外実習先の調整など。
- 地域医療教育部門の教員は、学外実習施設での実習内容について打ち合わせを行い、実習引率を行っている。
- 実習で定める一般目標、行動目標を示し、それが実現できる実習プログラムを、各施設に個別に組んでもらっている。
- 学外実習機関への訪問・視察、学内で例年実施している学外実習機関との打ち合わせ会における説明、学外実習の内容検討。
- 被災地体験実習は、コーディネートをしてくれる先生と相談しながら実施している。5年生の地域医療実習は、教育目標・実施していただきたい実習内容を作成し提供している。6年生の実習は受け入れ先に実習の内容に関して相談しながら進めている。
- 1年生実習を中心に受け入れ可能人数や内容を調整している。5年6年の方では、診療参加型臨床実習についてなど、依頼したり質問を受け付け対応している。
- 4年次の地域医療学における地域医療施設の体験学習では、医療政策学講座の教員が同行している。また、事前のオリエンテーションおよび講義も担当している。
- 地域・家庭医療学講座が主体となって実施する実習において、学生の引率や協力医療機関との調整を行っている。
- 地域医療教育部門の教員の約半数が、大学と地域医療機関の半々の勤務形態となっており、現場で各々の施設の実習プログラムを現地スタッフと連携してプランニングし、直接実習生の指導を行っている。
- 【都道府県】ワークショップにてオブザーバーとして参加している。
- 実習プログラムの確認、実習中の各種問い合わせの対応(学生の問題行動への対応を含む)。
- 実習施設の選定、情報交換、学生指導、低学年では評価は学内教員が実施。
- 該当教員なし。
- 診療所や病院を実習中に訪問(ラウンド)する。また実習に先だって、ガイダンスや地域医療やプライマリ・ケアに関するレクチャーを行う。実習後の発表の指導や評価も行っている。
- 実習先医療機関の調整。学生及び実習先医療機関へのアンケート調査の実施と、アンケート結果の集計・フィードバック等。
- 実習内容と方法について、実習先施設の教育担当者との打ち合わせを行っている。(但し基本的には先方提供の教育プログラムに委ねている)。
- 施設のコーディネート、年に数施設には実際に足を運んで意見交換している。
- FD、交流会を行い、親睦、情報交換に努める。直接、実習先の担当者に会い、交渉を行う。
- 地域医療教育のための診療所等との連携のため、本学の教育内容やハラスメント等に関するFDを現地あるいは本学で行ったり、メディアを介して行っている。
- 地域医療先の指導担当者への研修・交流会(FD)を開催している。
- 【都道府県】地域医療支援センター運営委員会委員。  
【都道府県】地域医療支援センター運営委員会協力員。
- 学外での教育プログラムには関わっていない。
- 学外医療機関の診療補助をするという形で現地の医療にも関わっている。またそれにより現地の負担を軽減すると共に、医学生実習の受け入れのハードルを低くしている。
- 学外での教育プログラムの立案、評価に関わっている。
- 教育プログラムの見直しや実習先との調整、実習先の先生へのFDを担当。
- テュートリアル選択配属(地域配属実習)については、協力施設の指導者と協力して「Booklet」を作成し、カリキュラムを共同で策定している。また、中間登校日を設定して実習の進捗状況を確認するとともに、実習施設に教育職員が外向いて、実際の実習を見学し、適宜アドバイス等を行っている。その他の実習については、直接教育を担当していないが、課外の夏季体験実習については、受け入れ施設との間で受け入れ態勢の準備や実際のコーディネートなどを地域医療教育部門の教育職員が担当している。
- 臨床実習においては、地域家庭医療学講座の教員が、実習先の選定、実習内容の検討等の地域家庭医療実習の全体の統括を行っている。
- 6年生学外臨床実習7週間に3名の教員が交代で出向き、カルテチェック、診察指導などを行っています。
- 学外病院、学外実習施設との連絡・調整を行っている。
- 地域医療実習施設のコーディネートや担当者との打ち合わせを行っている。また、実習施設から実習中に連絡があった場合の対処を行っている。
- 教育内容の立案、およびその内容に関する実習先への通知、実習施設の選定、学生のポートフォリオへのフィードバック、実習前の準備教育および実習後のまとめ。
- 第1-2学年の地域基盤型保健医療実習では、教育センター教員が同行している。学外病院での臨床実習では、学内各診療科の委員が、学外指導医と密に連絡している。  
第4-5学年の家庭医療学クリニカルクラークシップ、第6学年の家庭医療長期地域実習では、地域医療学講座の教員が各病院での学生指導を行っている。
- 学外における各実習について、実施統括責任教員として関わっており、それぞれの教育プログラム内容の計画・改善や、実習実施に際する重要事項等に係る実習協力施設等との協議を担当している。

- 学外施設との連絡調整、学外施設で実施される実習内容の依頼および調整、ならびに学外施設訪問および実習プログラムに係る協議を行っている。
- 地域医療教育部門ではないが医学教育センター教員が主となり、各実習の受入れ先施設や実施日程、引率教員等の調整を行っている。
- 派遣先の確保や報告会の参加等に協力してもらっている。
- プログラムの立案、調整等。
- 正規カリキュラム外の企画ではあるが、毎年、家庭医療や総合診療にモチベーションの高い学生 5-6 名を連れて、【海外大学名】・【海外大学名】へ視察に行っている。この際、地域医療学講座の教官が 1-2 名随行している。
- 地域医療体験実習では、実習後、報告会を開催し、実習の成果を発表する。臨床実習では、地域医療実習が終わる 11 月に、各地域に赴き、地域医療教育連絡会を実施し、各医療機関の先生方と意見交換を行っている。
- 地域医療人材育成講座の【教授名】は【市区町村】診療所でも診療を行っており、実習中は熱く指導を行っている。それ以外の教員についても、外勤の際に実習に来た学生に指導を行っている。また、学生は実習中、その日の振り返りを e ポートフォリオに毎日記入しており、地域医療教育部門の教員がコメントを返している。
- 学外実習医療機関での実習内容については、各実習機関に一任しているため、特に関わっていない。
- 5 年生の臨床実習 I 地域医療については実習最終日に教員が現地に行き、外来実習と振り返りを行っている。地域卒向けの実習では教員が現地の見回りおよび最終日の発表会の取り仕切りをしている。
- 学外教育プログラムにおいて、実習施設の決定や内容の調整などを管理しており、一部の施設では指導に直接関わっている。
- 学外実習時のオリエンテーション・医療技術(血圧測定など)の指導及び実習後の報告会、意見交換を行っている。
- 【都道府県】及び県内の地域病院等との教育プログラム実施についてのコーディネーター等。
- 毎回ではないが、先方に出向いての指導。④、⑤は現地まで引率し、先方の指導医と協力して指導。
- プログラムの作成ならびに学外実習施設との意見交換を行っている。
- 当該実習「地域医療体験」の総括。
- 企画、立案から全般的に関わっている。
- プログラムによって異なるが、プログラムの立案作業、実施の準備、コーディネーター等に主に関わっている場合が多い。地域での実際の教育・指導・評価は実習先に任せる場合が多い。尚、評価に関しては振り返り等にて関わるようにしている。
- 地域に出すまでのオリエンテーション、発表会には関わっていますが、地域での実習は地域の指導医にすべて任せています。我々が実習先に同行することはありません。
- 一部の実習施設には、週1回訪問し、直接、学生指導を行っている。その他の施設で実習を行っている学生については、Web を利用し、週1回指導を行っている。
- 学外指導者に対し、毎年 FD を直接当該施設に出向いて行っている。また、一部の施設では、教員が学生に同行し、内容の確認などを行っている。
- 実習③⑤にて、実習地域別の担当教員として関与している。
- 学外での教育プログラムの作成・実習施設との連絡を行っている。
- ③プログラムの立案、学外依頼施設への交渉、訪問および書面依頼、契約、ロジスティクスの整理、評価表記載の依頼、回収、評価など計画立案から実施、評価まで全て。
- 臨床実習開始時の全体オリエンテーションと実習直前のオリエンテーション、実習プログラムの管理、実習後の振り返り、年 4 回の FD の企画及び開催・運営を行っている。

## 問9 その他、補足事項およびご意見

- 新しいモデル・コア・カリキュラムにおいて、学外医療機関での実習に多くの獲得目標が設定されたが、FDも含めた地域医療機関における教育者の確保・養成に苦慮している。
- 地域医療実習がともすれば、大学外の地域医療機関の見学に留まっていることもある様に思われる。重要なことは地域医療の視点であり、それは介護や福祉関係との連携を学ぶことにあると思う。また多職種との接点を強く実感できる現場を見せるような実習を心がけてきた。主治医意見書を全員に書かせたり、クラスインスクールなどについても実施してきた。地域医療教育の質がより高まることを念じている。
- 本学に地域医療教育を担当している部門(講座)はございません。  
選択実習のうち地域医療実習を希望する学生は、各地域の病院に直接コンタクトをとり、実習先を決定しています。
- 地域医療教育では、とくに大学病院外の地域の医療機関での実習が不可欠だと思う。しかし、学生の交通費や宿泊費の予算的保障がなく、自己負担にせざるえない。少し遠隔地や郡部の医療機関の場合、毎日通うのは不合理であり、どうしても宿泊が必要となる。学生からは正規カリキュラムで自己負担が発生することに不満を持つものが多く、取り扱いに難渋している。実習の予算措置についてよいアイデアがあれば、教えていただきたい。
- 【大学名】の必修の「離島・地域医療実習」は4週間の必修として行われ、【島】の離島や、【半島】のへき地などに12日間滞在するプログラムを含んでいる。旅費・宿泊費・食費など非常に費用がかかるが、こうした地域は地域医療を包括的に学べる優れた教育フィールドであり、【都道府県】の医療の特徴でもあるために必須なものと考えている。この費用について、寄付講座などを通じて自治体が負担する地域もあるが、通常の大学の講座の場合、自治体の補助を得ることが難しい。これに対し、強く国から費用負担の指導が出来ないか、検討いただきたい。
- 本学は、今年度は3年生までの在籍であり、これまでの3年間で行ってきた実績を基に記載しました。ただし臨床実習は、2020年度に初めて実施予定であり、その中で、地域医療実習を行う予定ですが、既にプログラム計画等全体の実施の一部を行っており、実施例として記載しました。
- ・地域枠1～3年生を対象(必修)に、【都道府県】の地域医療について理解を深めることを目的とした能動学習プログラムとして、地域医療に関連したテーマでワークショップ等を企画し、毎年10月に活動報告会を開催している。平成28年度からは本活動報告会に【都道府県】内の臨床研修病院の医師に参加してもらい、県内地域医療の理解と地域医療に従事するモチベーションを高める取組を行っている。

## 地域医療教育に関する実態調査(令和元年度)

2020年(令和2年)1月10日  
全国地域医療教育協議会

- ・個々の大学名・個人名を公表することはありません。
- ・集計結果をまとめて報告書を作成し、回答頂いた各大学に送付させていただきます。

回答担当者	
大学名	所属
職	氏名
連絡先	
TEL	
メール	

以下の設問について、はプルダウンメニューから適切な回答を選んでください。  
には直接回答を入力してください。

**集計の都合上、セルの追加・削除などの改変は行わないでください。**

**回答は全て平成31年(2019年)4月末日現在でご記入下さい。**

問1 貴大学に、地域医療教育部門(医学生の地域医療教育を担当する部門)はありますか。

- 回答  1 ある(問2へ)  
 2 ない(問3へ)

問2 地域医療教育部門の設置形態について教えてください。【複数回答可】

※複数の部門がある場合は、主に地域医療教育を担当している部門を①に記入してください。

- ①名称
- 教員数 教授 名 准教授 名 講師 名 助教 名 その他 名  
その他(具体的に: )
- 種別  寄附講座  大学の常置部門  大学の兼任部門  その他()
- ②名称
- 教員数 教授 名 准教授 名 講師 名 助教 名 その他 名  
その他(具体的に: )
- 種別  寄附講座  大学の常置部門  大学の兼任部門  その他()
- ③名称
- 教員数 教授 名 准教授 名 講師 名 助教 名 その他 名  
その他(具体的に: )
- 種別  寄附講座  大学の常置部門  大学の兼任部門  その他()
- ④名称
- 教員数 教授 名 准教授 名 講師 名 助教 名 その他 名  
その他(具体的に: )
- 種別  寄附講座  大学の常置部門  大学の兼任部門  その他()
- ⑤名称
- 教員数 教授 名 准教授 名 講師 名 助教 名 その他 名  
その他(具体的に: )
- 種別  寄附講座  大学の常置部門  大学の兼任部門  その他()

⑥名称

教員数 教授  名 准教授  名 講師  名 助教  名 その他  名

その他(具体的に: )

種別  寄附講座  大学の常置部門  大学の兼任部門  その他(  )

その他(具体的に)

問3 貴大学に、総合診療部門はありますか。

回答  1 ある(問4へ)  
2 ない(問5へ)

問4 総合診療部門の設置形態について教えてください。【複数回答可】

名称

配置数 教授  名 准教授  名 講師  名 助教  名 その他  名

その他(具体的に: )

設置形態  医学部に設置された講座  附属病院の診療部門  その他(  )

種別  専任部門(  学内配置  寄附講座 )  兼任部門  その他(  )

関連施設を含む医師の人数(いわゆる医局員)は何人ですか。

人

上記のうち、専攻医は何人ですか。(各学年の合計人数)

人 (うち地域卒卒業生  人)

内訳 総合診療専攻医  人 内科専攻医  人

その他(  )  人

基幹型施設として、総合診療専門医プログラムを持っていますか。

回答  1 持っている  
2 持っていない

大学病院での業務内容を教えてください。

回答  1 外来診療のみ行っている  
2 病棟診療のみ行っている  
3 外来も病棟診療も行っている  
4 その他(  )

地域医療教育部門との関係について教えてください。

回答  1 別々に業務を行っている  
2 一部共同して業務を行っている  
3 同じ部門として業務を行っている

2または3の場合、具体的な業務分担等について教えてください。

問5 貴学には、地域医療の教育を目的としたプログラムはありますか。

回答  1 ある  
 2 ない

地域医療の教育を目的とした講義や演習は何コマありますか。

1年次  コマ      2年次  コマ      3年次  コマ  
 4年次  コマ      5年次  コマ      6年次  コマ

この中で、地域包括ケアシステムについての教育は行っていますか。

回答  1 行っている  
 2 行っていない

行っている場合、授業の担当者(職種)、時間などについて具体的な内容を教えてください。

地域医療の教育を目的とした実習(長期休暇中のプログラムなども含む)について、記入例を参考に、プログラム別に具体的に教えてください。

※参考:医学教育モデル・コア・カリキュラム p91 G-4-3)地域医療実習

[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961_01.pdf)

(記入例)

学年	プログラム名	内容	日数	備考
1	地域枠学生スプリングセミナー	入学直後の早期に、地域医療の現場を実際に見学し、地域医療の重要性と職種間連携を経験する。	3日	
対象者: 地域枠のみ( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 全学生対象( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 地域枠のみ必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 選択の場合、延べ <input type="text"/> 人/年				
実施 <input type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 病院(学外) <input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 介護施設 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input checked="" type="checkbox"/> リハビリ施設 <input type="checkbox"/> 障害者施設 <input checked="" type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 薬局				
場所 <input type="checkbox"/> 保健所 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村役場 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 保育施設 <input type="checkbox"/> 消防署 <input type="checkbox"/> その他 ( <input type="text"/> )				
職種 <input checked="" type="checkbox"/> 医師 <input checked="" type="checkbox"/> 歯科医師 <input checked="" type="checkbox"/> 看護師 <input checked="" type="checkbox"/> 保健師 <input checked="" type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士				
<input checked="" type="checkbox"/> ケアマネージャー <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー <input checked="" type="checkbox"/> 行政職 <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> 栄養士 <input type="checkbox"/> その他 ( <input type="text"/> )				

①

学年	プログラム名	内容	日数	備考
対象者: 地域枠のみ( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 全学生対象( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 地域枠のみ必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 選択の場合、延べ <input type="text"/> 人/年				
実施 <input type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 病院(学外) <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 介護施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> リハビリ施設 <input type="checkbox"/> 障害者施設 <input type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 薬局				
場所 <input type="checkbox"/> 保健所 <input type="checkbox"/> 市町村役場 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 保育施設 <input type="checkbox"/> 消防署 <input type="checkbox"/> その他 ( <input type="text"/> )				
職種 <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 保健師 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士				
<input type="checkbox"/> ケアマネージャー <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー <input type="checkbox"/> 行政職 <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> 栄養士 <input type="checkbox"/> その他 ( <input type="text"/> )				

②

学年	プログラム名	内容	日数	備考
対象者: 地域枠のみ( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 全学生対象( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 地域枠のみ必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 選択の場合、延べ <input type="text"/> 人/年				
実施 <input type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 病院(学外) <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 介護施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> リハビリ施設 <input type="checkbox"/> 障害者施設 <input type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 薬局				
場所 <input type="checkbox"/> 保健所 <input type="checkbox"/> 市町村役場 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 保育施設 <input type="checkbox"/> 消防署 <input type="checkbox"/> その他 ( <input type="text"/> )				
職種 <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 保健師 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士				
<input type="checkbox"/> ケアマネージャー <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー <input type="checkbox"/> 行政職 <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> 栄養士 <input type="checkbox"/> その他 ( <input type="text"/> )				

③ 学年	プログラム名	内容	日数	備考
対象者：地域枠のみ( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 全学生対象( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 地域枠のみ必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 選択の場合、延べ				人/年
実施	<input type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 病院(学外) <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 介護施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> リハビリ施設 <input type="checkbox"/> 障害者施設 <input type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 薬局			
場所	<input type="checkbox"/> 保健所 <input type="checkbox"/> 市町村役場 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 保育施設 <input type="checkbox"/> 消防署 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 保健師 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士			
	<input type="checkbox"/> ケアマネージャー <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー <input type="checkbox"/> 行政職 <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> 栄養士 <input type="checkbox"/> その他 ( )			

④ 学年	プログラム名	内容	日数	備考
対象者：地域枠のみ( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 全学生対象( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 地域枠のみ必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 選択の場合、延べ				人/年
実施	<input type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 病院(学外) <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 介護施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> リハビリ施設 <input type="checkbox"/> 障害者施設 <input type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 薬局			
場所	<input type="checkbox"/> 保健所 <input type="checkbox"/> 市町村役場 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 保育施設 <input type="checkbox"/> 消防署 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 保健師 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士			
	<input type="checkbox"/> ケアマネージャー <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー <input type="checkbox"/> 行政職 <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> 栄養士 <input type="checkbox"/> その他 ( )			

⑤ 学年	プログラム名	内容	日数	備考
対象者：地域枠のみ( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 全学生対象( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 地域枠のみ必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 選択の場合、延べ				人/年
実施	<input type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 病院(学外) <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 介護施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> リハビリ施設 <input type="checkbox"/> 障害者施設 <input type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 薬局			
場所	<input type="checkbox"/> 保健所 <input type="checkbox"/> 市町村役場 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 保育施設 <input type="checkbox"/> 消防署 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 保健師 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士			
	<input type="checkbox"/> ケアマネージャー <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー <input type="checkbox"/> 行政職 <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> 栄養士 <input type="checkbox"/> その他 ( )			

⑥ 学年	プログラム名	内容	日数	備考
対象者：地域枠のみ( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 全学生対象( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 地域枠のみ必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 選択の場合、延べ				人/年
実施	<input type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 病院(学外) <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 介護施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> リハビリ施設 <input type="checkbox"/> 障害者施設 <input type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 薬局			
場所	<input type="checkbox"/> 保健所 <input type="checkbox"/> 市町村役場 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 保育施設 <input type="checkbox"/> 消防署 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 保健師 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士			
	<input type="checkbox"/> ケアマネージャー <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー <input type="checkbox"/> 行政職 <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> 栄養士 <input type="checkbox"/> その他 ( )			

⑦ 学年	プログラム名	内容	日数	備考
対象者：地域枠のみ( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 全学生対象( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 地域枠のみ必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 選択の場合、延べ				人/年
実施	<input type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 病院(学外) <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 介護施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> リハビリ施設 <input type="checkbox"/> 障害者施設 <input type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 薬局			
場所	<input type="checkbox"/> 保健所 <input type="checkbox"/> 市町村役場 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 保育施設 <input type="checkbox"/> 消防署 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 保健師 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士			
	<input type="checkbox"/> ケアマネージャー <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー <input type="checkbox"/> 行政職 <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> 栄養士 <input type="checkbox"/> その他 ( )			

⑧ 学年	プログラム名	内容	日数	備考
対象者：地域枠のみ( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 全学生対象( <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 地域枠のみ必修 <input type="checkbox"/> 選択 ) 選択の場合、延べ				
実施	<input type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 病院(学外) <input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 介護施設 <input type="checkbox"/> 訪問看護ステーション <input type="checkbox"/> リハビリ施設 <input type="checkbox"/> 障害者施設 <input type="checkbox"/> 在宅 <input type="checkbox"/> 薬局			
場所	<input type="checkbox"/> 保健所 <input type="checkbox"/> 市町村役場 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 保育施設 <input type="checkbox"/> 消防署 <input type="checkbox"/> その他 ( )			
職種	<input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 保健師 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> 理学療法士 <input type="checkbox"/> 作業療法士 <input type="checkbox"/> 言語聴覚士 <input type="checkbox"/> ケアマネージャー <input type="checkbox"/> ソーシャルワーカー <input type="checkbox"/> 行政職 <input type="checkbox"/> ヘルパー <input type="checkbox"/> 栄養士 <input type="checkbox"/> その他 ( )			

※実施場所は、当てはまるものすべてにチェックをつけてください。

上記地域医療教育プログラムの中で、臨床教授制度(または類似の制度)を活用しているものにチェックをつけてください。

講義・演習：	<input type="checkbox"/> 1年次	<input type="checkbox"/> 2年次	<input type="checkbox"/> 3年次	<input type="checkbox"/> 4年次	<input type="checkbox"/> 5年次	<input type="checkbox"/> 6年次	<input type="checkbox"/> その他 ( )		
実習(上記の番号)：	<input type="checkbox"/> ①	<input type="checkbox"/> ②	<input type="checkbox"/> ③	<input type="checkbox"/> ④	<input type="checkbox"/> ⑤	<input type="checkbox"/> ⑥	<input type="checkbox"/> ⑦	<input type="checkbox"/> ⑧	<input type="checkbox"/> その他 ( )

問4で「総合診療部門がある」と回答した大学にお伺いします。上記地域医療教育プログラムの中で、総合診療部門が関わっているものにチェックをつけてください。

講義・演習：	<input type="checkbox"/> 1年次	<input type="checkbox"/> 2年次	<input type="checkbox"/> 3年次	<input type="checkbox"/> 4年次	<input type="checkbox"/> 5年次	<input type="checkbox"/> 6年次	<input type="checkbox"/> その他 ( )		
実習(上記の番号)：	<input type="checkbox"/> ①	<input type="checkbox"/> ②	<input type="checkbox"/> ③	<input type="checkbox"/> ④	<input type="checkbox"/> ⑤	<input type="checkbox"/> ⑥	<input type="checkbox"/> ⑦	<input type="checkbox"/> ⑧	<input type="checkbox"/> その他 ( )

問6 医学生に対する地域医療教育をテーマとしたFD等(意見交換会等を含む)は実施していますか。

- 回答  1 実施している  
 2 実施していない

実施している場合、以下の内容について教えてください。

回数  回/年

対象者(当てはまるものすべてにチェックをしてください)

地域医療機関( <input type="checkbox"/> 代表者 <input type="checkbox"/> 臨床教授等 <input type="checkbox"/> 臨床教授等以外の医師 <input type="checkbox"/> 看護師 <input type="checkbox"/> 薬剤師 <input type="checkbox"/> その他 ( <input type="text"/> )
<input type="checkbox"/> 学内教員 <input type="checkbox"/> 訪問看護師 <input type="checkbox"/> 介護職 <input type="checkbox"/> 行政職 <input type="checkbox"/> その他 ( <input type="text"/> )

実施内容についてお書きください。

問7 医学生を対象とした地域医療教育プログラムについて、他学部・他学科、他大学との連携はありますか。(実習協定など)

- 回答  1 他学部・他学科と実施している (他学部・他学科名: )  
 2 他大学と実施している (他大学・学部・学科名: )  
 3 実施していない

実施している場合、内容について具体的にお書きください。  
(規定等を添付ファイルで送っていただいても結構です)

問8 医学生を対象とした学外での地域医療教育プログラムを導入している大学におたずねします。

交通費は誰がどのように負担していますか。

- 回答
- 1 学生が全額負担している
  - 2 一部補助がある
  - 3 全額補助がある

2または3の場合、補助者、補助のルール、金額等について教えてください。

交通手段は、どのようにしていますか。

- 回答
- 1 公共交通機関のみを使う
  - 2 公共交通機関に加え、交通の便が悪い場合はタクシーなどを使用している
  - 3 学生にまかせている。
  - 4 必要な場合にのみ、申請書を出してもらう
  - 5 その他

具体的な方法について教えてください。

宿泊を伴う場合、宿泊費は誰がどのように負担していますか。

- 回答
- 1 学生が全額負担している
  - 2 一部補助がある(無料宿泊施設提供を含む)
  - 3 全て補助がある(無料宿泊施設提供を含む)

2または3の場合、補助者、補助のルール、金額等について教えてください。

実習費用について、学生が全部・一部負担している場合、お金の扱い(徴収・管理)について教えてください。

- 回答
- 1 入学時に一括徴収し、大学事務が管理
  - 2 実習時のチケットなどと共に、大学生協が徴収
  - 3 地域医療実習担当講座が徴収し、管理
  - 4 その他(下記自由記載欄に詳細をお書きください)

具体的な方法について教えてください。

学外の実習施設に対して、大学から実習費や謝金等の経費を支出していますか。

回答

- 1 すべての実習施設に支払っている
- 2 一部の実習施設に支払っている
- 3 支払っていない
- 4 その他(下記自由記載欄に詳細をお書きください)

具体的な方法について教えてください。

地域医療教育部門の教員がおられる場合、学外での教育プログラムにどのように関わっていますか。具体的にお書きください。

問9 その他、補足事項およびご意見があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。

## あとがき

2011年度と2014年度に引き続き、この度、第3回目の地域医療教育に関する全国調査を行い、報告書を発刊することができました。実施にあたっては文部科学省医学教育課と全国医学部長病院長会議から前回同様に推薦状を出して頂き、調査票の作成にも貴重なアドバイスを賜りました。文部科学省医学教育課と全国医学部長病院長会議をはじめ、ご多忙の中ご回答頂いた方々、そして全国地域医療教育協議会の関係者の皆様には心より御礼を申し上げます。

本調査は2020年1月に開始しましたが、調査と集計に遅れが生じ、その結果、報告書の発刊が遅くなってしまいました。2020年1月といえば、ちょうど中国武漢市で新型コロナウイルス感染症が急速に拡大し、各国が水際対策を強化している時期にあたります。その後、3月から4月にかけて本調査の再依頼を行い、5月以降に各大学に回答内容の問い合わせを行いました。この時期はCOVID-19第1波到来から全国の大学で感染予防対策と授業形態の見直しが進められた時期でした。大学の卒業・入学に関連した通常業務に加え、COVID-19に関する業務が発生したことで、大学関係者には多忙を極められたものと拝察します。こうした中、本調査にご協力して頂き、心より感謝を申し上げます。

本調査の結果、地域医療教育の体制と内容は、これまでの調査と比較してさらに充実してきていることが明らかになりました。地域医療教育を巡る経時的な変化を俯瞰するという意味においても、本調査を継続して実施してきた意義があったと考えます。本報告書を地域医療教育の普及と発展に活用して頂ければ幸いです。

末筆となりまして大変恐縮に存じますが、関係者皆様の今後ますますのご健勝とご発展を祈念しましてあとがきとさせていただきます。

全国地域医療教育協議会 世話人副代表  
井口 清太郎





全国地域医療教育協議会(<http://square.umin.ac.jp/j-come/history.html>)  
(事務局)〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1 自治医科大学地域医療学センター  
TEL:0285-58-7394(ダイヤルイン) FAX:0285-44-0628